特 記 仕 様 書

工事名称　　小西住宅3号棟外壁改修工事

工事場所　　三原市西野四丁目

工事内容　　次のとおり，小西住宅3号棟の改修工事を行う。
・外壁改修工事（アスベスト含有塗材の除去を含む）
・樋改修工事
・防水改修工事

準　則　　公共建築工事標準仕様書（平成31年版），公共建築改修工事標準仕様書（平成31年版），建築物解体工事共通仕様書（平成31年版）に基づき施工する。

関係法令等　　本工事については，次の関係法令その他の規定等に基づき施工すること。
・建築基準法，同施行令，同施行規則
・消防法，同施行令
・建設業法，同施行令，同施行規則
・廃棄物の処理及び清掃に関する法律，同法施行令，同法施行規則
・労働安全衛生法，同法施行令，同法施行規則
・建設工事公衆災害防止対策要綱
・石綿障害予防規則
・大気汚染防止法
・振動規制法
・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律，同施行令
・土壌汚染対策法
・その他関係法令

疑義変更　　本設計図書は，設計の大要を示すものであり，詳細部等について技術的必要事項は明記なくとも完全に施工すること。
施工に際して疑義を生じた場合，または軽微な変更を必要とする場合には，速やかに監督員と協議し，監督員の指示により施工すること。ただし，これらに於いて請負金額の増減はなきものとする。

提出書類　　施工に先立ち，工事工程表，仮設計画図及び監督員の指示する書類を提出し，監督員の承認を受けること。商品名及び製造者名が記載された材料については，当該商品又は同等品を使用するものとし，同等品を使用する場合は，監督員の承諾を受けるものとする。また，設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料を提出して監督員の承諾を受けるものとする。

工　期　　本工事は請負契約締結の後，令和4年2月28日をもって工期とする。このうち検査期間として13日間を見込んでいる。

留意事項　　・行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）に定める行政機関の休日に工事の施工を行わない。ただし，あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は，この限りではない。
・近隣住民等への支障を最小限とするため，騒音，振動及び粉塵等の対策については最大限配慮した施工方法を採用すること。
・粉塵計を設置し常時監視し，地域住民へ十分に配慮のうえ作業を行うこと。

・工事期間中は付近の交通の安全を図ると共に，必要な場合には交通誘導員を配置し事故及び危険防止に努めること。
・交通誘導員について，実施数量が設計数量に満たない場合は設計変更（減額）の対象とする。
・交通誘導員は本工事で見込んでいる。
・周辺道路の保全及び清掃については，常に注意を払い定期的に清掃を行うこと。
工事車両等により周辺の道路を汚した場合は，清掃を行なうこと。
・工事に支障を及ぼす雨水及び湧水等の排水については，ノッチタンクにより汚泥等の処理を行ったうえ，適切に排水すること。
・第三者災害防止及び飛散防止対策のため，必要に応じて監督員の指示する範囲に，バリケード等を設置すること。
・工事に係る電気，水道及び下水道料金等は受注者の負担とする。
・入札に先立ち現地調査を十分に行ない，質疑がある場合は入札前に確認すること。
・施工面積（外構工事含む）が3,000㎡以上の場合，土壌汚染対策法第4条第1項に規定する届け出を工事着手30日前までに所轄官庁へ提出すること。
・石綿含有建材の調査について，工事着手前までに書面及び目視調査を，一般建築物石綿含有建材調査特定建築物石綿含有建材調査者，またはこれらの者と同等以上の能力を有すると認められる者が行うこと。
・また，含有建材の調査結果を工事着手前までに発注者に対し説明を行うこと。
・その他石綿の飛散防止等については，改正大気汚染防止法及び施行令（令和3年4月１日施行）に基づくこと。
・本工事は，住宅の機能を継続しながら実施するものであり，住民等の安全はもとより，丁寧な説明と施工により関係者の理解と協力を得ながら実施すること。
・住民の生活環境に配慮し，各住戸が密閉される期間が長くならないようにするため，アスベストの除去作業は，各棟の各階ごとに工期を区切って順番に除却を行うこと。
・施工箇所周囲の備品，機器等については，養生及び清掃等を確実に行うこと。
・住民の私物に養生や移動を行う場合は，事前に所有者に伝えること。
・広島県工事中情報共有システムを利用すること。なお，本工事にシステム利用料金を見込む。
・雨水の浸入を防止する部分，屋根，外壁又はこれらの開口部に設ける戸，わくその他の建具周り等からの雨水の浸入に関する瑕疵については引渡しの日の翌日から10年間責任を負うこと。
・図面に明示されていない事項であっても，工事上必要とされる事は工事範囲とする。
・工事に伴い各種申請手数料等が発生した場合は受注者の負担とする。
・本工事の外注資材，労務等の調達については，極力，三原市内に主たる営業所を有する業者に発注すること。困難な場合は，あらかじめ，理由を添えて発注者の承認を受けること。
・受注者事務所，休憩所及び便所等は関係法令に従って設けること。
・工事完了後，完成図として製本図面（二つ折り・A3縮小版）を2部提出すること。
・以下の設計図面は，A2版をA3版に縮小している。（縮小率約70.7％）
・施工に入る前に住民説明会を開催し工事の概要を説明すること。

小西住宅３号棟外壁改修工事

図面番号	図　面　名　称	縮　尺
A-01	タイトル、図面リスト	
A-02	建築改修工事特記仕様書（１）	
A-03	建築改修工事特記仕様書（２）	
A-04	建築改修工事特記仕様書（３）	
A-05	建築改修工事特記仕様書（４）	
A-06	建築改修工事特記仕様書（５）	
A-07	外壁改修工事特記仕様書（１）	
A-08	外壁改修工事特記仕様書（２）	
A-09	付近見取図、配置図、工事概要	1/500
A-10	外部仕上表	
A-11	(3-1号棟)　１・２・３階平面図	1/100
A-12	(3-2号棟)　１階平面図	1/100
A-13	(3-2号棟)　２・３・４階平面図	1/100
A-14	(3-1号棟)　北側、西側立面図	1/100
A-15	(3-1号棟)　南側、東側立面図	1/100
A-16	(3-2号棟)　南側、西側立面図	1/100
A-17	(3-2号棟)　北側、西側立面図	1/100
A-18	(3-2号棟) 矩形図	1/30
A-19	階段詳細図	1/30
A-20	建具配置図、建具表	1/200　1/50

図面番号	図　面　名　称	縮　尺
A-21	（物置８・６戸用）平面図、屋根伏図、立面図、側面図	1/50
A-22	（物置４戸用）平面図、屋根伏図、立面図、側面図、断面詳細図	1/50
A-23	隔て板、バルコニー手すり、窓手すり、物干金物、室名札　詳細図	1/20 1/10 1/5
A-24	（自転車置場）平面図，立面図，詳細図	1/100
A-25	仮設計画図（参考図）	1/500

特記事項	訂正事項

一級建築士事務所　広島県知事登録17（１）第0497号

岡 田 建 築 設 計 事 務 所

一級建築士　第102449号　岡田文夫

JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.
	2020.01.		小西住宅３号棟外壁改修工事	A / 01
CH. / PL.	DR.		NAME: タイトル、図面リスト	

図面縮小率
A-2：100%
A-3：71%
A-4：50%

Ⅰ．工 事 概 要

1．工事名称　　小 西 住 宅 3 号 棟 外 壁 改 修 工 事　 仕 様 書
2．工事場所　　三原市西野四丁目
3．敷地面積
4．構造規模　　3-1号棟　鉄筋コンクリート造３階建て　延べ面積433.88㎡
　　3-2号棟　鉄筋コンクリート造４階建て　延べ面積1,150.13㎡
5．工事種目　　外壁改修工事
6．別途工事　　無し
7．調査協力について
本工事は工事中及び竣工後、次の調査を行うため、発注者より連絡があれば対応すること。
（1）公共事業労務費調査…工事中に実施（調査票等の配入提出、発注者の調査実施への協力等）
（2）完成債務事後調査（第１次調査）…引渡後概ね６ヶ月後
（3）完成債務事後調査（第２次調査）…引渡後概ね１年目頃
（4）かし担保保険…該当工事請負契約款第４１条に定める期間内

8．公衆災害防止措置
（1）工事に際し、工事関係者以外の第三者の生命、身体及び財産の危険、並びに通路を防止するために必要な措置をとること
（2）上記について、「建設工事公衆災害防止対策要綱（令和元年９月２日付　建設事務次官通知）」に基づき実施すること

9．現状復旧
工事に際し、施設建物等に損傷を与えた場合は、速やかに現状復旧を行うこと

１０．主要資材等
（1）主要資材を調入しようとする場合は、総力三原市内に営業所・本店を有する業者に発注するものとし、予め調入先の名称所在地及び資材名等を発注者に通知するものとする
（2）当該工事に使用する砂については、海砂（洗外塩を含む）を使用しないこと
（3）この工事の施工に際し、やむを得ず工事の一部（主体的部分を除く）を第三者に請け負わせようとする場合は、原則として三原市内に主たる営業所・本店を有する業者に発注するものとする

Ⅱ．建築改修工事仕様
1．国営及び特別会計建築物に該当していない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成３１年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）による。
国営、本特記仕様書及び改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編（平成３１年版）」以下、「標準仕様書」という。）による。
2．特記仕様
（1）消防は各号に○印のついたものを適用する
（2）特記事項は○印のついたものを適用する
　○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する
　○印と ◎ 印のついた場合は共に適用する
（3）項目に記載（　　）の内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（　　）の内表示各号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（4）工事施工上必要な官公署その他への諸手続き及び届出は、全て発注者の指示に従って遅滞無く行うこと
（5）関係法令の改正等により（条例を含む）、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等について、監督員と協議すること。

章	節	項　目	特　記　事　項
① 既存建築等	1	適用基準等	○公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）　国土交通省大臣官房官庁営繕部整修（最新版） ○建築工事標準詳細図　国土交通省官房官庁営繕部監修（最新版） ◎特記工事公衆災害防止対策要綱　◎建設現場適正処理実施要領（広島県土木局制定） ◎特記工事安全施工技術指針　○再生資源利用促進実施要領（広島県土木局制定） ○石綿障害予防規則
	2	電気保安技術者 ［1．3．3］	※適用する
③		工事実績情報の登録 ［1．1．4］	受注者は、受注時又は変更時において請負金額が５００万円以上の工事について、工事実績情報サービス（ＣＯＲＩＮＳ）に基づき、受注、変更、竣工、訂正時に工事実績情報として「工事実績データ」を作成し、監督員の確認を受けた後に登録機関に登録申請し、登録機関発行の「登録内容確認書」を監督員に提出しなければならない。また、途中変更時の登録が必要な場合とは、工期の変更、技術者の変更があった場合とする。
④		施工条件 ［1．3．5］	下記以外は現場説明書による。 ◎施工時間帯　　（※指定あり　　） ・建設副産物の施工順序　（※別示　・　　） ◎工事車両の駐車場所　（※図示　◎　監督員と協議の上決定） ◎現場材置場　　（※別示　◎　監督員と協議の上決定） ・建設発生土仮置場　（※別示　・　　）
⑤		工事安全計画書	建築工事安全施工技術指針及び建設公衆災害防止対策要綱を参考に、工事安全計画書を監督員に提出する。
⑥		発生材の処理等 ［1．3．12］	・引渡しを要するもの（　　） ◎特別管理産業廃棄物（アスベスト　　） 処理方法（提定処分　　） ・現場において再利用を図るもの（　　） ・汚生資源化を図るもの ・コンクリート塊　・アスファルトコンクリート塊　・建設発生木材 ・PCB含有シーリング材の処理 ・第一次判定 現場にてサンプルを採取し、シーリング材届及び分析の要否を判定する。 採取箇所数　計　箇所 採取箇所　※図示 ・第二次判定 専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う。 分析数数　計　箇所 ・除去処理工事 除去範囲　※図示 ・せっこうボードの処理 ・石綿含有せっこうボード　改修特記仕様書第８章環境配慮改修工による ・ひ素・カドミウム含有せっこうボード ・製造業者に回収委託 ・埋立処分（管理型廃棄処分場） ・石綿含有、ひ素・カドミウム含有以外のせっこうボード ・再生資源化（再資源化施設）　・最終処分（管理型最終処分場） （1）本工事で発生した建設廃棄物は、広島県（環境局長等）及び保健所設置総令市等（広島市、呉市、福山市）が施策物処理法に基づき許可した適正な施設（許可対象とならない中間処理施設にあっては、廃棄物処理法に定められた基準に従った適正な施設）で処理すること。ただし、建設現場内で破砕等（選別を含む）により利用物となった場合、その所法に応じて適切に処理すること（設則、県内処分） （2）本工事における再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は、戦記（１）に掲げる施設のうち受入れ条件が合うものの中から、運搬費と受入れ費（半日の受入れ費用）の合計が最も経済的になるものを見込べている。従って、正当な理由がある場合を除き、再資源化に要する費用（単価）は変更しない （3）本工事で発生する建設廃棄物のうち、広島県内の島嶼処分場に搬入する建設廃棄物については、広島県産業廃棄物埋立処分課協議のもで適正に処理すること。なお、広島県産業廃棄物埋立取は見込べている

① 既存建築等

7	建設発生土	※場外指示の場所に処分　・場外搬出道路処理　・場内指示の場所に敷き均し ・場内指示の場所に埋設 ・当該工事により発生する建設発生土は、「建設発生土処分先一覧表」に掲載されている施設のいずれかに搬出するものとする。また搬出先として　運搬業と受入業（平日の受入費用）の合計が最も経済的になる建設発生土リサイクルプラント又は建設発生土受入地（一四場現を含む）を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き残土処分に要する費用は変更しない。なお、工事発注後に明らかになった中止を伴ない事情により、上記の仕様に拘り難い場合は、監督員と協議するものとする
⑧	環境への配慮 ［1．4．1］	化学物質を放散させる建築材料等 本工事の建物内側に使用する建築材料等は、設計図書に規定する品質及び性能を有すると共に、次の（1）から（4）を満たすものとする （1）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質材料、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する （2）接着剤及び塗料にトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する （3）接着剤は、可取剤（フタル酸ジ－ハーブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含まない難揮発性の可取剤を除く）が添加されていない材料を使用する （4）（1）の材料を使用して作られた家具、畳類、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、関係分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。 ①建築基準法施行令第２０条の第７項１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド表示建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第２０条の第７項４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③建築基準法施行令第２０条の第７項１項に定める第三種ホルムアルデヒド使用建築材料 ④建築基準法施行令第２０条の第７項３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成１２年法律第１００号）に基づき制定された「広島県グリーン調入方針」に掲載されている品目については、物の特記事項及び設figure表記の範囲内で、環境負荷を低減できる材料を優先的に選定するよう別のるものとする
⑨	材料の品質等 ［1．4．2～5］	材料・機材等の品質及び性能 （1）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする （2）調達時に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督員の承諾を受ける。 （3）建築仕様書に記載されていない特殊な材料の工法については、本特記事項の指定する工法とする （4）本工事に使用する材料のうち、（5）に指定する材料の製品実名等は、次の①～⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し）を監督員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合はこの限りではない ①品質及び性能に関する試験データを整備していること ②生産設備及び品質管理を適切に行っていること ③安定的な供給が可能であること ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること ⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。 （5）製造業者等に関する資料の提出を定める材料 床型枠用鋼製デッキプレート　　オーバーヘッドドア 鉄骨柱下無収縮モルタル　　防水剤 無収縮グラウト材　　現場乳剤断熱材 吃水材種材　　フリーアクセスフロア 既成調合モルタル　　可動間仕切 ルーフドレン　　移動間仕切 吸水防音材　　トイレブース アルミニウム製建具　　煙突用成形ライニング材 鋼製建具　　天井点検口 鋼製軽量建具　　床点検口 ステンレス製建具　　グレーチング 型枠鋼　　屋上時化システム クローゼット類　　トップライト 自動扉機構　　エポキシ樹脂 自閉式上吊り引戸機構　　ポリマーセメントモルタル 重量シャッター　　既成調合目地材 軽量シャッター　　鋳鉄製ふた
⑩	特別な材料の工法	標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品等の指定工法による
⑪	施工監督調査 ［1．5．2］	調査範囲　※外壁（底、笠木共）・屋根　・関示 調査方法　※テストハンマーによる打撃及び目視　・関示 外壁調査は、外壁改修フローに対応する外壁面のひび割れ、浮き、欠損部、内部まで異通したひび割れ及び雨漏りの有無についての位置及び数量（幅、長さ、面積）の調査を行う 屋根調査は西存の防水膜、シーリング材充填形、とい、笠木等及び下地の劣化状況を確認する。 また、その報告書は、結果を立面図等に記載し実状査を添えて監督員に２部提出する（必要に応じ写真等を添付する） 補修方法　※図示 補修範囲　※図示
⑫	顕査のための経環境分の補修 ［1．5．3］	
⑬	技能士 ［1．6．2］	技能検定職種 / 技能検定作業 ・外壁改修工事 / ◎左官 / ・左官作業 ◎塗装 / ・建築塗装作業 ・内装改修工事 / ・左官 / ・左官作業 ・塗装 / ・建築塗装作業 ・塗装改修工事 / ・塗装 / ・建築塗装作業 ・防水改修工事 / ・防水施工 / ・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・ＦＲＰ防水工事作業

① 既存建築等

14	化学物質の濃度測定 ［1．6．9］	（1）図示した室のホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・スチレン・エチルベンゼンの室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督員に報告する 測定要所は仕上表に従い、適工方法は施工条件明示による パッシブ型採取機器を用いて測定を行う場合には、次の要領で測定及び分析を行う ①３０分間放気 測定対象室のすべての窓及び扉（窓りせけ家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む）を開放し、３０分間放気する ②５時間閉鎖 ①の後、測定対象室のすべての窓及び扉を５時間閉鎖する ただし、通り抜け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする ③測定 イ　②の状態のまま測定する ロ　測定時間は、原則として２４時間とする。ただし工程等の都合により、２４時間測定が行えない場合は、８時間測定とする。なお、８時間測定の場合は、午後２時～３時が測定時間帯の中央となるよう、１０時３０分～１８時３０分までの時間帯で調定する ハ　測定器数は１回とし、複数回の測定は不要とする ④分析 測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する ⑤その他 監督員から指定方法に関する注意事項等の指示を受けること （2）木材の防腐・防蟻処理剤は、クロルピリホス、ダイアノジン及びフェノブカルブを含有しない薬剤とし、加圧式防腐・防蟻処理等は工場で行い十分乾燥させた後現場に搬入する （3）保温材、断熱材、緩衝材については、ホルムアルデヒドを発散しないか発散が極めて少ないＦ☆☆☆☆等級のものとする （4）塗料、塗装、仕上塗材、合板、接着剤等で屋内に使用するものについては、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないＦ☆☆☆☆等級のものとする （5）屋内に用いる材料は、上記（２）～（４）に適合したもので、揮発性有機化合物の発散が無い若しくは極めて少ないものを選択するように努め、（１）の規定を満たすこと
15	中間技術検査 ［1．7．2］	※行う（回数及び時期については監督員の指示による）　・行わない
16	工事写真等	下記のものを監督員に提出する。工事中写真の撮影は「営繕工事写真作成要領」によるものとする （1）工程写真 工事の進捗に伴い工事全体状況及び主要工種の写真（カラー・サービス版）を請関次工事工程報告書に添付するものとする （2）工事中写真 木中又は地下に埋設される部分、その他完成後外部から確認・検査・検査する事が出来ないなる部分、及びその他監督員が指示する箇所は、Ａ４版写真を情（カラー・サービス版）にまとめて完成後竣日までに１部請出するものとする （3）完成写真 【撮影箇所】建物外観各方向、主要部所、主要室内その他監督員が指示する箇所 【表紙・建法製表】※Ａ４版クリアファイル　部　・Ａ４版写真台帳　　部 （カラー・キャビネ版以上、表紙・背表紙に監督員の指示により工事名称等を印字すること） 【完成写真の撮影要電】・監督員の承諾する撮影業者 （4）その他の写真 建設建物等に被覆のおそれがある場合は、施工前・施工後の写真（カラー・キャビネ版）を監督員の指示により提出するものとする （5）保管 工事写真のネガ・データは、受注者において工事完成後２年間保管すること
17	完成図の提出図書	※提出を要する　完成図書：１部 完成図の種類（※全て　・　） 作成方法　CAD（ＣＡＤデータの提出（※要　・不要）） 原図　・看通紙　※トレーシングペーパー　◎ 不要 完成図　二つ折製本（・Ａ１版　部　・Ａ２版　部　・Ａ３版　２部） 完成図は該則として頂図に不修正を行い、施工図・保全に関する資料で必要なものの提出は監督員の指示による なお、１８　電子納品で対象工事である場合は、加えて電子成果品を　２部提出すること ・型式台帳 型式台帳は、監督員が指定する様式で作成する。建物で使用する部材、機器を記入し提出すること。
18	電子納品	※電子納品対象工事とする 電子納品とは、「調査、設計、工事などの各業務成績の最終結果を電子データで納品すること」をいう。ここでいう電子データとは、「監督工事電子納品要領（以下、要領という）」に基づいて作成されたものを指す 成果品については、「要領」に基づいて作成した電子成果品を電子媒体で提出する。「要領」で特に記載がない項目については、原則として電子データを提出する義務はないが、「要領」の解釈に疑義がある場合は監督員と協議の上、電子化の是非を決定する また、成果品提出の際には、ウイルス対策を実施したうえで提出すること
19	工事中情報共有システム	（1）本工事は、受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより、業務の効率化を図る情報共有システムの対象である。なお、運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」に基づき実施すること （2）本工事で使用する情報共有システムは次とする 広島県工事中情報共有システム（http://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/asp/index.html） （3）監督員及び受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者（以下「サービス提供者」という）との契約は、受注者が行い、利用料を支払うものとする （4）受注者は、監督員又はサービス提供者から技術上の問題点の経緯、利用にあたっての詳細を行うためのアンケート等が求められた場合、協力しなければならない
20	施工図及び施工計画書	提出した施工図及び施工計画書の審査に係る当該建物に関る使用機材、発注者に委譲するものとする
21	設備工事との取合い	設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける
22	撤去部分	コンクリート、モルタル等の撤去部分の項目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする
23	適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる 基準風速　　Ｖｏｍ　32 ｍ/ｓ 地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　◎Ⅲ　・Ⅳ 積雪区分　　平成12年5月31日建設省告示第１４５５号　別表（　　）
24	騒音・振動の防止	「低騒音型・低振動型建設機械指定要領」に基づき指定された建設機械を使用する
25	施工中の安全確保	・同一場所で別契約の関連工事が行われる場合は、労働安全衛生法第３０条第２項に基づき、当該工事について、同条第１項に規定する措置を講ずべき者として本工事現場代理人を指名する ・労働安全衛生法第１５条に基づく統括安全衛生責任者を選任したときは、本契約後直ちに「統括安全衛生責任者選任届出書」（任意様式）を提出すること
26	実施工程表 ［1．2．1］	工事期間は建築設備を含んだ期間とし、工事全体を把握して作成し、監督員の承諾を受ける
27	工程報告	※総様式による請関対象工事工程報告書を毎月１回１部提出すること
28	保証書	次の工事について保証書を提出すること 工事区分　材　料　名　保証年数　備　考 ◎防水改修工事　・アスファルト防水　年 ・改質アスファルトシート防水　年 ・合成高分子ルーフィング防水　年 ◎塗膜防水　10年 ○外壁改修工事　10年 年 年

② 既存建築等

1	足場その他 ［2．2．1］ ［表2．2．1］	「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、ＨＩガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」におけるその(2)手すり関置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。 ・内部足場の種別　・設置する（※固立、足場板等　・　）・設置しない ◎外部足場の種別　◎設置する（※仲縦足場　・　）・設置しない ◎外部足場の防護シート　◎設置する（※メッシュシート　・防雪シート）・設置しない 材料、搬入時等の運搬方法　・Ａ棟　※Ｂ棟　・Ｃ棟　・Ｄ棟　・Ｅ棟 ・Ｃ棟のエレベーター（　　） ・Ｄ棟の階段（　　）
2	既存部分の養生 ［2．3．1］	養生方法　※ビニルシート、合板等による ・固定された家具等（備品、机、ロッカー等）の移動　※行う（図示） ・既存部分における既存家具等の養生　※ビニルシート等による ・既存フローリング、カーテン等の養生　養生方法　※取外し再取付　・ 保管場所　※構内既存施設内 既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある埃仕様養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。
3	仮設間仕切り ［2．3．2］	・Ａ棟　※Ｂ棟　・Ｃ棟　・図示 Ａ、Ｂ棟の表面材　※石こうボード　・合板 Ａ、Ｂ棟の外面への塗装等　・行う　※行わない Ａ種のグラスウール等の充填材 ※行う（ＪＩＳ　Ａ　６３０１グラスウール保温材２号３２Ｋ厚５０mm） ・行わない 仮設扉　（・木製　・　　）
4	監督員事務所 ［2．4．1］	※設けない　・設ける ※現場に充実する備品等は現場説明書による ほか、監督員の指示により設置する ・既存建物内の一部を使用する（場所　　） ・構内に新設する　規模（　　ｍ　）
5	工事用水	構内既存の施設　・利用できる（※有償　・無償） ※利用できない
6	工事用電力	構内既存の施設　・利用できる（※有償　・無償） ※利用できない
7	工事現場の表示	現場の見やすい位置に監督員が指示する次の表示板を設置する ※工事名等の表示板（900mm×600mm）　・工事概要等の説明看板（900mm×600mm）
8	出入口養生	※行う（ベニヤ等）　・行わない
9	セキュリティー設備	就労設備の取り扱し、取り付け仕行う
10	交通誘導員	※配置する　・配置しない 配置計画　警備 ※大型車両進入時　（　１　）人／日 ・資機配置　（　　）人／日 ・（　　）作業期間　（　　）人／日

③ 防水改修工事

1	踏面等に対する養生方法	※改修標準仕様書§1.3(6)(1)～(3)による。 ・
2	既存防水の処理	既存保護層の撤去　・行う（図面　・図示　・　　） ・行わない 既存防水層の撤去　・行う（図面　・図示　・　　） ・行わない 露出防水層表面の仕上塗装除去　・行う（・MAS　・MASI　・MAC　・MADI　・LAX） ・行わない
3	既存防水層の下地補修	既存下地の補修箇所の目状、長さ、数量等　・図示 PGS工法及びPGSI工法（機械式撹拌工法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の補修及び処置　※改修標準仕様書§3.2.6(d)(3)(ae)(3)～(5)による。 ・
4	アスファルト防水 ［3．1．4］ ［3．2．6］ ［3．3．2～5］	屋根保護防水 防水層の種別 工法 / 施工箇所 / 密着材 / 絶縁用シート / 立上り材の保護 ・Ｐ２Ａ / ・Ａ－１ ・Ａ－２ ・Ａ－３ / ※ポリエステル不織布厚0.15mm以上 / ・乾式保護材 ・コンクリート押え ・レンガ押え ・Ｐ１Ｂ / ・Ｂ－１ ・Ｂ－２ ・Ｂ－３ ・Ｐ２ＡＩ / ・Ａ１－１ ・Ａ１－２ ・Ａ１－３ / （材質）※ポリエステル不織布 JIS A 9511による押出法ポリエチレンフィルム厚さ0.1mm以上 / ※ポリエチレン等を平織りしたプラスチックシート（70g/㎡程度） ・Ｐ１ＢＩ ・ＴＡＢＩ / ・Ｂ１－１ ・Ｂ１－２ ・Ｂ１－３ / 保温材の保温材2種(3ｋｇあり)厚さ　※25mm・50mm

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による
部分絶縁用改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による
平場の保護コンクリートの厚さこて仕上げ
こて仕上げ　※水下　80mm以上
ローラー仕上　※水下　60mm以上
・乾式保護材
高密系パネル：無石綿の繊維質原材料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの
金属複合板：金属板と樹脂を精密一体化したもの。
（高耐・性能）

分類・規格			・高密系パネル１級（高冷地仕様）	・高密系パネル２級（一般地仕様）	・金属複合板
寸法(mm)		厚さ(mm)			
		幅(mm)			
寸法の許容差			厚さ：+10%、-5%、幅：±1%		
出荷時の含水率			出荷時において10%以下		-
曲げ破さ・曲げヤング係数（N・㎟）（JIS：250㎟）	建築物		550以上	450以上	300以上
	凍結融解試験を行おける規格値(ｅ)あたりの曲げヤング係数		400以上	320以上	250以上
		凍結融解サイクル数	(300)	(200)	(200)
吸水率（%）			20以下	20以下	1以下
吸水による長さ変化率(%)			0.07以下	0.07以下	0.01以下
耐燃性			不燃	不燃	表面材は不燃
凍害時耐解性能			曲げ破さ、モーメント凍結融解試験前の試験サイクル後、著しい跳れや剥離がなく、外観上異状がないこと		
耐衝撃性能			質量500g（高密系パネル１類は1,000g）のおもりを高さ1.0mから試験体の表面部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと		質量500g（高密系パネル１類は1,000g）のおもりを高さ1.0mから試験体の表面部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと 残留変形量1/100以下 かつ圧縮の最大変形量4/100以下 80000N・cm²以上
耐生(E×I)スパン40cm毎30cmの中央曲げ時に、荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性			-	-	

特記事項	訂正事項

一級建築士事務所　広島県知事登録17（１）第0497号

岡 田 建 築 設 計 事 務 所

一級建築士　第102449号　岡田文夫

JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE
	2020.01.		小西住宅３号棟外壁改修工事
CH.	PL.	DR.	NAME　建築改修工事特記仕様書（１）

NO. A / 02

図面縮小率
A-2：100%
A-3：71%
A-4：50%

③ 防水改修工事

（試験方法）
（１）寸法の測定方法
（厚さ）供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mm単位で測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めてパネルの厚さとする
（２）曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。測定項目については、凍結融解試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する（窯業系パネルⅡ類は200サイクル迄でとする）
（３）吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う
（４）難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う
（５）吸水による長さ変化率試験は、試験体（幅40 mm×長さ160 mm×実材厚さ）を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム（試薬）」に規定する塩化カルシウム又はJISK 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで調湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が140 mmになるように標線を刻む。その後、1/150 mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さを測定し、それを基準（Ｌ１）とする。次に試験片の長さ方向を水平にこぼかして、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ（Ｌ２）を測る
吸水による長さ変化率（ΔＬ）は、次式によって求める
（ΔＬ）＝（Ｌ２ － Ｌ１）／ Ｌ１ ×100　　ΔＬ ：吸水による長さ変化率（%）
Ｌ１：乾燥時の標線間の長さ（mm）　　Ｌ２ ：吸水時の標線間の長さ（mm）
（６）耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「窯業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する
（窯業系パネルⅡ類は200サイクル迄でとする。）－20±3℃の気中で約2時間の凍結、20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間をⅠサイクルとする
（７）耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試 験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S２対辺単純支持方法による
試験体の大きさは、4号（長さ400 mm、幅300 mm）とする。おもりは記号（Ｗ１－1000又はW2－500）とする。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する

屋根露出防水　防水層の種類

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率の防水の適用	備考
▪M4C	▪D-1 ※D-2 ▪D-3 ▪D-4			▪製造所の指定による	▪製造所の指定による		
▪M3D ▪P0D	▪D-1 ※D-2 ▪D-3 ▪D-4			▪製造所の指定による	▪製造所の指定による		脱気装置 ▪設ける -設けない 改修用ドレン ▪設ける -設けない
▪P0D1 ▪M3D1 ▪M4D1	▪DI-1 ※DI-2		（材質） ※JIS A 9521による建築ウレタンフォーム断熱材2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの又は JIS A 9511による人種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規定に適合するもの （厚さ）▪25mm	▪製造所の指定による	▪製造所の指定による		脱気装置 ▪設ける -設けない 改修用ドレン ▪設ける -設けない

脱気装置の種類及び設置数量
※アスファルトルーフィング類製造所の指定による
屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※図 示

屋内防水

工法	種別	施工場所	備 考
▪P1E ▪P2E	▪E－1 ※E－2		保護層　▪設ける ▪設けない

押え金物の材質及び形状寸法
※アルミニウム製　L=30×15×2.0mm程度　▪
屋上排水溝　▪図示　▪

5 改質アスファルトシート防水
［3．1．4］
［3．2．6］
［3．4．2、3］

防水層の種別

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用	備考
▪M4S	▪AS-T1 ▪AS-T2 ▪AS-J2			▪製造所の指定による	▪製造所の指定による		
▪M3AS	▪AS-T3 ▪AS-T4 ▪AS-J1 ▪AS-J3			▪製造所の指定による	▪製造所の指定による		脱気装置 ▪設ける ▪設けない 改修用ドレン ▪設ける -設けない
▪P0AS	▪AS-T3 ▪AS-T4 ▪AS-J1 ▪AS-J3			▪製造所の指定による	▪製造所の指定による		脱気装置 ▪設ける ▪設けない 改修用ドレン ▪設ける ▪設けない
▪M3AS1 ▪M4AS1 ▪P0AS1	▪AS1-T1 ▪AS1-J1		（材質） ※JIS A 9521による硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規定に適合するもの又はJIS A 9511によるA種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規定に適合するもの （厚さ）▪25mm	▪製造所の指定による	▪製造所の指定による		脱気装置 ▪設ける ▪設けない 改修用ドレン ▪設ける ▪設けない 防水層 ▪設ける -設けない

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による　▪
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による　▪
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による　▪
脱気装置の種類及び設置数量
※改質アスファルトシート製造所の指定による　▪
押え金物
※改質アスファルト製造所の仕様による

③ 防水改修工事

6 合成高分子系ルーフィングシート防水
［3．1．4］
［3．2．6］
［3．5．2～4］
［表3．5．1～3］

防水層の種類

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用	備考
▪P0S ▪S4S	▪S-F1 ▪S-F2 ▪S-M1 ▪S-M2 ▪S-M3			▪製造所の指定による	▪製造所の指定による		脱気装置 ▪設ける ▪設けない 改修用ドレン ▪設ける ▪設けない
▪S3S	▪S-F1 ▪S-F2			▪製造所の指定による	▪製造所の指定による		脱気装置 ▪設ける ▪設けない
▪M4S	▪S-M1 ▪S-M2 ▪S-M3			▪製造所の指定による	▪製造所の指定による		脱気装置 ▪設ける ▪設けない
▪P0S1 ▪S3S1 ▪S4S1 ▪M4S1	▪S1-F1 ▪S1-F2		（材質） ※改修標準仕様書3.5.2(c)(3)(Ⅱ)による （厚さ）▪25mm	▪製造所の指定による	▪製造所の指定による		脱気装置 ▪設ける ▪設けない 改修用ドレン ▪設ける ▪設けない
	▪S1-M1 ▪S1-M2		（材質） ※改修標準仕様書3.5.2(c)(3)(Ⅰ)による （厚さ）▪25mm				

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗り 塗り厚さ	平場のモルタル塗り ▪床塗り工法	平場のモルタル塗り ▪下地刷毛塗り	立ち上り部の保護モルタル塗り厚さ
▪S3S			※改修標準仕様書6.15.6(b)(2)及び(3)に準ずる	※改修標準仕様書6.15.6(c)(1)に準ずる	※7mm以下

S－M2及びS１－M２の立上り部の工法：　▪接着工法　▪　機械的固定工法
屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ
ルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.5.1から表3.5.3による
絶縁用シートの材質　※発泡ポリエチレンシート
固定金具の材質及びけ法板状
※厚さ0.4mm以上で防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板及びそれらの片面又は両面に樹脂を積層加工した鋼板
脱気装置の種類及び設置数量
※ルーフィングシート製造所の指定による
▪脱気装置の種類：　　、設置数量：　　個/㎡
既存防水下地がPCコンクリート部材及びALCパネル下地で種別S-C1の場合の目地処理
▪行う（▪図示　▪　　）　▪行わない
PCコンクリート部材の入隅部の増張り（種別S-F1、S1-F1、S-C1の場合）
▪行う（▪図示　▪　　）　▪行わない
ALCパネル下地の入隅部の増張り（種別S-C1の場合）
▪行う（▪図示　▪　　）　▪行わない
縦横の固定工法の場合の一段部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力の（▪1　▪1.15　▪1.3）倍の風圧力に対応した工法

⑦ 塗膜防水
［3．1．4］
［3．2．6］
［3．6．2、3］

工法	種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用	備考
▪P0X	※X－1 ⊙X－2		⊙製造所の指定による	⊙製造所の指定による		脱気装置 ▪設ける ⊙設けない 改修用ドレン ▪設ける ⊙設けない
▪L4X	▪X－1 ※X－2		▪製造所の指定による	▪製造所の指定による		脱気装置 ▪設ける ▪設けない
▪P1Y	※Y－2					保護層 ▪設ける ▪設けない
▪P2Y	※Y－2					保護層 ▪設ける ▪設けない
⊙PA-1		バルコニー	⊙製造所の指定による	⊙製造所の指定による		軽歩行用ノンスリップ

脱気装置の種類及び設置数量　※主材製造所の指定による
※PA-1仕様には日本建築学会「ポリマーセメント系塗膜防水工事施工指針（案）」による。

8 ケイ酸質系塗布防水
（９．６．１～４）
（表９．６．１～２）

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※O-UI		※O-UP	

⑨ シーリング
［3．1．4］
［3．7．2］
［3．7．4～7］

［表3．1．2］
シーリング改修工法の種類
▪シーリング充填工法
⊙シーリング再充填工法
▪拡幅シーリング再充填工法
▪ブリッジ工法
ボンドブレーカー張り　▪適用する　▪適用しない
エッジング材張り　▪適用する　▪適用しない

シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書 表3.7.1による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
外部建具廻囲	変性シリコーン（WS-2）
目地	ポリウレタン系（PU-2）

シーリング材の目地寸法　※改修標準仕様書3.7.3による

③ 防水改修工事

10 とい
［3．8．2、3］

といの材種　▪硬質ポリ塩化ビニル管　カラー　▪　　・
ルーフドレン（改修用２重ドレン）

種別	施工箇所
▪ろく屋根用（▪　縦型　▪　横型）	
▪バルコニー用	
▪バルコニー中雨用	

ロックウール保温筒及びビーズ法ポリスチレンフォーム保温筒のホルムアルデヒド放散量
※燃制対象外　▪　　・
既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法　※図示
鋼管製といの防露巻き　※改修標準仕様書表3.8.5による
たてどい受金物の取付け　※図示
ルーフドレンの取付け　※水はけがよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填

11 アルミニウム製笠木
［3．9．2～3］

種類　▪オープン形式（▪押出250形　▪押出300形　▪押出350形）　［表3．9．1］
▪板材折曲げ形（▪オープン形式　▪シール形式）
本体幅（　）mm　板厚（※2.0mm　▪　mm）
表面処理　種別（　）種　支膜等の種類（※改修標準仕様書表5.2.2による　▪　）
着色（▪アンバー　▪ブロンズ　▪ブラック系　▪ステンカラー）
既存笠木等の撤去　▪行う（範囲　▪図示　▪　　）
▪行わない
下地補修の工法　※図示　▪　　・
板材折曲げ沙の笠木の取付方法　※図示　▪　　・
笠木の固定金具の工法等
建築基準法に基づき定まる風圧力の（▪1　▪1.15　▪1.3）倍の風圧力に対応した工法

④ 外壁改修工事（共通事項）

1 可とう性エポキシ樹脂
［4．2．2］

品質性能等
比重：表示値±0．１０、押出し性：６０秒以下
スランプ：3mm以下、加熱減量：６％以下
引張強さ：
常温物性１．０Ｎ／mm² 以上、低温性１．０Ｎ／mm² 以上、加熱劣化１．０Ｎ／mm² 以上
伸び：常温物性３０％以上、低温性３０％以上、加熱劣化３０％以上
引張接着性　最大引張応力：常温物性１．０Ｎ／mm² 以上
破断時の伸び：常温物性１０％以上
(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
(2) 対象とする被着体を浸さず、かつ周囲を汚損しないこと。
(3) 常温・常湿（温度5～35℃、湿度45～85%）において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月保存した後であっても、上記品質性能等の規定に適合していること。
（試験方法）
1) 試験室の状態：試験室は、特に指定のない限り、標準状態とする。
標準状態とは、JIS K 7100「プラスチック－状態調節及び試験のための標準雰囲気」の5（標準雰囲気の級別）に規定する標準雰囲気2級（温度23±2℃ 湿度（50±10）%）をいう。
2) 押出し性　：JIS A 6024(2015)「建築補修用及び建築補強用エポキシ樹脂」の5.12押し出し性試験）による。
3) スランプ　：JIS A 6024の5.10（スランプ試験法）による。
4) 引張接着性：JIS A 6024の5.15（引張接着性試験）による。
5) 引張特性　：JIS A 6024の5.19（引張特性試験法）による。
6) 加熱減量　：JIS A 6024の5.27（加熱減量試験法）による。
7) 密度　　：JIS A 6024の5.29（密度）による。

2 ポリマーセメントモルタル
［4．2．2］

品質性能等
だれ　下がり量：5mm以下、表面状態：ひび割れの発生がないこと
曲げ強さ：６．０Ｎ／mm² 以上、圧縮強さ：２０．０Ｎ／mm² 以上
接着性　標準時：１．０Ｎ／mm² 以上、湿潤時：０．８Ｎ／mm² 以上、低温時０．５Ｎ／mm² 以上
透水性：裏面始め、水漏の付着がないこと
(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
(2) ポリマーセメントモルタルに用いる高分子エマルションは、常温常湿において製造後6ヶ月保存しても変質がないこと。

3 パテ状エポキシ樹脂
［4．2．2］

品質性能等
初期硬化性（標準）：２．０Ｎ／mm² 以上、接着強さ（標準）6.0N/mm² 以上
圧縮強さ：50.0N/mm² 以上、曲げ強さ：30N/mm² 以上、硬化収縮率：3.0%以下
(1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
(2) 対象とする被着体を浸さず、かつ周囲を汚損しないこと。
(3) 常温・常湿（温度5～35℃、湿度45～85%）において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月保存した後であっても、上記品質性能等の規定に適合していること。
（試験方法）
1) 試験室の状態　：試験室は、特に指定のない限り、標準状態とする。
標準状態とは、JIS K 7100「プラスチック－状態調節及び試験のための標準雰囲気」の5（標準雰囲気の級別）に規定する標準雰囲気2級（温度23±2℃、湿度（50±10）%）をいう。
2) 接着強さ　：JIS A 6024(2015)「建築補修用及び建築補強用エポキシ樹脂」の5.13（接着強さ試験法）による。
3) 曲げ強さ　：JIS A 6024の5.21（曲げ強さ試験法）による。
4) 圧縮強さ　：JIS A 6024の5.22（圧縮強さ試験法）による。
5) 硬化収縮率：JIS A 6024の5.25（硬化収縮率試験）による。
6) 初期硬化性：JIS A 6024の5.28（初期硬化性試験）による。

4 エポキシ樹脂モルタル
［4．2．2］

品質性能等
接着強さ：1.0N/mm² 以上　　圧縮強さ：20.0N/mm² 以上
曲げ強さ：３日後の値　１０Ｎ／mm² 以上
(1) こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がりが良好であること。
(2) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
(3)「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。
(4) 熱状に異臭がなく、だれが生じないこと。
(5) 常温・常湿（温度5～35℃、湿度45～85%）において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月保存した後であっても、上記品質性能等の規定に適合していること。
（試験方法）
1) 試験室の状態　：試験室は、特に指定のない限り、標準状態とする。
標準状態とは、JIS K 7100「プラスチック－状態調節及び試験のための標準雰囲気」の5（標準雰囲気の級別）に規定する標準雰囲気2級（温度23±2℃、湿度（50±10）%をいう。
2) だれ　　：JIS A 6024(2015)「建築補修用及び建築補強用エポキシ樹脂」の5.11（だれ試験）に準じ）による。
3) 接着強さ：JIS A 6024の5.14（接着強さ試験法）による。
4) 曲げ強さ：JIS A 6024の5.20（曲げ強さ試験法）による。
5) 圧縮強さ：JIS A 6024の5.23（圧縮強さ試験法）による。

④ 外壁改修工事（共通事項）

5 ポリマーセメントスラリー
［4．2．2］

品質性能等
注入試験：拡がり速さ３cm／s以上、粘調係数０．５～１．０
保水試験：保水係数０．３５～０．５５
長さ変化試験：長さ変化率３%以下（収縮）
引張接着強さ：０．５Ｎ／mm²以上（２８日材齢）
曲げ強度：５．０Ｎ／mm²以上（２８日材齢）
吸水率：１５%以下（７２時間）
劣化曲げ強さ：５．０Ｎ／mm²以上

6 吸水調整材
［4．2．2］

標準仕様書4.2、表4.2.2による

7 既製調合モルタル
［4．2．2］

モルタル下地とした外壁工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
品質性能等
保水率：７０%以上
単位容積質量：1.8kg/l以上
接着強さ：標準時　0.6N/mm² 以上、湿冷繰り返し後　0.4N/mm² 以上
長さ変化率：0.2%以下
曲げ強さ：4.0N/mm² 以上
試験方法
イ）試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算し、所定量の試料とする。
練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ鉢を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
ロ）保水率
JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定するみがき板ガラス（幅150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 A ろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（１）で調製した試料を平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出た水分の広がりが最大と認められた方向とそれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mm単位まで測定する。
試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率＝50／平均値×100　　（注）　50：リング型わくの内径　mm
ハ）単位容積質量
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
ニ）標準時の接着強さ
1．適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B－1に規定する普通平板N－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（１）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形のⅠ類（施ゆう）「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm² 以上）

2．適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B－1に規定する普通平板N－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（１）で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形のⅠ類（施ゆう）「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
ホ）温冷繰返し後の接着強さ
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（４）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに－20±2℃の恒温器中で3時間冷凍し、次いで50±2℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を１サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び剥れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm² 以上）
ヘ）長さ変化率
JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化粉末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。
ト）曲げ強さ
JIS A6916「建築用下地調整塗材」7.11 曲げ強さ試験に準ずる。

特記事項	訂正事項

一級建築士事務所　広島県知事登録17(1)第0497号
岡田建築設計事務所
一級建築士　第102449号　岡田文夫

JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率
	2020.01.		小西住宅３号棟外壁改修工事	A／03	A-2：100%
CH.	PL.	DR.	NAME 建築改修工事特記仕様書（２）		A-3：71%
					A-4：50%

4-1 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）

1 ひび割れ部改修工法
[4.1.4] [4.2.2] [4.3.4～6]

※樹脂注入工法

工法の種類		ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（mL/m）
※A	自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	200～300	※40 ・
		0.3以上0.5未満		※40 ・
		0.5以上1.0未満		※70 ・
・B	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50～100	※40 ・
・C	・簡易式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100～200	※70 ・
・D	・簡易式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上1.0未満	150～250	※130 ・

コア採取り検査 ・行う ※行わない 補修方法（ポリマーセメントモルタル充填）
注入材料
※接着補修用注入エポキシ樹脂（JIS A6024）による（※低粘度形 ・中粘度形）
・敷賀エポキシ樹脂の平軌度型又は軟軟度型
・Uカットシール材充填工法
カット形充填材
※可とう性エポキシ樹脂
・シーリング用材料 （※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・ ）
シーリング材のうえにポリマーセメントモルタル充填 ※行う ・行わない
・シール工法
ひび割れ部シール材
※パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂

2 欠損部改修工法
[4.1.4][4.2.2] [4.3.7]

※充填工法
欠損部充填材
※ポリマーセメントモルタル ・エポキシ樹脂モルタル

4-3 外壁改修工事（モルタル塗仕上げ外壁）

1 ひび割れ部改修工法
[4.1.4] [4.2.2] [4.4.5～7]

（下記以外は4－1コンクリート打放し仕上げ外壁による）
※モルタルを撤去して改修 （撤去後の補修は充てん工法［4.4.8］による）
※樹脂注入工法 ・シール工法・Uカットシール材充てん工法
・モルタルを撤去しないで改修
※樹脂注入工法 ・シール工法・Uカットシール材充てん工法

2 欠損部改修工法
[4.1.4] [4.2.2] [4.4.9]

※充てん工法（欠損部の面積が0.25㎡/箇所程度以下の場合）
充てん材の種類 ※ポリマーセメントモルタル ・エポキシ樹脂モルタル
・モルタル塗替え工法
既調目地材 ・使用する（形状 ）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

3 浮き部改修工法
[4.1.4] [4.2.2] [4.4.10～15]

※モルタルを撤去しないで改修
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法（・注入口付 ・ ）
・アンカーピンニング金属エポキシ樹脂注入工法（・注入口付 ・ ）
・アンカーピンニング金属ポリマーセメントスラリー注入工法（・注入口付 ・ ）
アンカーピン ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの
注入口付アンカーピン ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径外径6mm
・モルタルを撤去して改修
・常塗工法 ・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル
・モルタル塗替え工法 既調目地材 ・使用する（形状 ）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示

4 外壁複合改修構工法
平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4-4 外壁改修工事（タイル張仕上げ外壁）

1 タイル張替え工法用材料
[4.2.2]

（下記以外は4－2コンクリート打放し仕上げ外壁、及び4－3モルタル塗り仕上げ外壁による）
タイル部分張替え工法及びタイル張替え工法用接着剤の種類
・ポリマーセモルタル
・JIS A 5557による一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系
・JIS A 5557による一液反応硬化形ウレタン樹脂系

タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状工法	高圧材料の適用	吸水率による区分			うわぐすり	役物		色		耐凍害性		耐汚	備考
			1区	2区	3区	有り	無し	かす	なし	標準	特注	あり	なし	可能

当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、あらかじめ監督員の承諾を受けること
役物の使用箇所

内 隅	出隅 天端
外 隅	出隅、窓台、マグサ（標準一体成型品以外は接着成型品とする）

・タイル張替え工法（下地モルタルを撤去する場合）
既調目地モルタル（張り付け用に使用する場合）

2 ひび割れ部改修工法
[4.1.4] [4.2.2] [4.5.5.6]

※タイルを撤去して改修 （撤去後の補修はタイル部分張替え工法による）
※樹脂注入工法 ・Uカットシール材充てん工法
・タイルを撤去しないで改修
※樹脂注入工法

3 欠損部改修工法
[4.1.4] [4.2.2] [4.5.5.6]

・タイル部分張替え工法
（欠損部の面積が0.25㎡ ／箇所以下の場合及び下地モルタルがある場合）
接着材の種類 ※ポリマーセメントモルタル ・エポキシ樹脂
・タイル張替え工法（下地モルタルを撤去する場合）
既製調目地モルタル（張り付け用に使用する場合）
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ※改修標準仕様書表4.5.1による
タイル張り下地等の下地モルタルの撤去試験 ・行う ・行わない
・セメントモルタルによる陶磁器質タイル（セラミックタイル）張り
タイル張りの工法 外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・改良積上げ張り
外装ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り
・有機系接着剤による陶磁器質タイル（セラミックタイル）張り
シーリングの種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系
伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコーン系 ・

4 浮き部改修工法
[4.1.4] [4.2.2] [4.5.5.6]

・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法（・注入口付 ・ ）
・アンカーピンニング金属エポキシ樹脂注入工法（・注入口付 ・ ）
・アンカーピンニング金属ポリマーセメントスラリー注入工法（・注入口付 ・ ）
・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル間施工法
注入口付アンカーピン本数 ・
アンカーピン ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの
注入口付アンカーピン ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径外径6mm
・タイル部分張替え工法
・タイル張替え工法（下地モルタルを撤去する場合）
伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ※改修標準仕様書表4.5.1による
タイル張り下地等の下地モルタルの撤去試験 ・行う ・行わない
・セメントモルタルによる陶磁器質タイル（セラミックタイル）張り
タイル張りの工法 外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・改良積上げ張り
外装ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り
・有機系接着剤による陶磁器質タイル（セラミックタイル）張り
シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系
伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコーン系 ・

5 目地改修工法
[4.1.4] [4.5.10]

・目地ひび割れ部改修工法
・目地調整目地改修工法 位置及び寸法 ※図示

6 外壁複合改修構工法
平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4-5 外部建具改修工事

1 仕上塗材仕上げ
[4.1.5] [4.2.2] [4.6.5]

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※適用対象外 ・
仕上塗材の種類

種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・薄付仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Si	・	・ゆず肌状（・吹付け ・ローラー塗り）
	・外装薄塗材E	・	・さざ波状
	・可とう形外装薄塗材E	・	・平たん状
	・防水形外装薄塗材E	・	・凹凸状（・吹付け ・こて塗り）
	・外装薄塗材S	・	・無色骨材砂壁状（・吹付け ・こて塗り）
		・	・砂壁状じゅらく
		・	・点壁状じゅらく
・厚付仕上塗材	・外装厚塗材C	・	・吹放し ・凸形凹凸 ・ひき波こて
	・外装厚塗材Si	・	・凸凹状 ・ひき起こし ・かき落とし
	・外装厚塗材E	・	仕上塗材 ※施工箇所 ・適用する ・適用しない
		・	仕上塗材 ・適用する ・適用しない
		・	
◎複層仕上塗材	・複層塗材CE	・	・ゆず肌状 ・さざ波状 ・ゆず肌状
	・可とう形複層塗材CE	・	耐候性 ※耐候形3種 ・
	・複層塗材Si	・	上塗材
	◎厚膜塗材E	・	溶 媒 ※水系 ・溶剤系 ・硬溶剤系
	・複層塗材RE	・	樹 脂 ※アクリル系 ・
	・防水形複層塗材CE	・	外 観 ※つや有り ・つやなし
	・防水形複層塗材E	・	・メタリック
	・防水形複層塗材RE	・	
	・防水形複層塗材RS	・	
・可とう性改修用仕上塗材	・可とう形外装厚塗材CE	・	・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状
	・可とう形改修塗材E	・	耐候性 ※耐候形3種 ・
	・可とう形改修塗材CE	・	上塗材
			溶 媒 ※水系 ・溶剤系 ・硬溶剤系
			樹 脂 ※アクリル系 ・
			外 観 ※つや有り ・つやなし
			・メタリック

2 所要量の確認
[4.6.2]

工程ごとの所要量の確認 ※改修標準仕様書表4.6.1による
・

3 既存塗膜等の除去及び下地処理
[4.6.3]

塗膜はく離材 製造所（ ）
防火材料の指定箇所 （ ）
既存塗膜の劣化部の除去及び下地の処理の工法
※ケンダー工法 処理範囲 ・既存仕上げ面全体 ※図示の範囲
・表圧水洗工法 処理範囲 ・既存仕上げ面全体 ※図示の範囲
・30MPa以上
・50MPa以上
・100MPa以上
・（ ）MPa以上
・塗膜はく離材工法 処理範囲 ・既存仕上げ面全体 ※図示の範囲
・水洗い工法 処理範囲 ※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体
・図示の範囲
下地面の種類 外壁改修フロー及び数量による
下地調整材料 ※下地調整材
・ポリマーセメントモルタル
・防水形仕上塗材主材
◎概設アクリルリシン吹付（下地材（フィラー）共）除去に関しての工法はウォータークリーン工法（株マルホー）同等とする

4 マスチック塗材塗り
[4.6.6] [4.7.2]

マスチック塗材塗り
種別 ・A種 ・B種

4-5 建具改修工事

1 改修工法
[5.1.3]

※かぶせ工法（・カバー工法 ・挿出工法 ）
・撤去工法 （・はつり工法 ・引抜工法 ）

2 防火戸
[5.1.4]

・適用する 図示（・建具表 ・平面図 ・ ）

3 建具見本の製作
[5.1.5]

※製作しない ・製作する

4 防犯建物部品
[5.1.7]

5 アルミニウム製建具
[5.2.2～5] [表5.2.2]

性能等級
外部に面する建具 ・A種（建具符号：※建具表による ）
・B種（建具符号：※建具表による ・ ）
・C種（建具符号：※建具表による ・ ）
防雷ドアセット、防雨サッシ 遮音性の等級（・ ）
（建具符号 ・建具表による ・ ）
・適用しない
断熱ドアセット、断熱サッシ 断熱性の等級（・ ）
（建具符号 ・建具表による ・ ）
・適用しない
耐震ドアセット 面内変形追従性の等級（・ ）
（建具符号 ・建具表による ・ ）
・適用しない
枠の見込み寸法 ※建具表による ・
表面処理
外部に面する建具 ・B-1種 ・B-2種 ・
反射等の種類（※標準仕様書表5.7.2による ・ ）
塗色（・アンバー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー）
屋内の建具 ・D-1種 ・D-2種 ・
反射等の種類（※改修標準仕様書5.5.2.2による。）
塗色（・アンバー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー）
結露水の処理方法 ※図示 ・
水切り板、ぜん板 ※図示 ・

6 網戸等
[5.2.3]

種類	材質	線径	網目
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

7 樹脂製建具
[5.2.2] [5.3.2～5]

性能等級（建具符号：建具表による ）
外部に面する建具の耐風圧性の等級 ・A種 ・B種 ・C種
防雨下アセット、防雨サッシの遮音性の等級 （等級 ・T－1 ・T－2）
断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級
断熱性の等級 ・H－4 ・H－5 ・H－6 ・ ）

4-5 建具改修工事

8 建具用金物
[5.7.2.3]

金物の種類・見え掛り部の材質等 ※改修標準仕様書 表5.7.1及び適用建具表による
樹脂製建具に使用する丁番 ※改修標準仕様書 表5.7.3による
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置 ・建具表による
・錠前類（シリンダー長短及びシリンダー本数り錠）
（設置）
デッドボルトの出寸法は13mm以上とする。錠付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
（性能）
使用機器による 性能
1）（シリンダ保管のみ）ラッチボルトの開閉切り返し試験（40万回）を行った後、ハンドルでの開閉操作及びラッチングが正常に動作の状態であり、動作に支障がない。
2）キーによるデッドボルトの施解錠切り返し試験（10万回）を行った後、試験前の回転トルクの増加率が、面解錠動作に支障がない。（シリンダ本体り錠のみ）シリンダ単体の施解錠切り返しの試験は、シリンダ 上の回転トルクが初期の60%下とする。
3）キーによる施解錠の施解錠切り返し試験（10万回）を行った後、試験前の回転トルクの増加率が当り、施解錠動作に支障がない。
4）キーの抜き差し繰り返し試験（10万回）を行った後、キーの抜き差 しに要する荷重は10 N以下である。また、未使用の金属でシリンダが目 転できず、力で「動作は設置状い状況のもとで異なるキーでは、シリンダ内 正転しないこと。
（キーに出入るトルクは、15N・cmとする）
外力に 対する 性能
1）デッドボルトの押込み強度試験（10 kN）を行なった後、荷重を除い ときのデッドボルトの突け出は5 mm 以上 であること。
2）デッドボルトの側圧強度試験（10 kN）を行なった後、加圧板がデッドボルトを通過しない。
2）デッドボルトの押込み強度（施錠荷重）試験（56.8 J）の後錠荷重を加えたとき、施錠状態（デッドボルトの突出量が5 mm未満）にならないこと。
4）デッドボルトの側圧強度（施錠荷重）試験（56.8 J）の後錠荷重を加えたとき、施錠状態（加圧板通した状態）にならないこと。
5）（シリンダ本締り錠はシリンド以上の取付部の場合）ストライクプレートの保持 5 kN 以上のステンレス鋼板と L トロコ状は厚さ1.6mm以上の鋼製の一体板りとする。または ストライクの強度と同等以上の強度を持つものとする。
使用環境の質量に対する性能（シリンダ用錠のみ）
1）ラッチボルトの側圧強度試験（4 kN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルは自ス（ラッチング）に支障がない。
2）レバーハンドルのねじり強度試験（3.5 kN・cm）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定された場は、施錠状態が維持され、かつ、施錠装置がに支障がないこと。
3）握り玉のねじり強度試験（5 kN・cm）を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定された場は、施錠状態が維持され、かつ、施錠装置がに支障がない。
4）ハンドルの引張強度試験（2 kN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される場は、施錠状態が維持され、かつ、施錠装置がに支障がない。
5）ハンドルの垂直荷重強度試験（2 kN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、握り部ハンドルが固定される場は、施錠状態が維持され、かつ、施錠装置がに支障がない。
鍵
1）かぎ（鍵）数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーマイ 形状 であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ（鍵） 違い数とみなさないものとする。
2）同一タンブラーの使用数は、60 %以下とする。また、6 本タンブ ラーにおいては、キーの対一致みは、最大2通鍵までとしていること。
試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物－錠－第1部：試験方法）による。

・握り玉（レバーハンドル）
（性能）
ねじり 強度
レバーハンドルのねじり強度試験（3.5 N・cm）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定された場は、施錠状態が維持され、かつ、施錠装置がに支障がないこと。
当張り 強度
ハンドルの引張強度試験（2 kN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル が正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される場は、施錠状態が維持され、かつ、施錠装置がに支障がないこと。
垂直荷重強度
ハンドルの垂直荷重強度試験（2 kN）を行い、荷重を除いたとき、ハンド ルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される場 は、施錠状態が維持され、かつ、施錠装置がに支障がないこと。
試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物－錠－第1部：試験方法）による。

9 鋼製建具
[5.2.2] [5.4.2～4] [表5.4.2]

性能等級（建具符号 ・建具表による ・ ）
鋼製断熱型ドアセット ・適用する
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性の等級 ・S－4 ・S－5 ・S－6
防雨ドアセット、防雨サッシの遮音性の等級 （等級 ・ ）
・適用しない
断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級 （等級 ・ ）
・適用しない
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級 （等級 ・ ）
・適用しない
鋼板

材料	めっき付着量	厚さ
・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板）	※Z12又はZF12	・改修標準仕様書表5.4.2による
・JIS G 3317（溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板）	※Y08 ・	

10 鋼製電装建具
[5.2.2] [5.5.2～4]

性能等級（建具符号 ・建具表による ・ ）
鋼製断熱型ドアセット ・適用する
・適用しない
防雨ドアセット、防雨サッシの遮音性の等級 （等級 ・ ）
・適用しない
断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級 （等級 ・ ）
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級 （等級 ・ ）
・適用しない
鋼板の厚さ ・改修標準仕様書 表5.5.1による

11 ステンレス製建具
[5.2.2] [5.4.2] [5.6.2～4]

性能等級（建具符号 ・建具表による ・ ）
鋼製断熱型ドアセット ・適用する
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性の等級 ・S－4 ・S－5 ・S－6
防雨ドアセット、防雨サッシの遮音性の等級 （等級 ・T－1 ・T－2）
・適用しない
断熱ドアセット、断熱サッシの断熱性の等級 （等級 ・H－4 ・H－5 ・ ）
・適用しない
耐震ドアセットの面内変形追従性の等級 （等級 ・ ）
・適用しない
鋼板（屋外） ※SUS430JIL、SUS443J1、SUS304 ・
鋼板（屋内） ※SUS430、SUS430JIL、SUS443J1、SUS304 ・
表面仕上げ ※HL仕上げ ・鏡面仕上げ ・
ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ（・a角 ・b角 ・c角）

4-8 建具改修工事

12 鍵
[5.7.4]

13 自動ドア開閉装置
[5.8.2.3]

・クローザー類
（共通・性能）

区分			① ドアクローザ		② エンジンクローザ		③ フロアエンジ	
性能試験項目		番号	閉じ力の強さ（N・m）	効率（%）	閉じ力の強さ（N・m）	効率（%）	閉じ力の強さ（N・m）	効率（%）
閉じ力の強さによる区分	Grade1	1	34以上	35以上	34以上	35以上	34以上	30以上
		2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上
		3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上
		4	25以上	40以上	25以上	45以上	25以上	40以上
		5	35以上	40以上	35以上	45以上	35以上	40以上
		6	45以上	40以上	45以上	45以上	45以上	40以上
閉じ速度（秒）			常温（5～35℃）無風状態において、開度（70和-0度）から全開（90和-0度）までの時間を5～10に調整できること。					
温度依存性（℃）			錠発表の定数値は、JIS A 2709(溶接及び有機感応の試験体寸法)に示される温度変り者試験方法 （よりあり 測定し、－15℃以下であること。					
ストップ力	ストップ力		80 N・m以下		100 N・m以下		100 N・m以下	
			低し、コンベ”開は200 N・m以下					
	ストップ解除力		8 N・m以上		8 N・m以上		10 N・m以上	
バックチェック性能（秒）			ドア設置方向に開度度角70度から開閉が”から良得する。バックチェックの開始角度（70～85°から選ぶ30°）ごとで解く間の時間は0.8秒以上としていること。		－		－	
ディレードアクション性能（秒）			閉鎖時”の位置からディレードアクション機動角度までの解度が10和以上調整でき、また その時間の調整が可能であること。		－		－	
ドロ形動位置（中心軸り込み出所由のみに適用）			－		－		±3mm以内	
耐久性	繰返し耐久性試験	Grade1	耐久試験後も上記初期値を満足		耐久試験後も上記初期値を満足		耐久試験後も上記初期値を満足	
	繰返し耐久性の閉じ力（N・m）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し耐久性の効率（%）	Grade1	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し耐久性の閉じ速度（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		－		－	
	繰返し耐久性のバックチェック性能（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		－		－	
	繰返し耐久性のディレードアクション性能（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		－		－	
	繰り返し耐久性の戸尻位置（mm）		－		－		耐久試験後±6mm以内	
耐久性の試験回数（繰り返し開閉回数）	Grade2		20万回		10万回		30万回	

注1.パタン2付けは、右記の開じ一方の70%程度までとする。
注2.ロッド”型は不記の閉じ一方の50%程度までとする。
Grade1を適定する場合は、図示による。

（試験方法）
1）性能試験は、JIS A 1515-3（建築用ドア金物の試験方法－第3部：フロアエンジン、ドアクローザ及びエンジクローザ）に適定する試験方法による。
2）試験ドアの質量は、1番手は25kg、2番手は40kg、3番手は80kg、4番手は100kg、5番手は120kg、6番手は120kgとする。

マスターキー ・設作する（ 組） ・設作しない ・既存に組込む
設箱 ・設ける（ 個用 組） ・設けない

自動ドア	性能	防御	センサーの種類	連結防止
・SSL-1 ・SSL-2 ・DSD-1 ・DSD-2 ・SMD-1 ・SMD-2 ・図示	※改修標準仕様書表5.8.1による ※改修標準仕様書表5.8.2による	・適用する ・適用しない	・マッドスイッチ ・光線（反射）スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・電光スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多目的トイレスイッチ	・行う（適用箇所は建具表による） ・行わない

（品質・性能）
制御装置・制御装置

項目	品質・性能
作動電圧	定格電圧に対し90%～110%の電圧で作動に異常がない
適用使用周囲温度（℃）	－0℃～40℃
電動機の保護回路	電動機にサーマルプロテクタを内蔵、又は制御装置に保護回路を設置

検出装置（本体センサー、補助センサー）

項目	品質・性能			
作動電圧範囲	定格電圧に対し90%～110%で作動させた時に異常がないこと。			
出力開点容量	無接点		無接点	
	電動機にサーマルプロテクタを内蔵、又は制御装置に保護回路を設置			
	AC 100V	0.2A以上（抵抗負荷）	DC 50V	0.1A以上（抵抗負荷）
	DC 30V	0.2A以上（抵抗負荷）	－	－
	DC 60V	0.1A以上（抵抗負荷）	－	－
応答時間（秒）	0.3以下			
適用使用周囲温度（℃）	－10℃～40℃			

特記事項	訂正事項

一級建築士事務所 広島県知事登録17(1)第0497号

岡田建築設計事務所

一級建築士 第102449号 岡田文夫

JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率
	2020.01.		小西住宅３号棟外壁改修工事	A／04	A-2：100%
CH.	PL.	DR.	NAME 建築改修工事特記仕様書（３）		A-3：71%
					A-4：50%

6 内装改修工事

13 畳敷き
［6．12．2］
［表 6．12．1］

種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種（畳床：・KT-Ⅰ・KT-Ⅱ・KT-Ⅲ・KT-K・KT-N）
下地の種類 ・標準仕様書 表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン）
・

畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセドアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

14 モルタル塗り

既製目地材 ・投げる 施工場所（ ） 形状（※図示 ・ ）
・投げない

床目地材 ・投げる 工法（※押し目地 ・ ）
・投げない
（品質・性能）

項目	品質・性能
防水剤の種別	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤
混合割合	セメント重量の5%以下
凝結及び安定性	（凝結）JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の8の規定によって行う。 凝結時間 始発：1時間以上 終結：10時間以内 （安定性）JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の9の規定によって行い、収縮性、膨張性のひび割れ及びそりについて観察する。 70%以上 95%以下 80%以下
曲げ及び圧縮強度比	70%以上
吸水比	95%以下
透水比	80%以下

15 既製調合モルタル
［6．15．4］

モルタル下地とlast したタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
品質性能等
保水率：７０％以上
単位容積質量：1.8kg/L以上
接着強さ：標準時 0.6N/mm^2 以上、温冷繰り返し後 0.4N/mm^2 以上
長さ変化率：0.2%以下
曲げ強さ：4.0N/mm^2 以上
試験方法
イ）試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算し、所定量の試料とする。
練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
ロ）保水率
JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定するみがき板ガラス（ 縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 A ろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（1）で調製した試料を平滑に詰める。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 60分後にろ紙へにじみ出た水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。
試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率＝50／平均値×100 （注） 50：リング型わくの内径 mm
ハ）単位容積質量
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。

二）標準時の接着強さ
1．適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の1類（施ゆう）「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てが0.6N/mm2以上）
2．適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B-1に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で 調製した試料を厚さ7mmになるように塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の1類（施ゆう）「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに−20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±2℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び損れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm^2 以上）
ヘ）長さ変化率
JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化粉末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。
ト）曲げ強さ
JIS A6916「建築用下地調整塗材」7.11 曲げ強さ試験に準ずる。

16 既製調合目地材
［6．15．4］

（品質・性能）

項目	
保水率	30.0%以上
長さ変化率	0.2%以下（収縮）
吸水量	50g以下
単位容積質量	1.8kg/L以上

（試験方法）
（1）試験の条件 試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具など、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。
（2）試料の調整 正味質量と標準練り上がり量より、1.0〜1.2倍の試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」10.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し3分間練り混ぜて試料とする。
（3）保水性（ろ紙法） JIS R 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦200mm、横200mm、厚さ5mm）の上にJIS P 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 A ろ紙（直径18.5cm）をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、2）で練り混ぜた試料を金ベらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当て上下を逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。
10分後にろ紙へにじみ出た水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて1mmまで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。 保水率（%）＝50／平均値×100 注）50：リング型わくの内径（mm）
（4）単位容積質量 （2）で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.3に規定する方法で求める。
（5）長さ変化率 （2）で調整した試料を用いてJIS A 1171の7.6長さ変化率試験に従って行う。
（6）吸水量 （3）で調整した試料を用いてJIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」10.に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。

6 内装改修工事

17 タイル張り
［6．16．2〜4］

伸縮調整目地の位置 床タイル （※縦、横とも4m以内ごと ・図示 ・ ）
床タイル以外 （・図示 ・ ）
・セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り
タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状/寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物	色			再生材の適用	耐凍害性		耐滑り性	備考
		I類	II類	III類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注		有	無		

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない

・既製調合モルタル
モルタル下地とした タイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
（品質・性能・試験方法）
6章 既製調合モルタルによる
・既製調合目地材
（品質・性能・試験方法）
6章 既製調合目地材による
・接着剤による陶磁器質タイル張り
タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状/寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物	色			再生材の適用	耐凍害性		耐滑り性	備考
		I類	II類	III類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注		有	無		

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない
内装壁タイル接着材張りに使用する有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・

18 セルフレベリング材塗り
［6．17．2、3］

種類 ・せっこう系 ・セメント系
塗厚

20 床用防塵塗料塗り

材質 水性アクリル系樹脂塗料（※標準色 ・ ）
仕上種別 コーティング（ローラー刷毛塗り）
塗布量 主剤２回塗りとし、総塗布量は0．２５kg／㎡以上とする
製造所
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外

21 壁紙張り
［6．14．2、3］

施工箇所	壁紙の種類					防炎性能	備考
	紙	繊維	ﾌﾞﾗｽﾁｯｸ	無機質	その他		
						※不燃 ・準不燃 ・難燃	

モルタル・プラスター面の下地調整 ※RB種
コンクリート・ALC面の下地調整 ※RA種
せっこうボード面の下地調整 ※RB種

22 断熱材打ち込み工法
（フロンを使用しないもの）
（19．9．2）

材種		
※押出法ポリスチレンフォーム保温材	2種b	※２５ ・２０
※押出法ポリスチレンフォーム保温材（接地部分）	3種b	※２５ ・２０
・硬質ウレタンフォーム保温材A種	1種２号	・２５ ※２０
・フェノールフォーム保温材A種	1種２号	・２５ ※２０

断熱材補修材 ・断熱材と同材
・吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材（次項による）
上記保温材はフロンを含まないものとする

23 断熱材現場発泡工法
（19．9．3）

吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材 種類 ※A種１ ・B種１ 厚さ mm 難燃性 ※３級
上記保温材はフロンを含まないものとする

24 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類 屋外 ※２５型 ・
屋内 ※１９型 ・２５型
屋外の軒天井、ピロティ天井等は、建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法とする
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔 ・図示 ・
周辺部分端からの間隔 ・図示 ・
野縁の間隔 ・図示 ・
既存の埋込みインサート ・使用する ・使用しない
あと施工アンカーの引抜き試験 ・行う（・屋外の試験荷重： ）・行わない
・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法 ※図示 ・
・天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合
補強方法 ※標準仕様書14.4.4.h)(1)〜(2)による ・図示
・天井のふところが3.0mを超える場合
補強方法 ※図示 ・
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強断所 ・図示 ・
補強方法 ※図示 ・

形状及びせん
※標準仕様書表6．7．1のスタッドの高さによる区分 ・

25 軽量鉄骨壁下地

26 せっこうボードその他ボード及び合板張り
［6．13．2、3］

種類	JIS記号	厚さ（mm）、規格等
・硬質木毛セメント板	HW	・15 ・20 ・25 ・
・中質木毛セメント板	MW	・15 ・20 ・25 ・
・普通木毛セメント板	NW	・15 ・20 ・25 ・
・硬質木片セメント板	HF	・12 ・15 ・18 ・21 ・
・普通木片セメント板	NF	
・けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ2（無石綿） ・6 ・8
・化粧けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ2（無石綿） ※6
・ロックウール化粧吸音板	DR	・フラットタイプ（・9(不燃)・12(不燃) ・ ） ・凹凸タイプ（・12(不燃)・15(不燃) ・ ）
・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	・25 ・
・グラスウール吸音ボード号32K	GW-B	・25（ガラスクロス貼） ・
・せっこうボード	GB-R	※12.5(不燃) ・15(不燃)
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5(不燃)化粧無(下地張り用) 化粧有(ﾄﾗﾝﾊﾟｰﾃﾝ模様)
・シージングせっこうボード	GB-S	12.5 （・不燃 ・準不燃）
・強化せっこうボード	GB-F	・12.5(不燃) ・15(不燃)
・せっこうラスボード	GB-L	9.5
・化粧せっこうボード（木目）	GB-D	12.5(不燃)幅440mm程度 模様(・柾目 ・板目)専用下地材有り
・化粧せっこうボード（ﾄﾗﾝﾊﾟｰﾃﾝ模様）	GB-D	9.5(準不燃)
・普通合板		表面の樹種 生地、透明塗料塗り（※ラワン程度 ・ ） 不透明塗料塗り（※しな程度 ・ ） 板面の品質（ ） 厚さ(mm) （ ） 接着の程度（・1類 ・2類 ） ・防虫処理

6 内装改修工事

・天然木化粧合板		化粧板の樹種名（ ） 接着の程度（・1類 ・2類） 厚さ(mm) （ ） ・防虫処理	
・特殊加工化粧合板		化粧加工の方法（・オーバーレイ・プリント・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1類 ・2類） 厚さ(mm) （ ） ・防虫処理	
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903による（※1.2 ・ ）	
・ポリエステル樹脂化粧板			
・ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・3 ・7 ・9 ・12 ・	
・単板張りパーティクルボード		・無研磨板ＶＮ ・研磨板ＶＳ ・10 ・12 ・15 ・18 ・	
・化粧パーティクルボード		・単板オーバーレイＤＶ ・塗装ＤＣ ・プラスチックオーバーレイＤＯ ・10(難燃)・12(難燃)	
・ハードボード（素地）	HB	・未研磨板（・スタンダード ・テンパード）ＲＮ ・研磨板（・スタンダード ・テンパード）ＲＳ	
・ハードボード（化粧）		・内装用Ｄ１ ・外装用ＤＥ ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・	
・インシュレーションボード	IB	A級（・天井仕上 ・内装仕上 ・ ） ・9 ・12 ・15 ・18 ・	

せっこうボード等の下地は図示による。
遮音シート材 ・適用する（・シーリング材 ・ジョイントコンパウンド）
・適用しない
合板類 ＭＤＦ及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※規制対象外 ・
合板類の張付け ※B種 ・A種
せっこうボードの目地工法 ・仕上げ表による
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外

27 メラミン樹脂化粧板
JIS K 6903規格品
厚さ ・1．0 ※1．2 ・1．6

28 浴室天井材
準不燃認定品
製造所
見切縁、水切りは特記製造所の仕様による

7 塗装改修工事

1 材料
［7．1．3］
屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外
防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・次の箇所を除き防火材料とする（・ ）

2 既存塗膜の除去
［7．2．1］
塗替え種別がＲＢ種の場合の既存塗膜の除去範囲
※塗替え面積の３０％

3 下地調整
［7．2．1〜7］

	塗替え	新設	ひび割れ部の補修
木部	（※ＲＢ種 ・ ）	（・ＲＡ種 ・ＲＢ種）	
鉄鋼面	◎ＲＢ種 ・ ）	（※ＲＡ種 ・ ）	
亜鉛めっき鋼面	（※ＲＢ種 ・ ）	（※ＲＡ種 ・ ）	
亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	（※ＲＢ種 ・ ）	（※ＲＣ種 ・ ）	
モルタル面、プラスター面	（※ＲＢ種 ・ ）	（・ＲＡ種 ・RB種）	（・行う ・行わない）
コンクリート面（DP以外） ALCパネル面	（※ＲＢ種 ・ ）	（※ＲＡ種 ・ ）	（・行う ・行わない）
コンクリート面（ＤＰ）、押出成型セメント板面	（・ ）	（※ＲＡ種 ・ ）	（・行う ・行わない）
せっこうボード面、その他ボード面	（※ＲＢ種 ・ ）	（・ＲＡ種 ・RB種）	

4 鉄止め塗料塗り
［7．3．2〜3］

塗装面		塗装	塗料	工程
鉄鋼面	EP-G以外	塗替え	◎A種	◎C種 ・
		新規鉄鋼面見え掛り	※A種	※A種 ・
		新規見え隠れ	※A種	※B種 ・
	EP-G	塗替え	※B種	※C種 ・
		新規鉄鋼面見え掛り	※B種	※A種 ・
		新規見え隠れ	※B種	※B種 ・
亜鉛めっき鋼面	EP-G以外	塗替え	※A種 ・	※C種 ・
		新規鉄鋼面	※A種 ・	※A種 ・
	EP-G	塗替え	※C種	※C種 ・
		新規鉄鋼面	※C種	※A種 ・

5 仕上げ塗料塗り
［7.4.2〜7.15.2］

塗装の種類	塗装面	工程 塗替え	工程 新規
・合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ） 塗料の種別 ※1種 ・2種	木部外部	※B種 ・	※A種 ・
	木部内部	※B種 ・	※B種 ・
	鉄鋼面	※B種 ・	・A種 ※B種
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具以外）	※B種 ・	※B種 ・
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	※A種 ・	※B種 ・
・クリアラッカー塗り （ＣＬ）	木部	・A種 ※B種	・A種 ※B種
・フタル酸樹脂エナメル塗り（ＦＥ）	屋内木部	表7．6．1	
	鉄鋼面	表7．6．2	
	亜鉛めっき鋼面	表7．6．3	
・アクリル樹脂系水分散系塗料塗り（ＮＡＤ）	屋内のｺﾝｸﾘｰﾄ面・モルタル面	・A種 ※B種	・A種 ※B種
◎耐候性塗料塗り （ＤＰ）	鉄鋼面 上塗り ・1級 ・2級 ◎3級	・A種 ◎B種 ・C種	※A種
	亜鉛めっき鋼面 上塗り ・1級 ・2級 ・3級	・A種 ・B種 ・C種	※A種
	コンクリート面	・A－1種 ・B－1種 ・C－1種	・A－2種 ・B－2種 ・C－2種
	押出成型ｾﾒﾝﾄ板面	・A－1種 ・B－1種 ・C－1種	・A－2種 ・B－2種 ・C－2種
◎つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）	屋内木部	※B種 ・	※A種 ・
	屋内鉄鋼面	※B種 ・	・A種 ・B種
	屋内亜鉛めっき面	※B種 ・	・A種 ・B種
	コンクリート面	※B種 ・	・A種 ・B種
	モルタル面	※B種 ・	・A種 ・B種
	プラスター面	※B種 ・	・A種 ・B種
	せっこうボード面	※B種 ・	・A種 ・B種
・合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）	塗装面	※B種 ・	・A種 ・B種
	コンクリート面	※B種 ・	・A種 ・B種
	モルタル面	※B種 ・	・A種 ・B種
	プラスター面	※B種 ・	・A種 ・B種
	せっこうボード面	※B種 ・	・A種 ・B種

7 塗装改修工事

・合成樹脂エマルション模様塗料塗り（ＥＰ－Ｔ）	屋内ｺﾝｸﾘｰﾄ面 モルタル面 プラスター面 せっこうボード面	・A種 ※B種 ・C種	・A種 ・B種
・ウレタン樹脂ワニス塗り （ＵＣ）	木部	・A種 ※B種	・A種 ※B種
・ラッカーエナメル塗り （ＬＥ）	木部	・A種 ※B種	・A種 ※B種
・オイルステイン塗り （ＯＳ）	木部		
・木材保護塗料塗り （ＷＰ）	木部	・A種 ※B種	・A種 ※B種

合成樹脂調合ペイント塗りの塗料の種別 ※1種 ・
つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（コンクリート面、モルタル面、プラスター面、せっこうボード面、その他ボード面）の塗替えの場合のしみ止め
※改修標準仕様書表7.9.1の工程１の下塗りをしみ止めシーラーとする ・
合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のしみ止め
※改修標準仕様書表7.10.1の工程１の下塗りをしみ止めシーラーとする ・
・高日射反射率塗料塗り
下地調整（改修標準仕様書表7.2.2） ・ＲＡ種 ・ＲＢ種 ・ＲＣ種
塗料その他 JIS K5675（屋根用高日射反射率塗料）２種 等級 ・１種 ・２種 ・３種
塗付け量は、塗料製造所の仕様による

8 建築配管改修工事

1 アスベスト含有建材の除去工事
［9．1．1．3〜5］

施工調査
・アスベスト含有建材の事前調査
工事着手に先立ち、目視及び資ちする設計図書等によりアスベストを含有している吹き付け材、成形板、建築材料等の使用の有無について調査する。
調査範囲（・ ・図示 ） 資ち資料（ ）
・分析によるアスベスト含有建材の調査
分析対象
アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト
分析方法
※ＪＩＳ Ａ１４８１「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による
・
分析結果については、監督職員に報告すること

材料名	定性分析（JIS A 1481-2）	定量分析（JIS A 1481-3）
	・（箇所数： ）	・（箇所数： ）
	・（箇所数： ）	・（箇所数： ）
	・（箇所数： ）	・（箇所数： ）

サンプル数 １箇所あたり３サンプル 採取箇所 ・図示 ・

・アスベスト粉じん濃度測定
測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工箇所ごと）
	測定１	処理作業前	処理作業室内	・各１点 ・各２点 ・各３点
	測定２		調査対象室外部の付近	・各１点 ・各２点
	測定３	処理作業中	処理作業室内	・各１点 ・各２点 ・各３点
※	測定４		負圧・除塵装置の排出吹出し口	出口吹出し風速１m／ｓｅｃ以下の位置 ・各１点 ・各２点
※	測定５		処理作業室外（敷地境界）	・計１点 ・４方向各１点
※	測定６	処理作業後（シート養生中）	処理作業室内	・各１点 ・各２点
	測定７	処理作業後	処理作業室内	・各１点 ・各２点 ・各３点
	測定８	（シート撤去後１週間以降）	調査対象室外部の付近	・各１点 ・各２点

測定方法

	測定３	測定１，２，４，６，７，８	測定５
メンブレンフィルタ直径（mm）	２５	２５	４７
試料の吸引流量（ｌ／ｍｉｎ）	・１ ・	・５ ・	・１０ ・
試料の吸引時間（ｍｉｎ）	・５ ・	・１２０ ・	・２４０ ・

採取箇所は図示
アスベスト含有建材の処理
・アスベスト含有吹付け材の除去
除去対象範囲 ※図示
除去工法 ※改修標準仕様書９．１．３（ｂ）（１）による
・
除去したアスベスト含有吹付け材等の飛散防止 ※密封処理（※湿潤化 ・セメント固化）
除去したアスベスト含有吹付け材等の処分
当該工事により発生する石棉を含む廃棄物は、下記の処分先を見込んでいる。
処分場所（ ） 運搬距離（ ）
受入条件（※平日受入 ・ ）
・埋立処分（管理型最終処分場） ・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
なお、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督員と協議すること。
・アスベスト含有保温材等の除去
除去対象範囲 ※図示
作業場の隔離 ・行う
除去したアスベスト含有保温剤の処分
除去したアスベスト含有吹付け材等の処分による
・アスベスト含有成形板の除去
除去対象範囲 ※図示
除去したアスベスト含有成形板の処分
当該工事により発生する石棉を含む廃棄物は、下記の処分先を見込んでいる。
処分場所（ ） 運搬距離（ ）
受入条件（※平日受入 ・ ）
・アスベスト含有石こうボード
※埋立処分（管理型最終処分場）
・アスベスト含有せっこうボードを除くアスベスト含有成形板
・埋立処分（安定型最終処分場） ・ 中間処理 （溶融施設）
なお、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督員と協議すること。

2 ・アスベスト含有仕上塗材等（下地調整塗材も含む）の除去
除去対象範囲 ※図示
除去工法 「建築物の改修・解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針 」に記載の粉じん飛散防止に関し隔離措置と同等の措置と判断できる工法
※コンステックAdバブルシステム工法と同等以上の効果を有する工法
除去したアスベスト含有仕上塗材等の処分
当該工事により発生する石棉を含む廃棄物は、下記の処分先を見込んでいる。
処分場所（ ） 運搬距離（ ）
受入条件（※平日受入 ・ ）
・埋立処分（・安定型最終処分場・管理型最終処分）
・中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
なお、工事発注後に明らかになったやむをえない事情により、上記の指定によりがたい場合は、監督員と協議すること。

2 外断熱改修工事
［9．3．2〜4］

断熱材

種類		厚さ（mm）
・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温材		
・押出法ポリスチレンフォーム保温材（スキンなし）	・保温板（2種b）	
	・保温板（3種b）	
・A種硬質ウレタンフォーム保温材		
・フェノールフォーム保温材（３種２号を除く）		
・ロックウール		
・グラスウール		

断熱材の種類 （ ） 断熱材の厚さ （ mm）
施工箇所 ・図示 ・
ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・

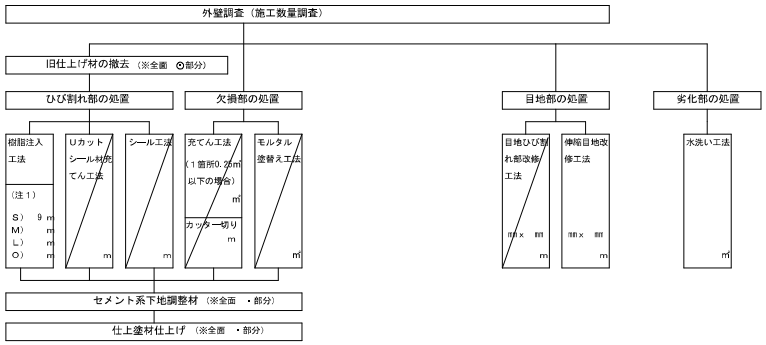
特記事項	訂正事項

一級建築士事務所 広島県知事登録17（１）第0497号
岡田建築設計事務所
一級建築士 第102449号 岡田文夫

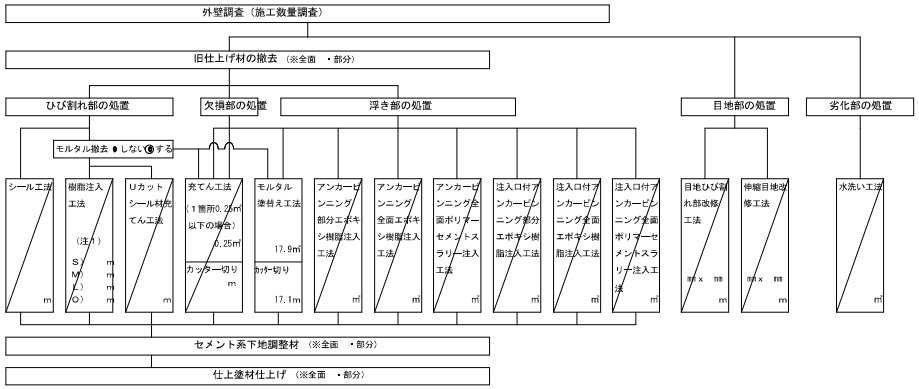
JOB. NO.	DATE 2020.01.	SCALE	TITLE 小西住宅３号棟外壁改修工事	NO. A／05	図面縮小率
CH.	PL.	DR.	NAME 建築改修工事特記仕様書（４）		A-2：100% A-3： 71% A-4： 50%

外壁改修フロー及び参考数量

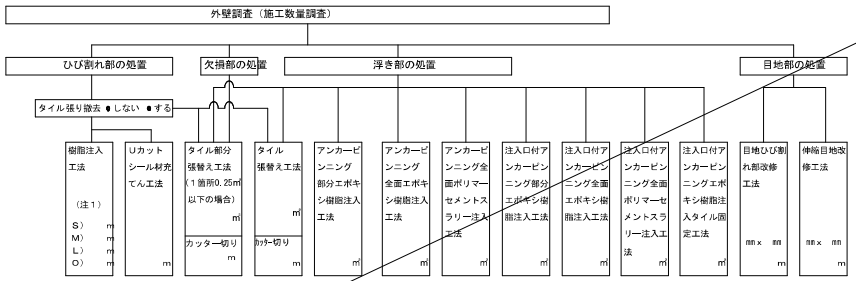
⊙コンクリート打放し仕上げ外壁の場合



・モルタル塗り仕上げ外壁の場合



・タイル張り仕上げ外壁の場合



（注１） ひび割れ幅（mm）が Ｓ）０．３未満 ，Ｍ）０．３以上０．５未満 ，Ｌ）０．５以上１．０未満 ，Ｏ）１．０以上 を示す。

※ 外壁調査は工事に先立ち全面外壁面のひび割れ，浮き，欠損部等の位置，数量（幅，長さ，面積）の調査を行う。

※ 報告書は上記の結果を立面図等に記載し監督員に２部提出する。（必要に応じて写真を添付する。）

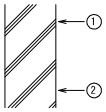
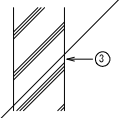
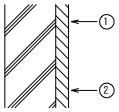
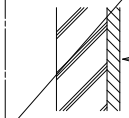
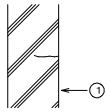
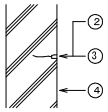
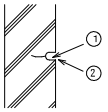
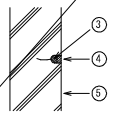
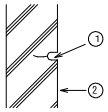
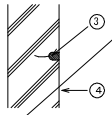
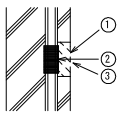
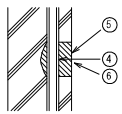
特記事項	訂正事項

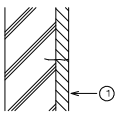
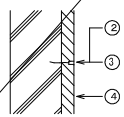
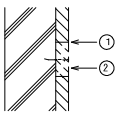
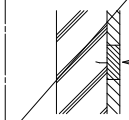
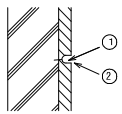
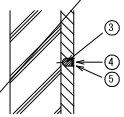
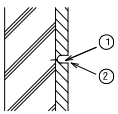
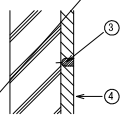
一級建築士事務所 広島県知事登録17(1)第0497号

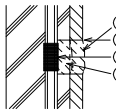
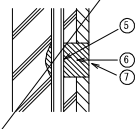
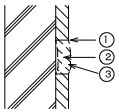
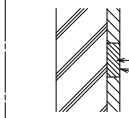
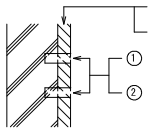
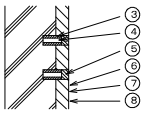
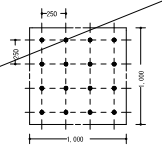
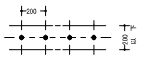
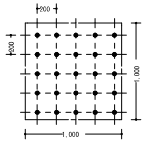
岡田建築設計事務所

一級建築士 第102449号 岡田文夫

JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率
	2020.01.		小西住宅３号棟外壁改修工事	A / 06	A-2：100%
CH.	PL. DR.		NAME 建築改修工事特記仕様書（５）		A-3：71%
					A-4：50%

名　称	A　表面劣化部処理				B　ひび割れ部処理								C　錆鉄筋部処理	
記号・仕様	A－1　打放し面表面劣化部処理［サンダー工法］		A－2　モルタル面表面劣化部処理［サンダー工法］		B－1　打放し面樹脂注入工法［標仕4．3．4］ ひび割れ幅　0．2～1．0㎜		B－2　打放し面Uカットシール材充てん工法［標仕4．3．5（1）］ ひび割れ幅　1．0㎜以上		B－3　打放し面Uカットシール材充てん工法［標仕4．3．5（1）］ ひび割れ幅　0．2～1．0㎜		C－1　打放し面錆鉄筋部処理	
改修前												
改修後												
工　程	①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン（＊全面　・部分） ②高圧水洗浄（150～200kg／c㎡） ③セメント系下地調整材コテ塗り（1．5㎜±0．5㎜） 参考数量：　㎡		①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン（＊全面　・部分） ②高圧水洗浄（150～200kg／c㎡） ③セメント系下地調整材コテ塗り（1．5㎜±0．5㎜） 参考数量：　㎡		①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1．5㎜±0．5㎜） ※A－1工法を行う場合は，①，④の工程はA－1工法に含む。 参考数量：　ひび割れ幅　0．2～0．5㎜　（　　） ひび割れ幅　0．5～1．0㎜　3-1号棟2.0m（　　） ひび割れ幅　0．5～1．0㎜　3-2号棟13.5m（　　） （　）内は挙動ひび割れ数量を示す		①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（150～200kg／c㎡） ③シーリング材打設 ④Uカット部埋戻し　（ポリマーセメントモルタル） ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1．5㎜±0．5㎜） ※A－1工法を行う場合は，⑤の工程はA－1工法に含む。 参考数量：　m		①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（150～200kg／c㎡） ③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1．5㎜±0．5㎜） ※A－1工法を行う場合は，④の工程はA－1工法に含む。 参考数量　m		①錆鉄筋周辺のはつり ②錆落とし ③高圧水洗浄（150～200kg／c㎡） ④防錆処理 ⑤はつり部埋戻し整形 ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（1．5㎜±0．5㎜） ※A－1工法を行う場合は，⑥の工程はA－1工法に含む。 参考数量：　10.6㎡ 3－1号棟　：3.6㎡ 3－2号棟　：17.9㎡	

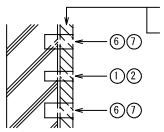
名　称	B　ひび割れ部処理								C　錆鉄筋部処理	
記号・仕様	B－4　モルタル面樹脂注入工法［共仕4．4．5］ ひび割れ幅　0．2～1．0㎜		B－5　モルタル面躯体部樹脂注入工法［標仕4．4．5］ ひび割れ幅　0．2～1．0㎜		B－6　モルタル面Uカットシール材充てん工法 ひび割れ幅　1．0㎜以上		B－7　モルタル面Uカットエポキシ樹脂充てん工法 ひび割れ幅　0．2～1．0㎜		C－1　打放し面錆鉄筋部処理	
改修前										
改修後										
工　程	①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1．5㎜±0．5㎜） ※A－2工法を行う場合は，①，④の工程はA－1工法に含む。 参考数量：　ひび割れ幅　0．2～0．5㎜　（　　） ひび割れ幅　0．5～1．0㎜　（　　） （　）内は挙動ひび割れ数量を示す		①ひび割れ周囲モルタルカッター切り ②モルタル除去 ③ひび割れ部シール ④エポキシ樹脂注入 ⑤埋戻し ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（1．5㎜±0．5㎜） ※A－2工法を行う場合は，⑥の工程はA－1工法に含む。 参考数量：		①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（150～200kg／c㎡） ③シーリング材打設 ④Uカット部埋戻し　（ポリマーセメントモルタル） ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1．5㎜±0．5㎜） ※A－2工法を行う場合は，⑤の工程はA－1工法に含む。 参考数量：　m		①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（150～200kg／c㎡） ③可とう性エポキシ樹脂充てん後けい砂 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1．5㎜±0．5㎜） ※A－2工法を行う場合は，④の工程はA－1工法に含む。 参考数量：		①錆鉄筋周辺のはつり ②錆落とし ③高圧水洗浄（150～200kg／c㎡） ④防錆処理 ⑤はつり部埋戻し整形 ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（1．5㎜±0．5㎜） ※A－1工法を行う場合は，⑥の工程はA－1工法に含む。 参考数量：　10.6㎡ 3－1号棟　：3.6㎡ 3－2号棟　：17.9㎡	

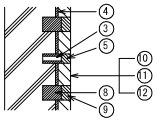
名　称	C　錆鉄筋部処理		D　浮き部処理				
記号・仕様	C－2　モルタル面錆鉄筋部処理		D－1　モルタル面はつり		D－2　モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　［標仕4．4．10］ D－2'　タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法　［標仕4．5．9］		
改修前							①一般部分標準グリッド（250×250）　③峡幅部 （指定部以外の部分） （幅200㎜以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）   ● アンカーピン固定部 ②指定部分標準グリッド（200×200） （見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等） 
改修後							
工　程	①カッター縁切り ②浮き部はつり ③錆落とし ④高圧水洗浄（150～200kg／c㎡） ⑤防錆処理 ⑥はつり部埋戻し整形 ⑦セメント系下地調整材コテ塗り（1．5㎜±0．5㎜） ※A－2工法を行う場合は，⑦の工程はA－1工法に含む。 参考数量　㎡		①カッター縁切り ②浮き部はつり ③高圧水洗浄（150～200kg／c㎡） ④はつり部埋戻し整形 ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1．5㎜±0．5㎜） ※A－2工法を行う場合は，⑤の工程はA－1工法に含む。 参考数量：　9.7㎡ 3－1号棟　：　0㎡ 3－2号棟　：9.7㎡		①穿孔　一般部　16　ヶ所 指定部　25　ヶ所 ②孔内エアー清掃　一般部　16　ヶ所 指定部　25　ヶ所 ③エポキシ樹脂注入　一般部　16　ヶ所 指定部　25　ヶ所 ④ステンレスピン挿入　一般部　16　ヶ所 指定部　25　ヶ所 ⑤穿孔跡埋戻し　［エポキシパテ］　一般部　16　ヶ所 指定部　25　ヶ所 ⑥サンダーケレン ⑦高圧水洗浄（150～200kg／c㎡） ⑧セメント系下地調整材コテ塗り（1．5㎜±0．5㎜） ※A－2工法を行う場合は，⑥，⑦，⑧の工程はA－1工法に含む。 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③峡幅部：		

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所　広島県知事登録17(1)第0497号 岡田建築設計事務所 一級建築士　第102449号　岡田文夫	JOB. NO.	DATE 2020.01.	SCALE	TITLE 小西住宅3号棟外壁改修工事	NO. A／07	図面縮小率
			CH.	PL.	DR.	NAME 外壁改修工事特記仕様書（1）		A-2：100% A-3：71% A-4：50%

名　称	Ｄ　浮き部処理
記号・仕様	Ｄ－６　モルタル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．４．１４］ Ｄ－６’　タイル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法　［標仕４．５．１３］

改修前　改修後

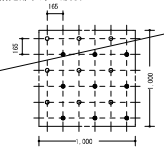




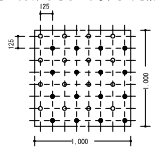
工　程

①ピン固定部穿孔	一般部	9	ヶ所	⑤穿孔跡埋戻し　［エポキシパテ］	一般部	9	ヶ所	⑨穿孔跡埋戻し　［エポキシパテ］	一般部	9	ヶ所
	指定部	16	ヶ所		指定部	16	ヶ所		指定部	16	ヶ所
②孔内エアー清掃	一般部	9	ヶ所	⑥注入口穿孔	一般部	9	ヶ所	⑩サンダーケレン			
	指定部	16	ヶ所		指定部	16	ヶ所	⑪高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）			
③ステンレスピン（注入口付）挿入	一般部	9	ヶ所	⑦孔内エアー清掃	一般部	9	ヶ所	⑫セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）			
	指定部	16	ヶ所		指定部	16	ヶ所	※Ａ－２工法を行う場合，⑩，⑪，⑫の工程はＡ－２工法に含む			
④エポキシ樹脂注入	一般部	9	ヶ所	⑧エポキシ樹脂注入	一般部	9	ヶ所	参考数量：①一般部分：			
	指定部	16	ヶ所		指定部	16	ヶ所	②指定部分：			
								③峡幅部：			

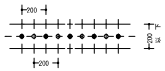
①一般部分標準グリッド（１６５×１６５）
（指定部以外の部分）



②指定部分標準グリッド（１２５×１２５）
（見上げ面、ひさしのはな、まぐさ隅角部分等）



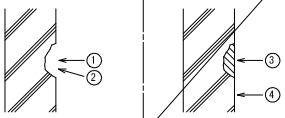
③峡幅部
（幅２００mm以下で帯状に剥離している幅の狭い箇所）



● 注入口付アンカーピン固定部
○ 注入口

名　称	Ｅ　欠損部処理
記号・仕様	Ｅ－１　打放し面充填工法［標仕４．３．７］

改修前　改修後



工　程

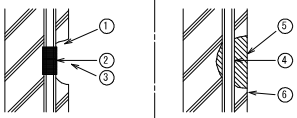
①欠損部はつり等での整形
②高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）
③欠損はつり部埋戻し［ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ又はﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ］
④セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

※Ａ－１工法を行う場合，②，④の工程はＡ－１工法に含む

参考数量：

記号・仕様	Ｅ－２　打放し面欠損部処理［標仕４．３．３］

改修前　改修後



工　程

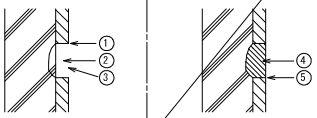
①欠損部・錆鉄筋周辺はつり等での整形
②錆落とし
③高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）
④防錆処理
⑤欠損はつり部埋戻し［ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ又はﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ］
⑥セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）

※Ａ－１工法を行う場合，③，⑥の工程はＡ－１工法に含む

参考数量：21.5㎡
３－１号棟　：3.6㎡
３－２号棟　：17.9㎡

記号・仕様	Ｅ－３　モルタル面欠損部処理［標仕４．４．３］

改修前　改修後



工　程

①カッター縁切り
②欠損部はつり等での整形
③高圧水洗浄（１５０～２００kg／ｃ㎡）
④欠損はつり部埋戻し［ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ又はﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ］
⑤セメント系下地調整材コテ塗り（１．５mm±０．５mm）
（鉄筋の露出部がある場合はＥ－２による）

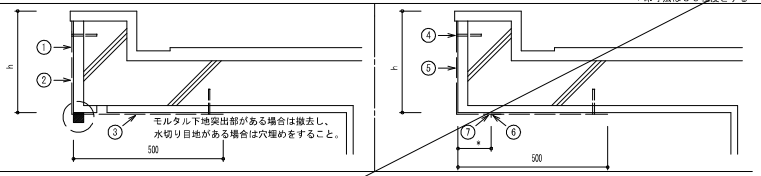
※Ａ－２工法を行う場合，③，⑤の工程はＡ－２工法に含む

参考数量：12.0㎡

名　称	Ｆ　外壁複合改修工法
記号・仕様	Ｆ　外壁複合改修工法　大庇・バルコニーに適用する

＊印寸法は８０程度とする

改修前　改修後



工　程

下地補修後
① プライマー下塗り
② ポリマーペースト中塗り
③ 三軸ネット張り
④ ワッシャー付アンカーピン打ち込み
⑤ ポリマーペースト中塗り
⑥ アルミ水切り取付け（L-30×15×2.0　ステンレスビス止@450）
⑦ シーリング打設（MS-2）

参考数量	ネット張り		
	水切り		

名　称	
記号・仕様	

改修前　改修後

工　程

特記事項	訂正事項

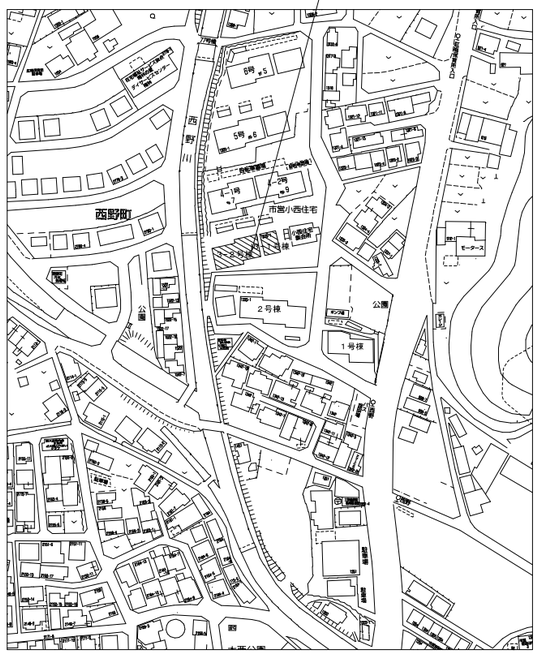
一級建築士事務所　広島県知事登録17(1)第0497号

岡田建築設計事務所

一級建築士　第102449号　岡田文夫

JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率
	2020.01.		小西住宅３号棟外壁改修工事	A／08	A-2：100%
CH.	PL. / DR.		NAME 外壁改修工事特記仕様書（２）		A-3：71%
					A-4：50%

工事場所
三原市西野町四丁目
3-1号棟、3-2号棟



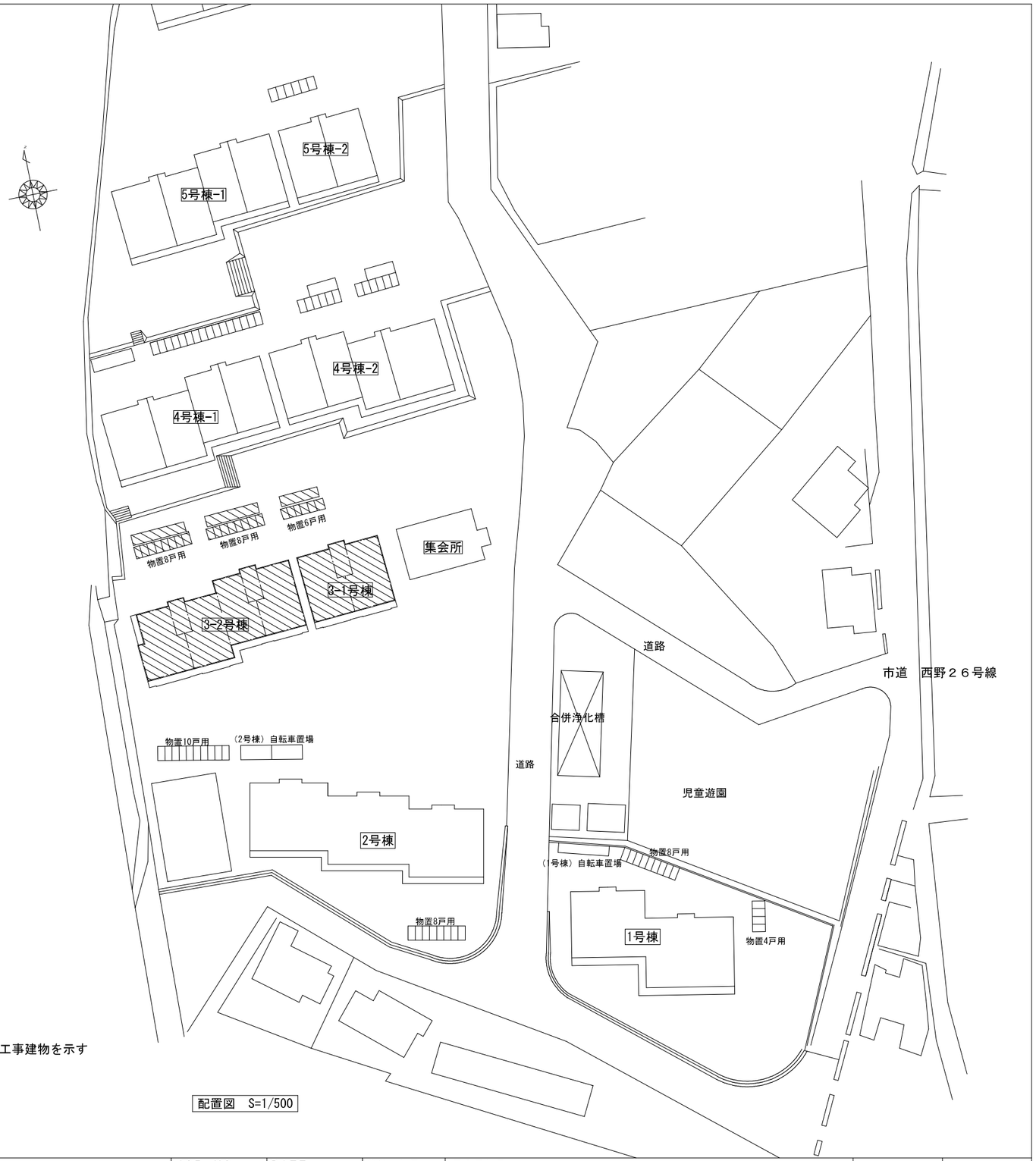
付近見取り図

３－１号棟　工事概要
ＲＣ造　３階建　延べ面積　433.88㎡
外壁改修工事
ベランダ防水工事
物置屋根、外壁改修工事
手すり等改修工事
縦樋取替工事

３－２号棟　工事概要
ＲＣ造　３階建　延べ面積1,150.13㎡
外壁改修工事
ベランダ防水工事
物置屋根、外壁改修工事
手すり等改修工事
縦樋取替工事

凡　例

工事建物を示す



配置図　S=1/500

特記事項	訂正事項

一級建築士事務所　広島県知事登録17（１）第0497号

岡田建築設計事務所

一級建築士　第102449号　岡田文夫

JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率
	2020.01.	1/500	小西住宅３号棟外壁改修工事	A / 09	A-2：100%
CH.	PL. / DR.		NAME: 付近見取図、配置図、工事概要		A-3：71%
					A-4：50%

A 外 部 仕 上 表

凡例 赤色で示す箇所はアスベスト含有箇所
オレンジ色で示す箇所はアスベスト含有見込み箇所

符号	場所・部位	下地	改修前 仕 上	改修後 仕 上	備 考
①	根回り	M	モルタル金コテ（高圧水洗浄）	既存のまま（高圧水洗浄）、ハツリ部分モルタル金コテの上複層塗材E吹付	
②	外壁・パラペット 軒鼻・バルコニー壁	C	アクリルリシン吹付(下地材共除去) コンクリート打放し（既設）	全面下地調整材左官塗りの上複層塗材E吹付	
③	物置外壁	C	アクリルリシン吹付(下地材共除去) PC板（既設）	全面下地調整材左官塗りの上複層塗材E吹付	
④	軒裏	C	アクリルリシン吹付(下地材共除去) コンクリート打放し（既設）	全面下地調整材左官塗りの上複層塗材E吹付	
⑤	庇裏	C	アクリルリシン吹付(下地材共除去) コンクリート打放し（既設）	全面下地調整材左官塗りの上複層塗材E吹付	
⑥	バルコニー天井	C	アクリルリシン吹付(下地材共除去) コンクリート打放し（既設）	全面下地調整材左官塗りの上複層塗材E吹付	
⑦	バルコニー床	M	防水モルタル金コテ（高圧水洗浄）	ポリマーセメント系塗膜防水	
⑧	窓台	M	防水モルタル金コテ（高圧水洗浄）	ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	
⑨	面台 庇（上部分・見付・小口）	M	防水モルタル金コテ（高圧水洗浄）	ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	
⑩	物置屋根	C	PC板（高圧水洗浄）	ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）	
⑪	バルコニー・窓手すり	鋼製	SOP(下地処理)	DP塗替え	
⑫	隔て板	鋼製 大平板	SOP（下地処理） 大平板（撤去処分）	DP塗替え ケイカル板．t＝6.0 DP塗装（新設）	
⑬	物干し金物	鋼製	SOP(下地処理)	DP塗替え	
⑭	分電盤等	鋼製	焼付塗装(下地処理)	DP塗替え	
⑮	縦樋（北側）	VP	塩化ビニールパイプ（撤去処分）	カラーVPφ100に取替 掴み金物共（SUS）（新設）	
⑯	保護管	鋼製	SGP125φ(撤去処分)	SGP125φDP塗装 掴み金物共（SUS）（新設）	
⑰	縦樋（バルコニー側）	VP	塩化ビニールパイプ	カラーVPφ100に取替 掴み金物共（SUS）（新設）	
⑱	スロープ	M	モルタル金コテ目地切（高圧水洗浄）	ノンスリップ塗装	
⑲	棟番号表示	S	鋼製SOP 2ヶ所 600×300（撤去処分）	鋼製ｔ＝6.0 DP 2ヶ所 600×300（新設）	
⑳	3-1号棟 階数表示板、室名札 3-2号棟 階数表示板、室名札		階数表示 3ヶ所、室名札 6ヶ所（撤去処分） 階数表示 8ヶ所、室名札 16ヶ所（撤去処分	階数表示板（SK600A)3ヶ所、室名札（SK-602W-2） 6ヶ所（新協和同等品） 階数表示板（SK600A)8ヶ所、室名札（SK-602W-2）16ヶ所（新協和同等品）	
㉑	階段室	C M	壁、階段裏コンクリート打ち放しの上アクリルリシン吹付（下地材共除去） 腰壁 モルタル金コテの上ＥＰＡ（ケレン）	全面下地調整材左官塗りの上複層塗材E吹付 複層塗材E吹付	
㉒	階段室天井		大平板 ｔ＝5.0 アクリルリシン吹付（高圧水洗浄）	複層塗材E吹付	

※アスベストを含有する既存アクリルリシン吹付（下地材（フィラー）共）除去に際しての工法はコンステックAGバブルシステム工法同等とする。
※住民の生活環境に配慮し，各住戸が密閉される期間が長くならないようにするため，アスベストの除去作業は，各棟の各階ごとに工期を区切って順番に除却を行うこと。

特 記 事 項	
・エアコン室外機 3-1号棟 3ヶ所 一時移転再取付施工後作動確認	その他外構
・エアコン室外機 3-2号棟 11ヶ所 一時移転再取付施工後作動確認	
・BSアンテナ 3-1号棟 1ヶ所 一時移転後再取付	
・BSアンテナ 3-2号棟 2ヶ所 一時移転後再取付	
・外部建具：建具周囲シーリング打替（共通）	
・ガラスクリーニング（共通）	

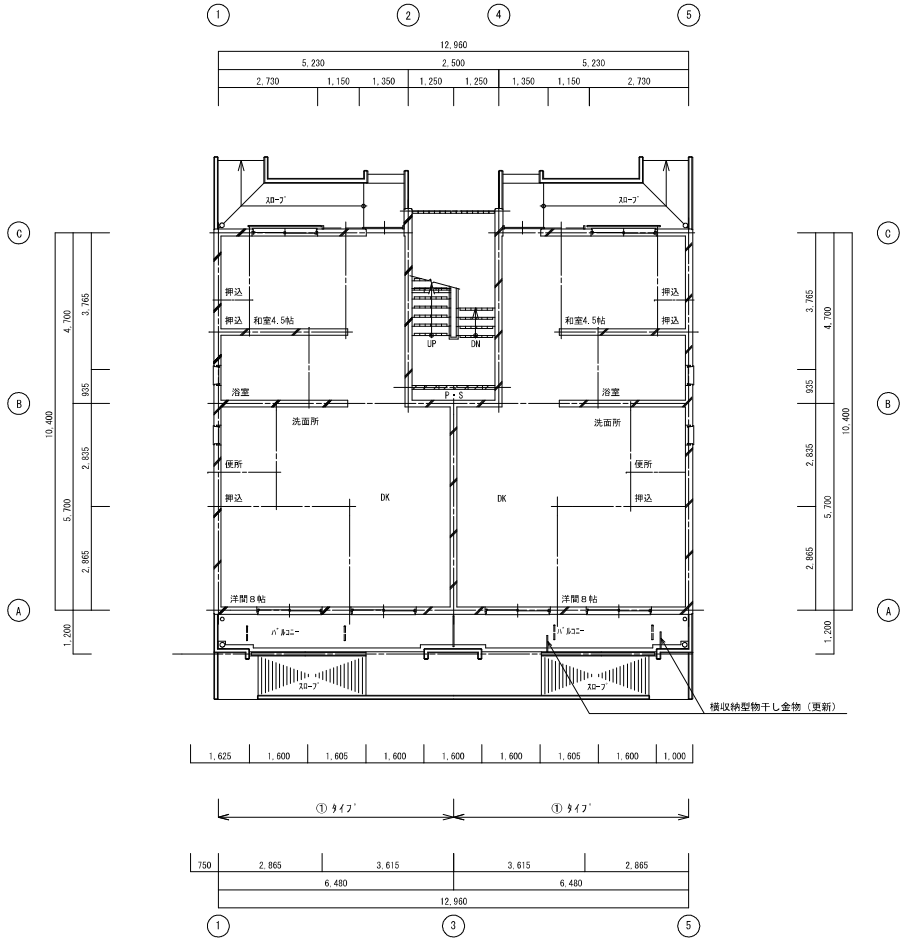
塗装面下地調整	
（イ）	亜鉛メッキ面の下地調整RB種30%の上、鉛酸カルシウム錆止め、現場全面１回塗り
（ロ）	鋼製建具面の下地調整RB種30%の上、鉛酸カルシウム錆止め、現場全面１回塗り
（ハ）	モルタル・ボード面の下地調整RB種30%
（ニ）	鉄面の下地調整RB種30%の上、錆止め塗料A種、錆止め塗料塗りC種
（ホ）	VE(VP)管の下地調整 汚れ付着除去程度
（ニ）	アルミ面は、脱脂、エッチング、スマット除去溶剤、クロメート系化成皮膜処理材

凡 例	
SOP	合成樹脂調合ペイント
AE（VP）	塩化ビニル樹脂エナメル
C	コンクリート
S	鋼製
EP－G	合成樹脂エマルジョンペイント
DP	耐候性塗料

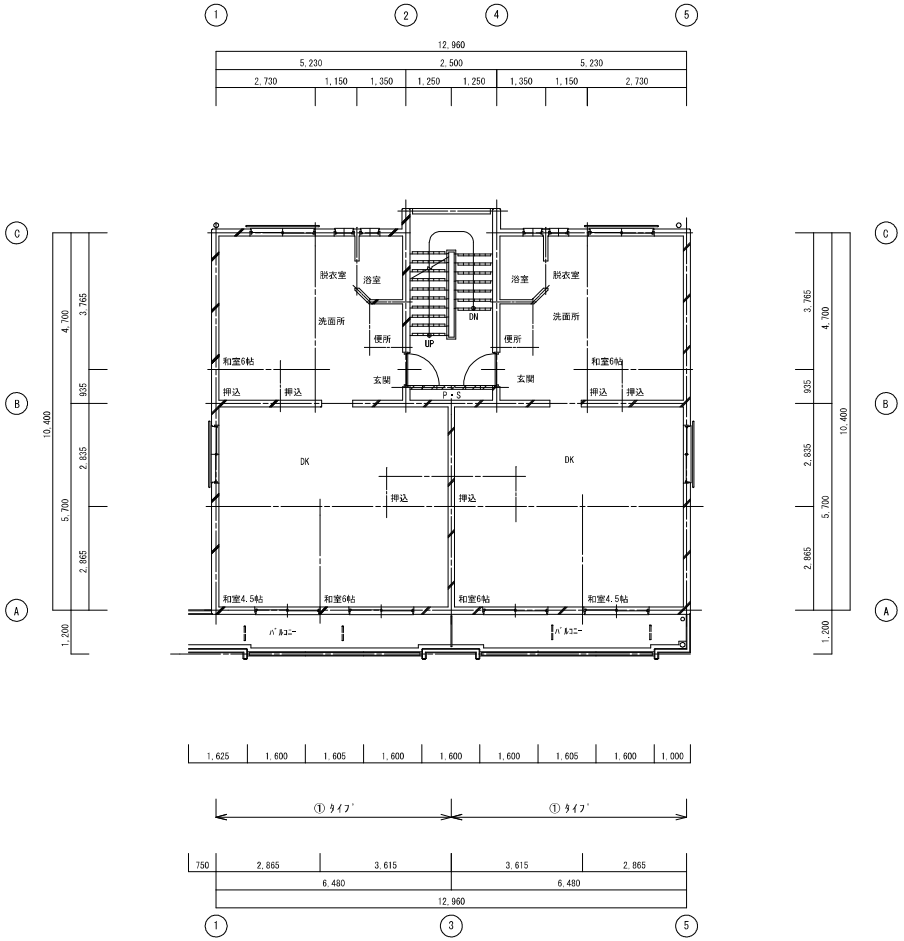
特記事項	訂正事項

一級建築士事務所 広島県知事登録17（１）第0497号
岡 田 建 築 設 計 事 務 所
一級建築士 第102449号 岡田文夫

JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率
	2020.01.		小西住宅３号棟外壁改修工事	A／10	A-2：100%
CH.	PL.	DR.	NAME 外部仕上表		A-3： 71%
					A-4： 50%

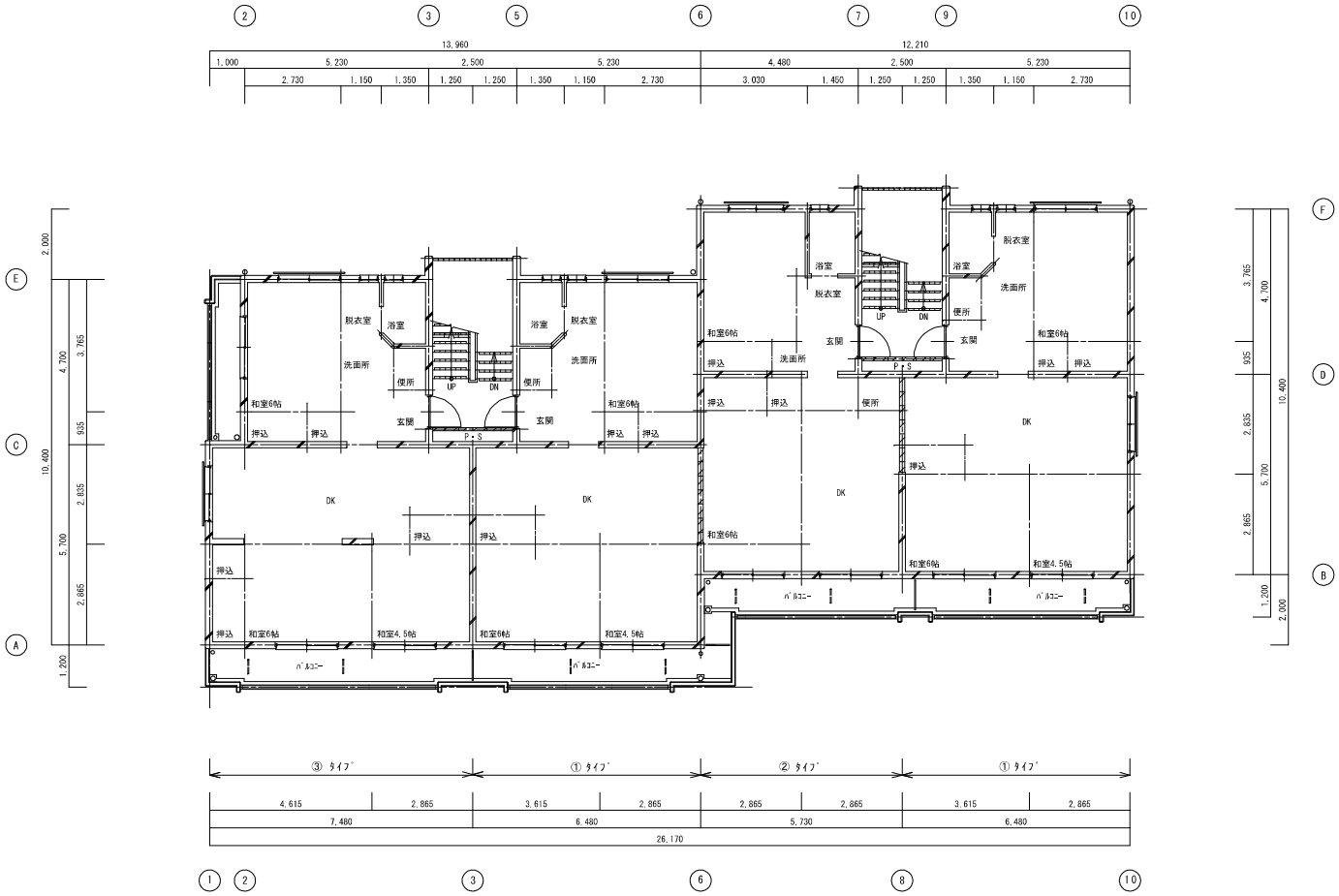


（3-1号棟）1階平面図　S=1/100



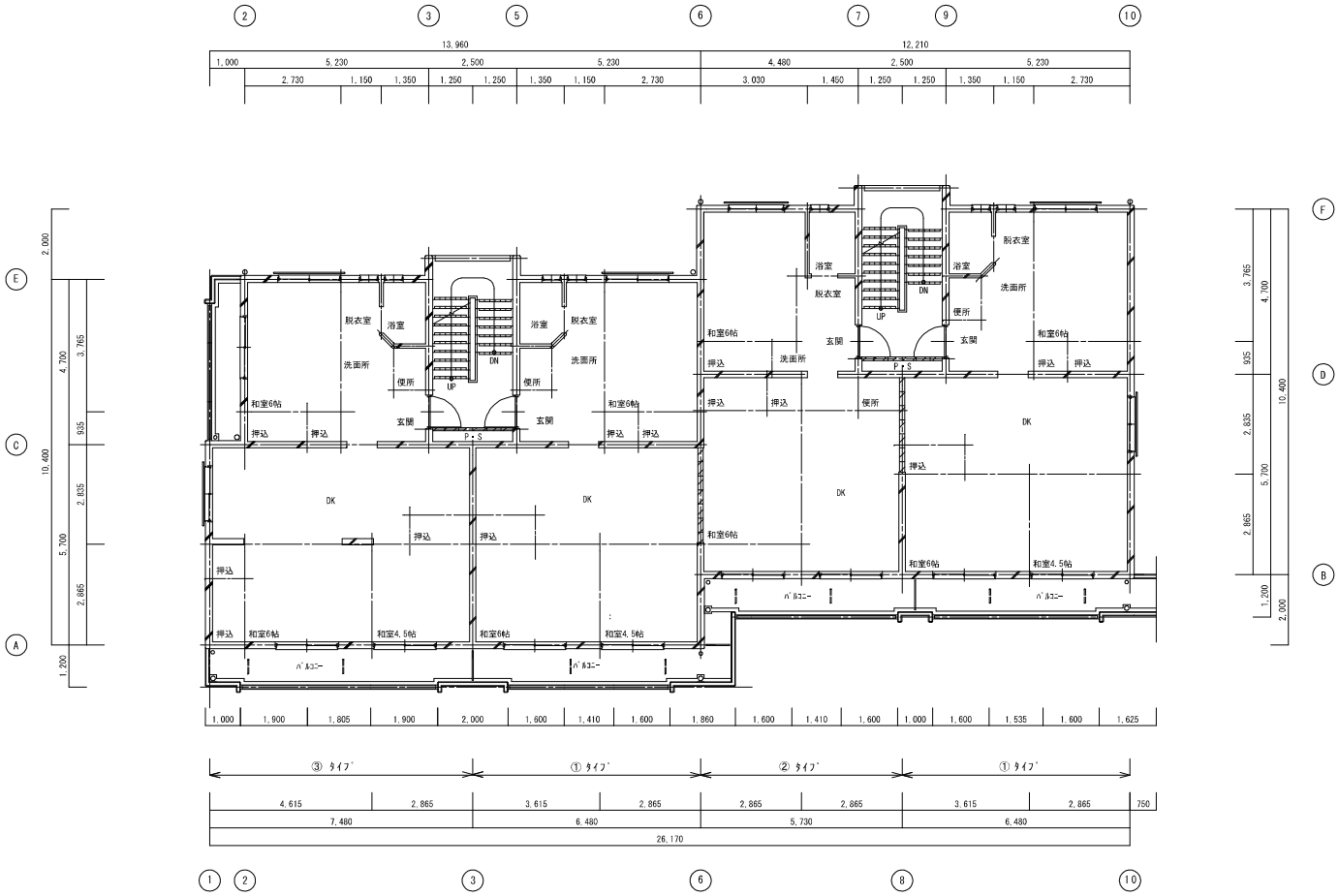
（3-1号棟）2・3階平面図　S=1/100

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録17(1)第0497号 岡田建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB. NO.	DATE 2020.01.	SCALE 1/100	TITLE 小西住宅３号棟外壁改修工事	NO. A / 11	図面縮小率
			CH.	PL. / DR.		NAME （3-1号棟） 1・2・3階平面図		A-2：100%
								A-3：71%
								A-4：50%



（3-2号棟）1階平面図　S=1/100

特記事項	訂正事項								
		一級建築士事務所　広島県知事登録17(1)第0497号 岡田建築設計事務所 一級建築士　第102449号　岡田文夫	JOB. NO.	DATE 2020.01.	SCALE 1/100	TITLE 小西住宅３号棟外壁改修工事	NO. A / 12	図面縮小率
			CH.	PL. DR.		NAME （3-2号棟）　1階平面図		A-2：100% A-3：71% A-4：50%



（3-2号棟）　２・３・４階平面図　S=1/100

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所　広島県知事登録17(1)第0497号 岡田建築設計事務所 一級建築士　第102449号　岡田文夫	JOB. NO.	DATE 2020.01.	SCALE 1/100	TITLE 小西住宅３号棟外壁改修工事	NO. A / 13	図面縮小率
			CH.	PL. / DR.		NAME （3-2号棟）２・３・４階平面図		A-2：100%
								A-3：71%
								A-4：50%

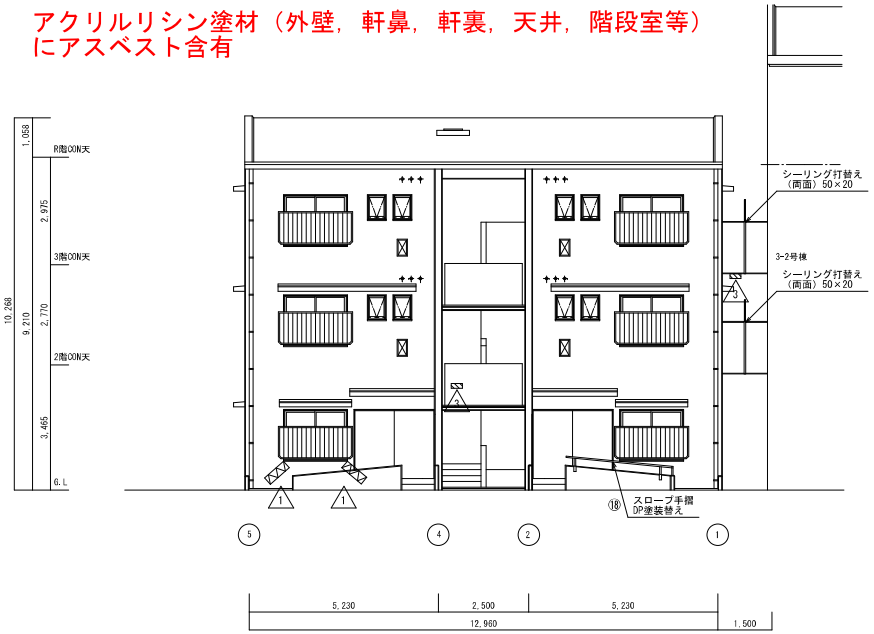
外部改修仕上表

凡例 赤色で示す箇所はアスベスト含有箇所
オレンジ色で示す箇所はアスベスト含有見込み箇所

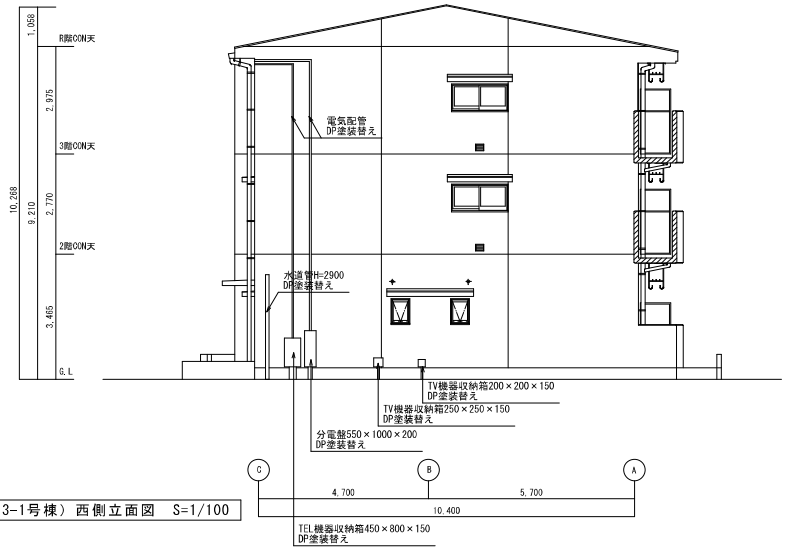
番号	部位	改修前	改修後
①	根回り	仕上：モルタル金コテ(高圧水洗浄)	仕上：複層塗材E吹付（新設） ハツリ部分モルタル金コテの上複層塗材E吹付
②	外壁・パラペット 軒鼻・バルコニー壁	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し(全面下地調整材左官塗り)
③	物置外壁	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：PC板（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：PC板(全面下地調整材左官塗り)
④	軒裏	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し(全面下地調整材左官塗り)
⑤	庇裏	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し(全面下地調整材左官塗り)
⑥	バルコニー天井	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し(全面下地調整材左官塗り)
⑦	バルコニー床	仕上：防水モルタル金コテ（高圧水洗浄）	ポリマーセメント系塗膜防水
⑧	窓台	仕上：防水モルタル金コテ（高圧水洗浄）	ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）
⑩	面台 庇（上部分・見付・小口）	仕上：防水モルタル金コテ（高圧水洗浄）	ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）
⑪	バルコニー・窓手すり	鋼製(下地処理)	DP塗替え
⑫	隔て板	鋼製(下地処理) 大平板（撤去処分）	DP塗替え ケイカル板．t＝6.0　DP塗装（新設）
⑬	物干し金物 物干し金物（3-1号棟1階）	鋼製(下地処理) 横収納型（撤去処分）1ヶ所	DP塗替え 横収納型（SK-45LSB-WC）（新設）1ヶ所
⑭	分電盤等	焼付塗装(下地処理)	DP塗替え
⑮	縦樋（北側）	塩化ビニールパイプ（撤去処分）	カラーVPφ100に取替　掴み金物共（SUS）（新設）
⑯	保護管	SGP125φ(撤去処分)	SGP125φDP塗装　掴み金物共（SUS）（新設）
⑰	縦樋（バルコニー側）	塩化ビニールパイプ	カラーVPφ100に取替　掴み金物共（SUS）（新設）
⑱	スロープ：床 スロープ：鋼製手摺	モルタル金コテ目地切（高圧水洗浄） 鋼製(下地処理)（１ヶ所のみ）	ノンスリップ塗装 DP塗替え
⑲	棟番号表示	鋼製SOP　2ヶ所　600×300（撤去処分）	鋼製ｔ＝9.0　DP　2ヶ所　600×300（新設）
⑳	3-1号棟　階数表示板、室名札 3-2号棟　階数表示板、室名札	階数表示　3ヶ所、室名札　6ヶ所（撤去処分） 階数表示　8ヶ所、室名札　16ヶ所（撤去処分	階数表示板（SK600A）3ヶ所、室名札（SK-602VW-2）6ヶ所 階数表示板（SK600A）8ヶ所、室名札（SK-602VW-2）16ヶ所
㉑	階段室	壁、階段裏コンクリート打ち放しの上アクリルリシン吹付（下地材共除去） 腰壁　モルタル金コテの上ＥＰＡ（ケレン）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し(全面下地調整材左官塗り)
㉒	階段室天井	大平板　ｔ＝5.0　アクリルリシン吹付 （下地材とも除去）	複層塗材E吹付

※アスベストを含有する既存アクリルリシン吹付（下地材（フィラー）共）除去に際しての工法はコンステックAGバブルシステム工法同等とする。

アクリルリシン塗材（外壁，軒鼻，軒裏，天井，階段室等）
にアスベスト含有



（3-1号棟）北側立面図　S=1/100



（3-1号棟）西側立面図　S=1/100

特記事項	訂正事項

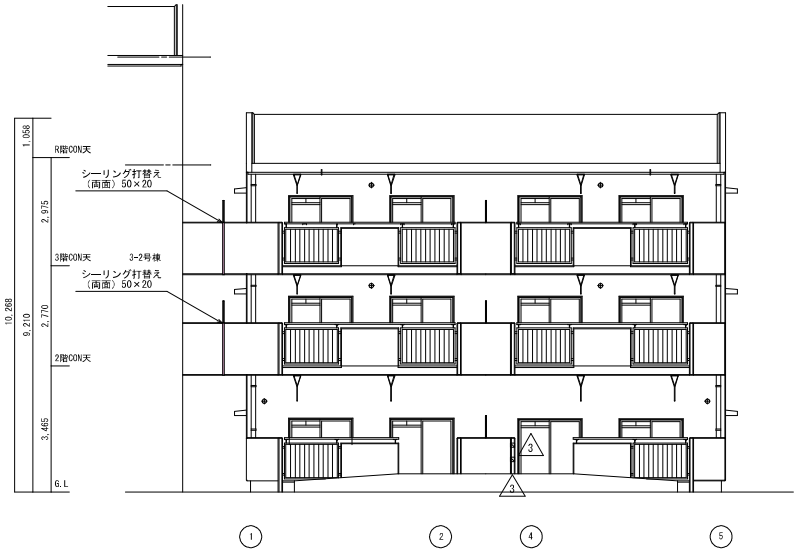
一級建築士事務所　広島県知事登録17（１）第0497号
岡田建築設計事務所
一級建築士　第102449号　岡田文夫

JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率
	2020.01.	1/100	小西住宅３号棟外壁改修工事	A／14	A-2：100%
CH.	PL.	DR.	NAME：（3-1号棟）　北側、西側立面図		A-3：71%
					A-4：50%

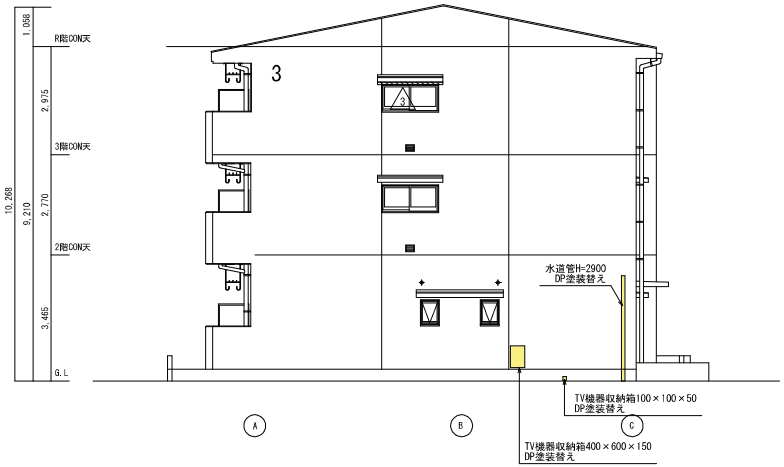
劣化部分調査及び改修工法

符号	部位	劣化状況	改修工法	備考
1		ヒビ割れ	B-1(0.5～1.0mm)	参考数量：2.0m
2		モルタル浮き	モルタルはつり モルタル金コテ	参考数量：0.0㎡
3		打放し面・サビ鉄筋	C-1	参考数量：3.6㎡

※外壁劣化調査は手の届く範囲内であるので、施工に当っては再度全体を調査の上劣化部分を確認して施工のこと。

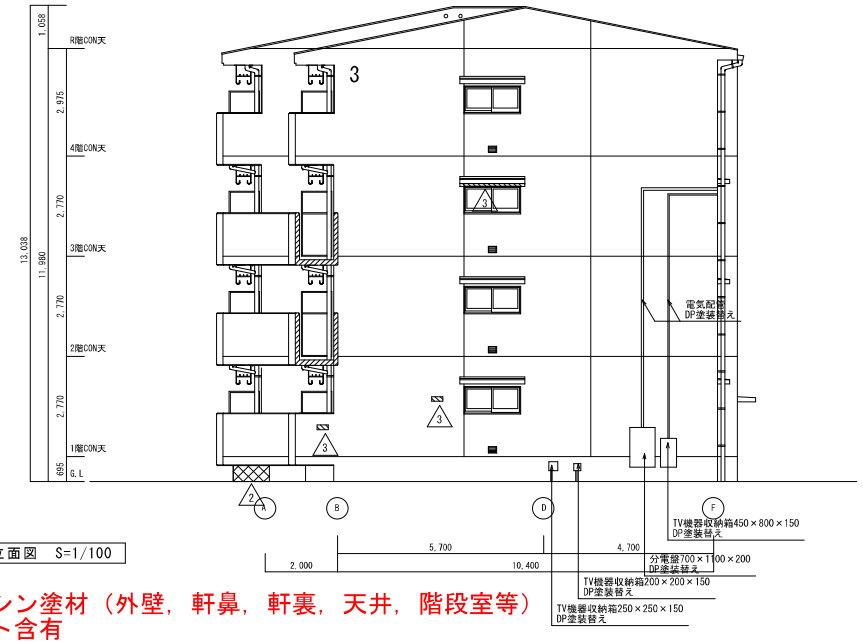


（3-1号棟）南側立面図　S=1/100



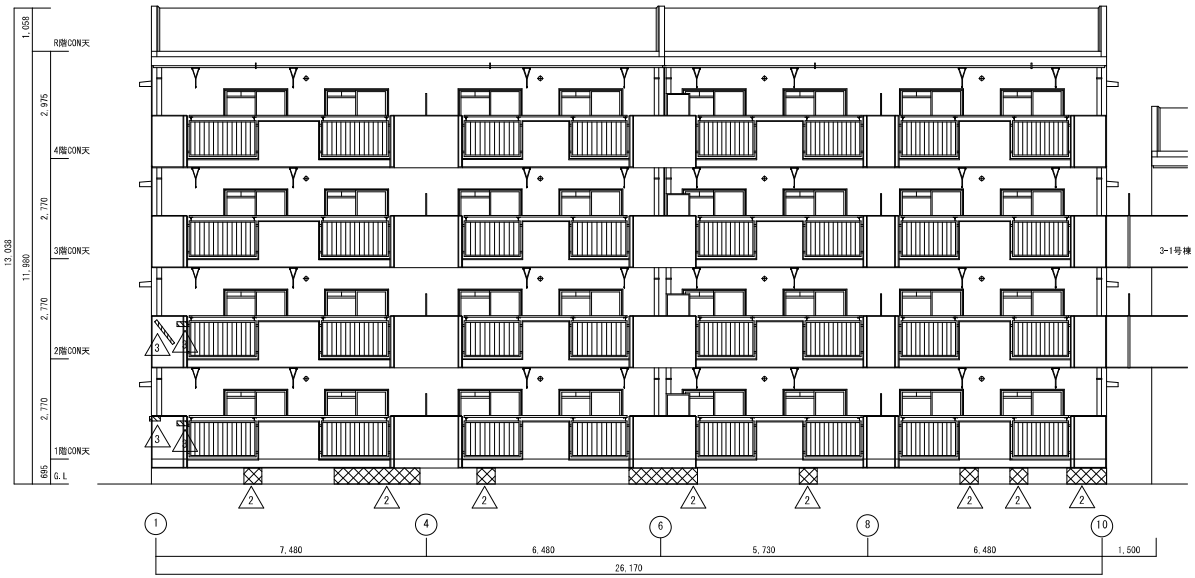
（3-1号棟）東側立面図　S=1/100

特記事項	訂正事項	一級建築士事務所 広島県知事登録17(1)第0497号 岡田建築設計事務所 一級建築士 第102449号 岡田文夫	JOB. NO.	DATE 2020.01.	SCALE 1/100	TITLE 小西住宅３号棟外壁改修工事 NAME （3-1号棟） 南側、東側立面図	NO. A / 15	図面縮小率 A-2：100% A-3：71% A-4：50%
			CH.	PL. DR.				



3-2号棟　東側立面図　S=1/100

アクリルリシン塗材（外壁，軒鼻，軒裏，天井，階段室等）にアスベスト含有



3-2号棟　南側立面図　S=1/100

外部改修仕上表

凡例　赤色で示す箇所はアスベスト含有箇所
オレンジ色で示す箇所はアスベスト含有見込み箇所

番号	部位	改修前	改修後
①	根回り	仕上：モルタル金コテ(高圧水洗浄)	仕上：複層塗材E吹付（新設） ハツリ部分モルタル金コテの上複層塗材E吹付
②	外壁・パラペット 軒鼻・バルコニー壁	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打し(全面下地調整材左官塗り)
③	物置外壁	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：PC板（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：PC板(全面下地調整材左官塗り)
④	軒裏	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打し(全面下地調整材左官塗り)
⑤	庇裏	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打し(全面下地調整材左官塗り)
⑥	バルコニー天井	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打し(全面下地調整材左官塗り)
⑦	バルコニー床	仕上：防水モルタル金コテ（高圧水洗浄）	ポリマーセメント系塗膜防水
⑧	窓台	仕上：防水モルタル金コテ（高圧水洗浄）	ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）
⑩	面台 庇（上部分・見付・小口）	仕上：防水モルタル金コテ（高圧水洗浄）	ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）
⑪	バルコニー・窓手すり	鋼製(下地処理)	DP塗替え
⑫	隔て板	鋼製(下地処理) 大平板（撤去処分）	DP塗替え ケイカル板，t＝6.0　DP塗装（新設）
⑬	物干し金物 物干し金物（3-1号棟1階）	鋼製(下地処理) 横収納型（撤去処分）1ヶ所	DP塗替え 横収納型（SK-45LSB-WC）（新設）1ヶ所
⑭	分電盤等	焼付塗装(下地処理)	DP塗替え
⑮	縦樋（北側）	塩化ビニールパイプ（撤去処分）	カラーVPφ100に取替　掴み金物共（SUS）（新設）
⑯	保護管	SGP125φ(撤去処分)	SGP125φDP塗装　掴み金物共（SUS）（新設）
⑰	縦樋（バルコニー側）	塩化ビニールパイプ	カラーVPφ100に取替　掴み金物共（SUS）（新設）
⑱	スロープ：床 スロープ：鋼製手摺	モルタル金コテ目地切（高圧水洗浄） 鋼製(下地処理)（１ヶ所のみ）	ノンスリップ塗装 DP塗替え
⑲	棟番号表示	鋼製SOP　2ヶ所　600×300（撤去処分）	鋼製ｔ＝9.0　DP　2ヶ所　600×300（新設）
⑳	3-1号棟　階数表示板、室名札 3-2号棟　階数表示板、室名札	階数表示　3ヶ所、室名札　6ヶ所（撤去処分） 階数表示　8ヶ所、室名札　16ヶ所（撤去処分	階数表示板（SK600A)3ヶ所、室名札（SK-602W-2）6ヶ所 階数表示板（SK600A)8ヶ所、室名札（SK-602W-2）16ヶ所
㉑	階段室	壁、階段裏コンクリート打ち放しの上アクリルリシン吹付（下地材共除去） 腰壁　モルタル金コテの上ＥＰＡ（ケレン）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打し(全面下地調整材左官塗り)
㉒	階段室天井	大平板　ｔ＝5.0　アクリルリシン吹付 （下地材共除去）	複層塗材E吹付

※アスベストを含有する既存アクリルリシン吹付（下地材（フィラー）共）除去に際しての工法は
コンステックAGバブルシステム工法同等とする。

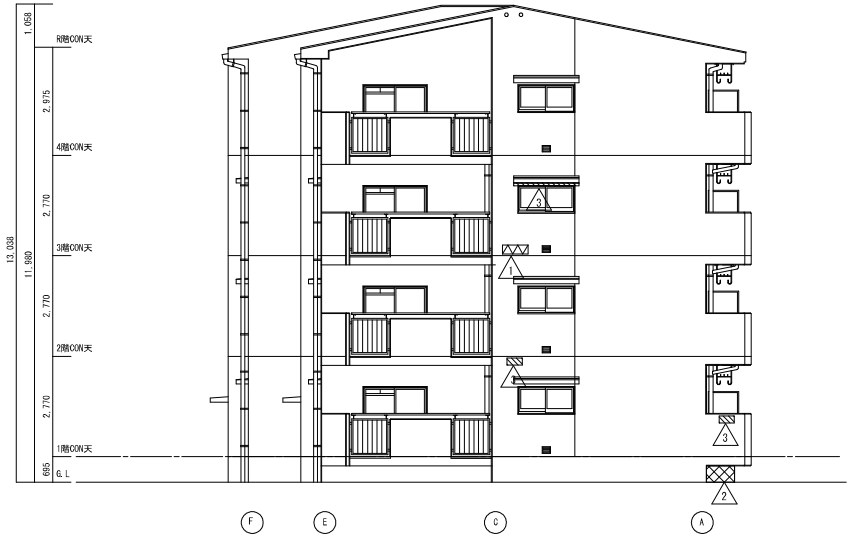
特記事項	訂正事項

一級建築士事務所　広島県知事登録17（１）第0497号

岡田建築設計事務所

一級建築士　第102449号　岡田文夫

JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率
	2020.01.	1/100	小西住宅３号棟外壁改修工事	A / 16	A-2：100%
CH.	PL.	DR.	NAME （3-2号棟）　南側、東側立面図		A-3：71%
					A-4：50%

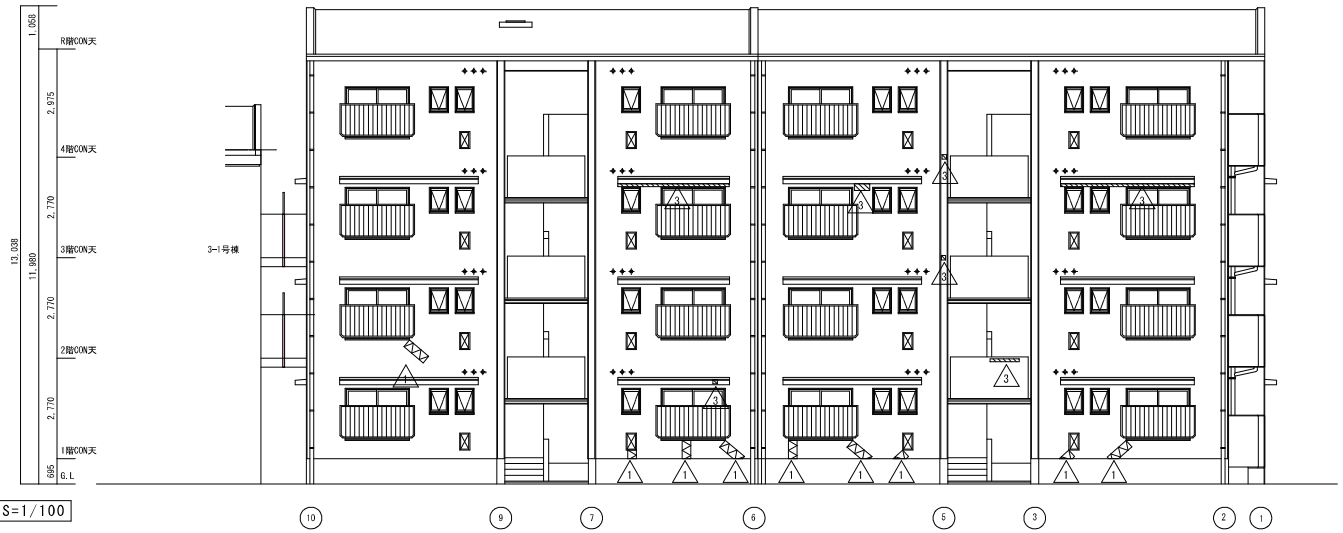


（3-2号棟）西側立面図　S=1/100

劣化部分調査及び改修工法

符号	部位	劣化状況	改修工法	備考
1		ヒビ割れ	B-1(0.5～1.0mm)	参考数量：13.5m
2		モルタル浮き	モルタルはつり モルタル金コテ	参考数量：9.7㎡
3		打放し面・サビ鉄筋	C-1	参考数量：17.9㎡

※外壁劣化調査は手の届く範囲内であるので、施工に当っては再度全体を調査の上劣化部分を確認して施工のこと。



（3-2号棟）北側立面図　S=1/100

特記事項	訂正事項

一級建築士事務所　広島県知事登録17(1)第0497号

岡田建築設計事務所

一級建築士　第102449号　岡田文夫

JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.
	2020.01.	1/100	小西住宅３号棟外壁改修工事	A / 17
CH. / PL.	DR.		NAME：（3-2号棟）　北側、西側立面図	

図面縮小率
A-2：100%
A-3：71%
A-4：50%

外部改修仕上表

凡例 赤色で示す箇所はアスベスト含有箇所
オレンジ色で示す箇所はアスベスト含有見込み箇所

番号	部位	改修前	改修後
①	根回り	仕上：モルタル金コテ(高圧水洗浄)	仕上：複層塗材E吹付（新設） ハツリ部分モルタル金コテの上複層塗材E吹付
②	外壁・パラペット 軒鼻・バルコニー壁	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し(全面下地調整材左官塗り)
③	物置外壁	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：PC板（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し(全面下地調整材左官塗り)
④	軒裏	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し(全面下地調整材左官塗り)
⑤	庇裏	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し(全面下地調整材左官塗り)
⑥	バルコニー天井	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し(全面下地調整材左官塗り)
⑦	バルコニー床	仕上：防水モルタル金コテ（高圧水洗浄）	ポリマーセメント系塗膜防水
⑧	窓台	仕上：防水モルタル金コテ（高圧水洗浄）	ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）
⑩	面台 庇（上部分・見付・小口）	仕上：防水モルタル金コテ（高圧水洗浄）	ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）
⑪	バルコニー・窓手すり	鋼製(下地処理)	DP塗替え
⑫	隔て板	鋼製(下地処理) 大平板（撤去処分）	DP塗替え ケイカル板．t＝6.0　DP塗装（新設）
⑬	物干し金物 物干し金物（3-1号棟1階）	鋼製(下地処理) 横収納型（撤去処分）1ヶ所	DP塗替え 横収納型（SK-45LSB-WC）（新設）1ヶ所
⑭	分電盤等	焼付塗装(下地処理)	DP塗替え
⑮	縦樋（北側）	塩化ビニールパイプ（撤去処分）	カラーVPφ100に取替　掴み金物共（SUS）（新設）
⑯	保護管	SGP125φ(撤去処分)	SGP125φDP塗装　掴み金物共（SUS）（新設）
⑰	縦樋（バルコニー側）	塩化ビニールパイプ	カラーVPφ100に取替　掴み金物共（SUS）（新設）
⑱	スロープ：床 スロープ：鋼製手摺	モルタル金コテ目地切（高圧水洗浄） 鋼製(下地処理)（１ヶ所のみ）	ノンスリップ塗装 DP塗替え
⑲	棟番号表示	鋼製SOP　2ヶ所　600×300（撤去処分）	鋼製ｔ＝9.0　DP　2ヶ所　600×300（新設）
⑳	3-1号棟　階数表示板、室名札 3-2号棟　階数表示板、室名札	階数表示　3ヶ所、室名札　6ヶ所（撤去処分） 階数表示　8ヶ所、室名札　16ヶ所（撤去処分	階数表示板（SK600A)3ヶ所、室名札（SK-602VW-2）6ヶ所 階数表示板（SK600A)8ヶ所、室名札（SK-602VW-2）16ヶ所
㉑	階段室	壁、階段表コンクリート打ち放しの上アクリルリシン吹付（下地材共除去） 腰壁　モルタル金コテの上ＥＰＡ（ケレン）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し(全面下地調整材左官塗り)
㉒	階段室天井	大平板　ｔ＝5.0　アクリルリシン吹付 （下地材共除去）	複層塗材E吹付

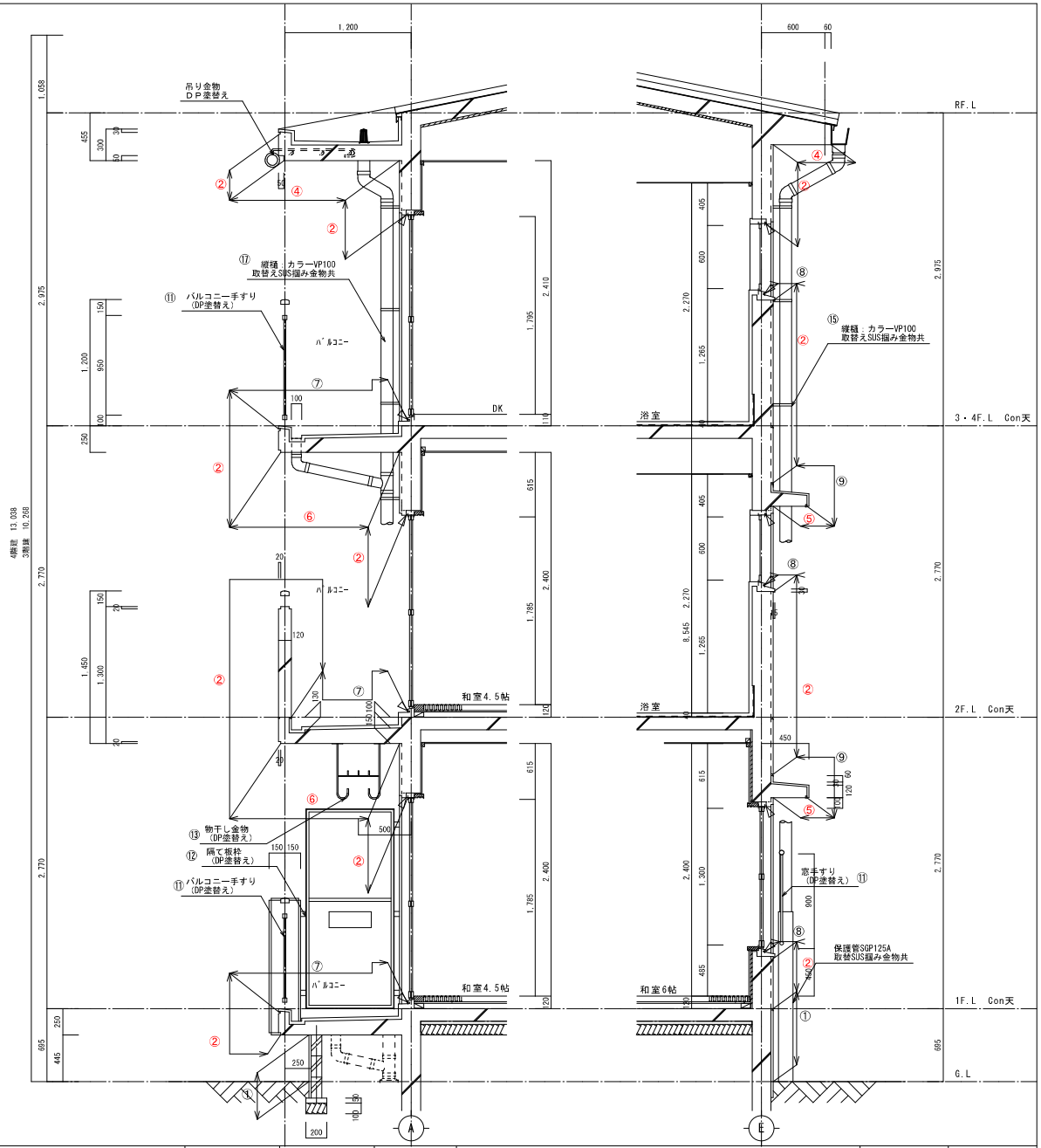
※アスベストを含有する既存アクリルリシン吹付（下地材（フィラー）共）除去に際しての工法は
コンステックAGバブルシステム工法同等とする。

※空調室外機（床置き3-1号棟）　3台（脱着）工事後作動確認のこと。

※空調室外機（床置き3-2号棟）11台（脱着）工事後作動確認のこと。

※ＢＳアンテナ　3-1号棟　1台ー時移転後再取付

※ＢＳアンテナ　3-2号棟　2台ー時移転後再取付



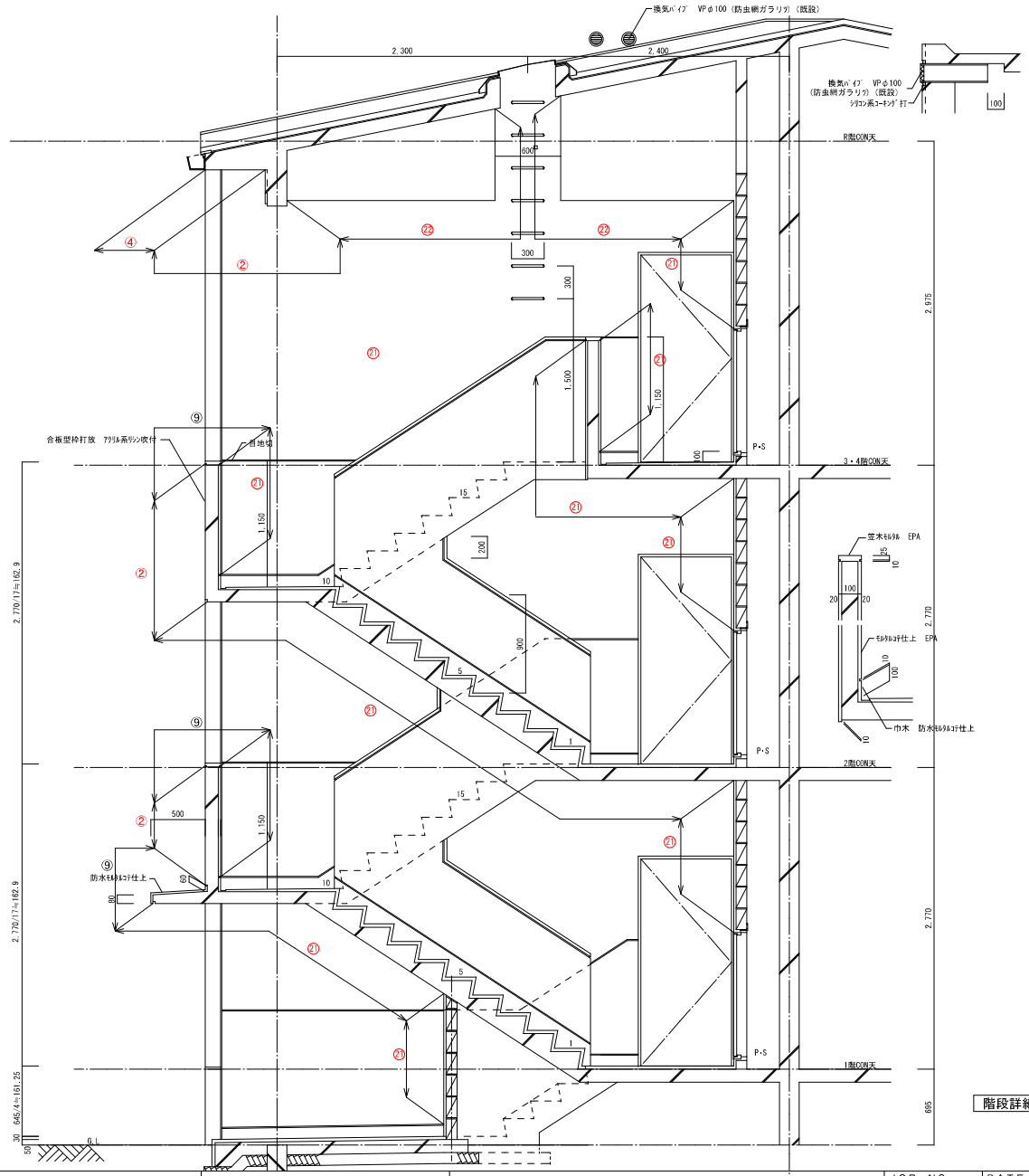
特記事項	訂正事項

一級建築士事務所　広島県知事登録17（１）第0497号

岡田建築設計事務所

一級建築士　第102449号　岡田文夫

JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率
	2020.01.	1/30	小西住宅３号棟外壁改修工事	A / 18	A-2：100%
CH.	PL.	DR.	NAME (3-2号棟) 矩計図		A-3：71%
					A-4：50%



階段詳細図　S=1/30

外部改修仕上表

凡例　赤色で示す箇所はアスベスト含有箇所
オレンジ色で示す箇所はアスベスト含有見込み箇所

番号	部位	改修前	改修後
①	根回り	仕上：モルタル金コテ（高圧水洗浄）	仕上：複層塗材E吹付（新設） ハツリ部分モルタル金コテの上複層塗材E吹付
②	外壁・パラペット 軒鼻・バルコニー壁	仕上：アクリルリシン吹付（下地材共除去） 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し（全面下地調整材左官塗り）
③	物置外壁	仕上：アクリルリシン吹付（下地材共除去） 下地：PC板（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し（全面下地調整材左官塗り）
④	軒裏	仕上：アクリルリシン吹付（下地材共除去） 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し（全面下地調整材左官塗り）
⑤	庇裏	仕上：アクリルリシン吹付（下地材共除去） 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し（全面下地調整材左官塗り）
⑥	バルコニー天井	仕上：アクリルリシン吹付（下地材共除去） 下地：コンクリート打放し（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し（全面下地調整材左官塗り）
⑦	バルコニー床	仕上：防水モルタル金コテ（高圧水洗浄）	ポリマーセメント系塗膜防水
⑧	窓台	仕上：防水モルタル金コテ（高圧水洗浄）	ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）
⑩	面台 庇（上部分・見付・小口）	仕上：防水モルタル金コテ（高圧水洗浄）	ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）
⑪	バルコニー・窓手すり	鋼製（下地処理）	DP塗替え
⑫	隔て板	鋼製（下地処理） 大平板（撤去処分）	DP塗替え ケイカル板．t＝6.0　DP塗装（新設）
	物干し金物 物干し金物（3-1号棟1階）	鋼製（下地処理） 横収納型（撤去処分）1ヶ所	DP塗替え 横収納型（SK-45LSB-WC）（新設）1ヶ所
⑭	分電盤等	焼付塗装（下地処理）	DP塗替え
⑮	縦樋（北側）	塩化ビニールパイプ（撤去処分）	カラーVPφ100に取替　掴み金物共（SUS）（新設）
⑯	保護管	SGP125φ（撤去処分）	SGP125φDP塗装　掴み金物共（SUS）（新設）
⑰	縦樋（バルコニー側）	塩化ビニールパイプ	カラーVPφ100に取替　掴み金物共（SUS）（新設）
⑱	スロープ：床 スロープ：鋼製手摺	モルタル金コテ目地切（高圧水洗浄） 鋼製（下地処理）（１ヶ所のみ）	ノンスリップ塗装 DP塗替え
⑲	棟番号表示	鋼製SOP　2ヶ所　600×300（撤去処分）	鋼製ｔ＝9.0　DP　2ヶ所　600×300（新設）
⑳	3-1号棟　階数表示板、室名札 3-2号棟　階数表示板、室名札	階数表示　3ヶ所、室名札　6ヶ所（撤去処分） 階数表示　8ヶ所、室名札　16ヶ所（撤去処分	階数表示板（SK600A）3ヶ所、室名札（SK-602W-2）　6ヶ所 階数表示板（SK600A）8ヶ所、室名札（SK-602W-2）16ヶ所
㉑	階段室	壁、階段裏コンクリート打ち放しの上アクリルリシン吹付（下地材共除去） 腰壁　モルタル金コテの上ＥＰＡ（ケレン）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：コンクリート打放し（全面下地調整材左官塗り）
㉒	階段室天井	大平板　t＝5.0　アクリルリシン吹付 （下地材共除去）	複層塗材E吹付

※アスベストを含有する既存アクリルリシン吹付（下地材（フィラー）共）除去に際しての工法は
コンステックAGバブルシステム工法同等とする。

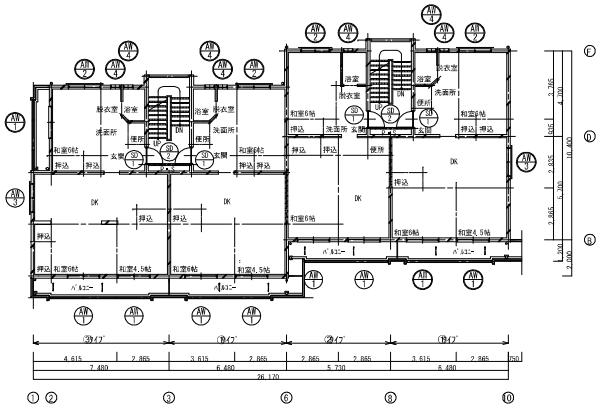
特記事項	訂正事項

一級建築士事務所　広島県知事登録17（１）第0497号

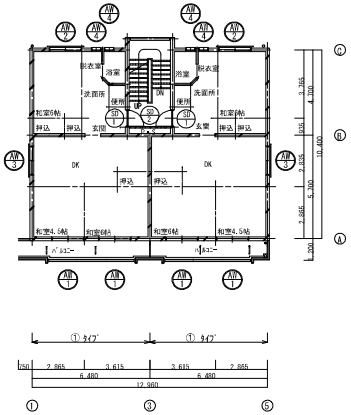
岡田建築設計事務所

一級建築士　第102449号　岡田文夫

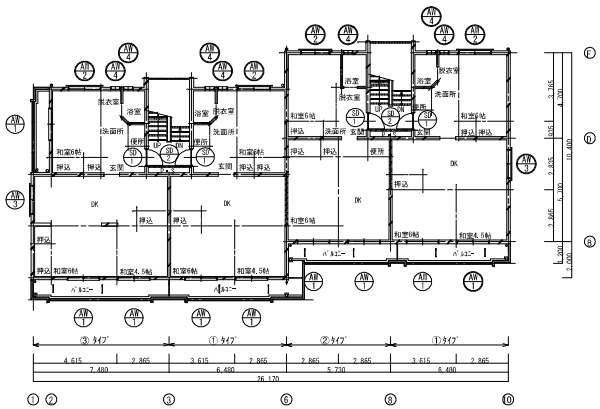
JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率
	2020.01.	1/30	小西住宅３号棟外壁改修工事	A / 19	A-2：100%
CH.	PL.	DR.	NAME		A-3：71%
			階段詳細図		A-4：50%



（3-2号棟）2・3・4階平面図　S＝1/200

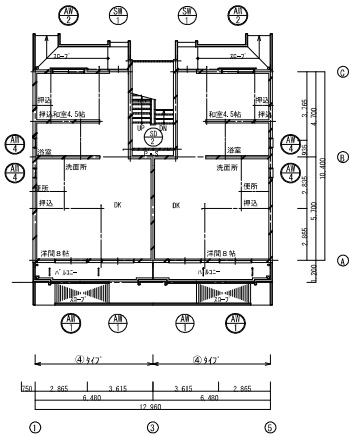


（3-1号棟）2・3階平面図　S＝1/200



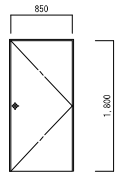
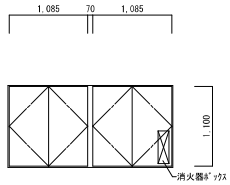
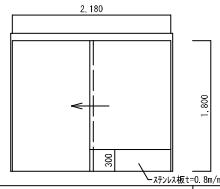
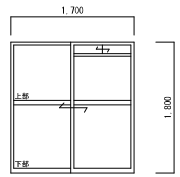
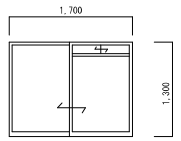
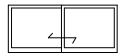
※外部建具：建具周囲シーリング打替（共通）

（3-2号棟）1階平面図　S＝1/200



（3-1号棟）1階平面図　S＝1/200

建具表 S=1/50

符号・名称 位置・数量	SD 1 片開きﾌﾗｯｼｭ戸　玄関			SD 2 2連両開きﾌﾗｯｼｭ戸　階段室　P・S			SW 1 片引き戸（戸袋無）制動機能付き　玄関		
		一般部	延焼の恐れある部分		一般部	延焼の恐れある部分		一般部	延焼の恐れある部分
	3-2号棟	16		3-2号棟	8		3-2号棟		
	3-1号棟	4		3-1号棟	3		3-1号棟	2	
形状									
材質・仕上・枠見込	ｽﾁｰﾙ製　SOP		86	ｽﾁｰﾙ製　SOP		86	ｽﾁｰﾙ製　SOP		85
硝子 上部	一般部	延焼の恐れある部分		一般部	延焼の恐れある部分		一般部	延焼の恐れある部分	
硝子 下部									
金物									
額縁・膳板									
ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ									
沓摺									
備考	下地処理の上両面ＤＰ塗替え（錆止め塗装共）			下地処理の上両面ＤＰ塗替え（錆止め塗装共）			下地処理の上両面ＤＰ塗替え（錆止め塗装共）		
符号・名称 位置・数量	AW 1 引違い戸小窓付(BL)　和室6・4.5帖　洋間6・4.5帖			AW 2 引違い戸小窓付(BL)　和室　6・4.5帖			AW 3 引違窓(BL)　DK		
		一般部	延焼の恐れある部分		一般部	延焼の恐れある部分		一般部	延焼の恐れある部分
	AW 1 3-2号棟	26	10	AW 2 3-2号棟		16	AW 3 3-2号棟	4	4
	AW 1 3-1号棟	2	10	AW 2 3-1号棟		6	AW 3 3-1号棟		4
形状									
材質・仕上・枠見込	ｱﾙﾐ合金押出型材　BL		60	ｱﾙﾐ合金押出型材　BL		60	ｱﾙﾐ合金押出型材　BL		60
硝子 上部	一般部	延焼の恐れある部分		一般部	延焼の恐れある部分		一般部	延焼の恐れある部分	
硝子 上部	ﾄｳﾒｲｶﾞﾗｽ　t=5	網入ﾄｳﾒｲｶﾞﾗｽ　t=6.8		ﾄｳﾒｲｶﾞﾗｽ　t=5	網入ﾄｳﾒｲｶﾞﾗｽ　t=6.8		ﾄｳﾒｲｶﾞﾗｽ　t=5	網入ﾄｳﾒｲｶﾞﾗｽ　t=6.8	
硝子 下部	網入型板ｶﾞﾗｽ　t=6.8	網入型板ｶﾞﾗｽ　t=6.8							
金物									
額縁・膳板									
ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ									
沓摺									
備考	ガラスクリーニング			ガラスクリーニング			ガラスクリーニング		
符号・名称 位置・数量	AW 4 内倒し窓　BL		60	※外部建具：建具周囲シーリング打替（共通）					
		一般部	延焼の恐れある部分						
	AW 4 3-2号棟		28						
	AW 4 3-1号棟		12						
形状									
材質・仕上・枠見込	ｱﾙﾐ合金押出型材　BL		60						
硝子 上部	一般部	延焼の恐れある部分							
硝子 上部		網入型板ｶﾞﾗｽ　t=6.8							
硝子 下部									
金物									
額縁・膳板									
ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ									
沓摺									
備考	ガラスクリーニング								

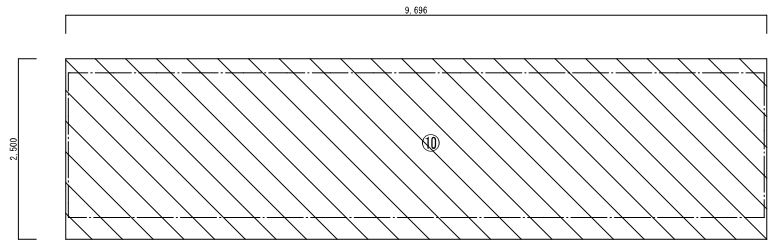
特記事項	訂正事項

一級建築士事務所　広島県知事登録17(1)第0497号

岡田建築設計事務所

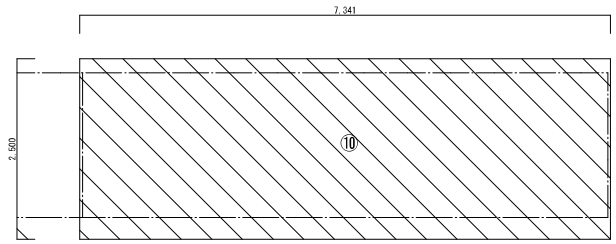
一級建築士　第102449号　岡田文夫

JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率
	2020.01.	1/200	小西住宅3号棟外壁改修工事	A / 20	A-2：100%
CH. / PL. / DR.		1/50	NAME（3-2号棟）建具配置図、建具表 （3-1号棟）建具配置図		A-3：71%
					A-4：50%

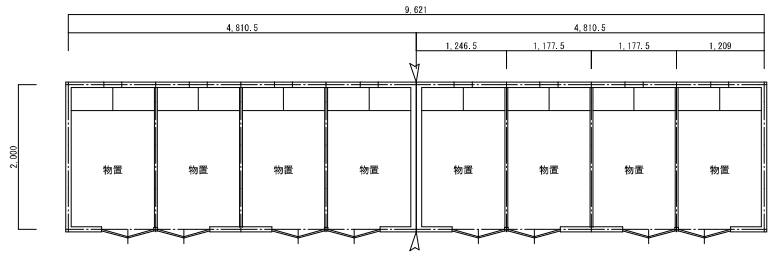


８戸用屋根伏図　S=1/50

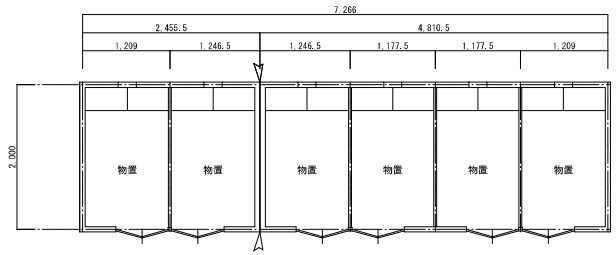
外壁等塗材にアスベスト含有



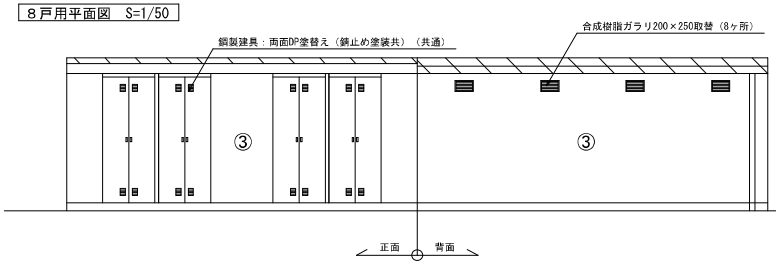
６戸用屋根伏図　S=1/50



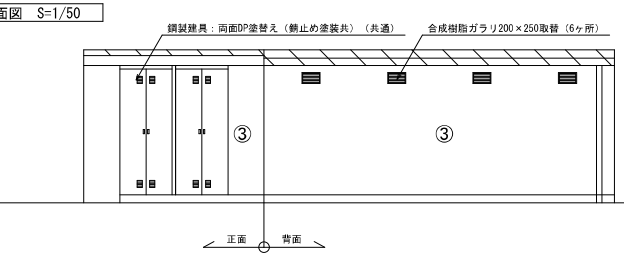
８戸用平面図　S=1/50



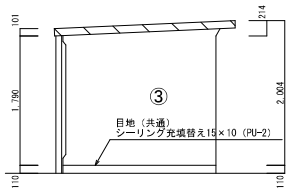
６戸用平面図　S=1/50



８戸用立面図　S=1/50



６戸用立面図　S=1/50



側面図　S=1/50

外部改修仕上表

凡例　赤色で示す箇所はアスベスト含有箇所

番号	部位	改修前	改修後
③	外壁・パラペット 基礎立上り共	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：PC板（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：PC板(全面下地調整材左官塗り)
⑩	物置屋根	仕上：PC板（高圧水洗浄）	ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）

※アスベストを含有する既存アクリルリシン吹付（下地材（フィラー）共）除去に際しての工法は
コンステックAGバブルシステム工法同等とする。

凡　例

シーリング充填位置を示す

特記事項	訂正事項

一級建築士事務所　広島県知事登録17（１）第0497号

岡田建築設計事務所

一級建築士　第102449号　岡田文夫

JOB. NO.	DATE	SCALE
	2020.01.	1/50
CH.	PL. / DR.	

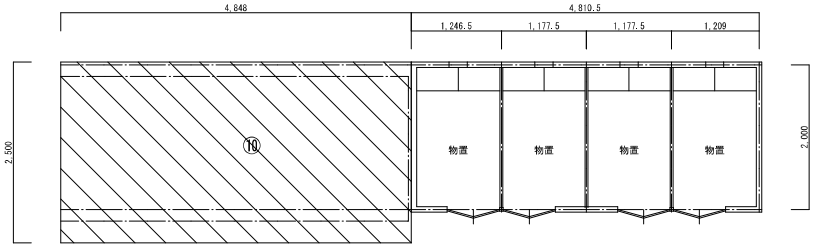
TITLE　小西住宅３号棟外壁改修工事

NAME　（物置　8・6戸用）平面図、屋根伏図、立面図、側面図

NO.　A / 21

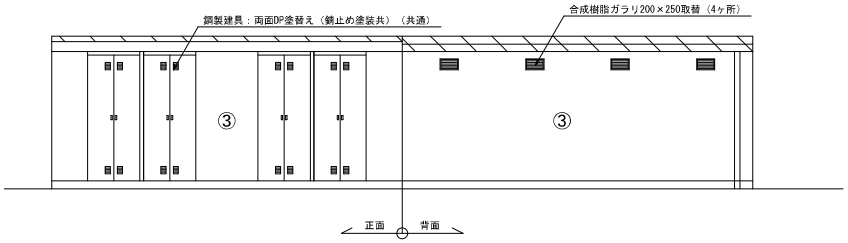
図面縮小率
A-2：100%
A-3：71%
A-4：50%

外壁等塗材にアスベスト含有

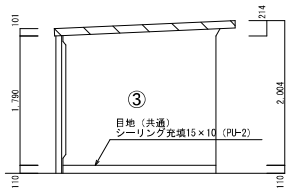


４戸用屋根伏図　S=1/50

８戸用平面図　S=1/50



４戸用立面図　S=1/50



側面図　S=1/50

外部改修仕上表

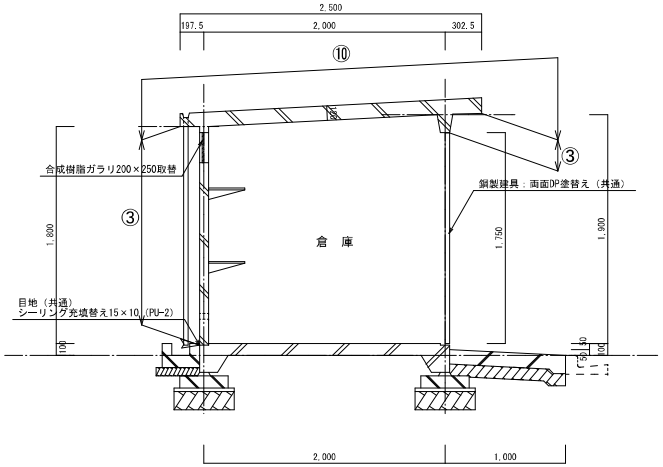
凡例　赤色で示す箇所はアスベスト含有箇所

番号	部位	改修前	改修後
③	外壁・パラペット 基礎立上り共	仕上：アクリルリシン吹付(下地材共除去) 下地：PC板（既設）	仕上：複層塗材E吹付（新設） 下地：PC板(全面下地調整材左官塗り)
⑩	物置屋根	仕上：PC板（高圧水洗浄）	ウレタンゴム系塗膜防水（X-2）

※アスベストを含有する既存アクリルリシン吹付（下地材（フィラー）共）除去に際してのエ法は
コンステックAGバブルシステム工法同等とする。

凡　例

シーリング充填位置を示す



断面詳細図　S=1/50

特記事項	訂正事項

一級建築士事務所　広島県知事登録17（１）第0497号

岡田建築設計事務所

一級建築士　第102449号　岡田文夫

JOB. NO.	DATE	SCALE
	2020.01.	1/50
CH.	PL. / DR.	

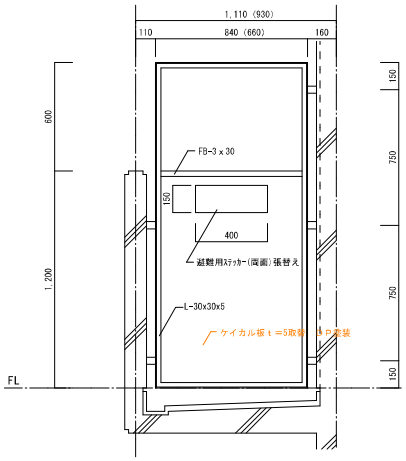
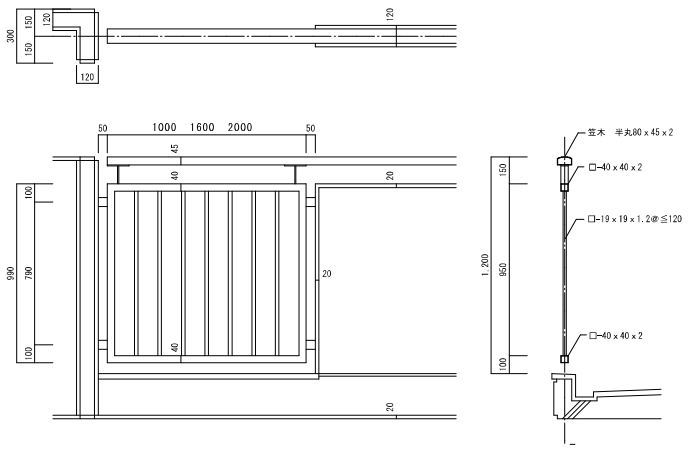
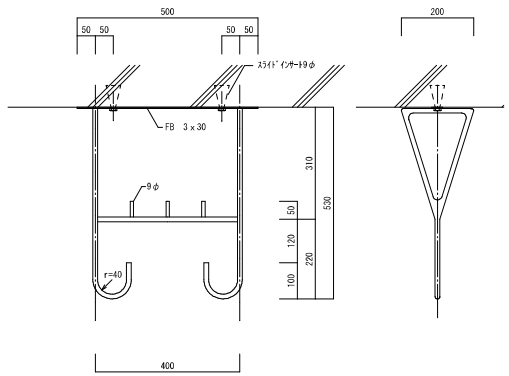
TITLE　小西住宅３号棟外壁改修工事

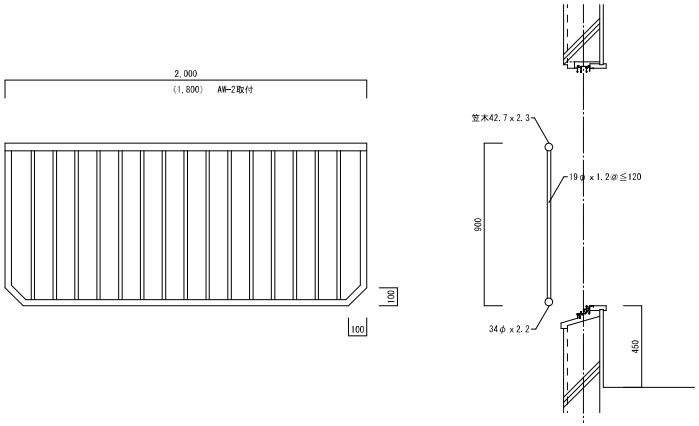
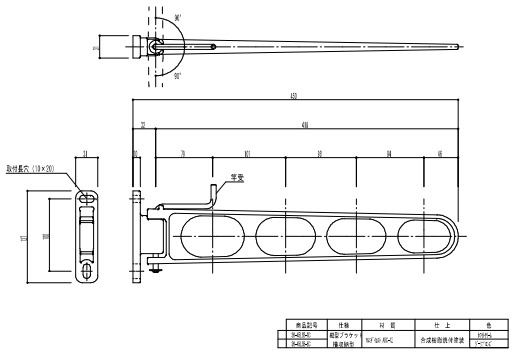
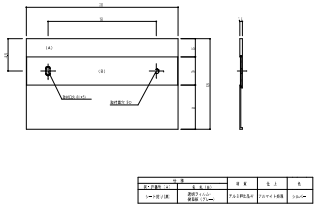
NAME　（物置４戸用）平面図、屋根伏図、立面図、側面図、断面詳細図

NO.　A / 22

図面縮小率
A-2：100%
A-3：71%
A-4：50%

凡例 オレンジ色で示す箇所はアスベスト含有見込み箇所

名称	ﾊﾞﾙｺﾆｰ 隔板 詳細図 S=1/20	ﾊﾞﾙｺﾆｰ手摺 詳細図 S=1/20	物干金物 詳細図 S=1/10
姿図			
場所	バルコニー	バルコニー	バルコニー
箇所数	(3-1号棟) ３ヶ所 (3-2号棟) １４ヶ所	L＝1000 ８ヶ所 L=1600 ３４ヶ所 L=2000 ８ヶ所	２２組
塗装	鉄部 ＤＰ塗装替え 、ケイカル板ｔ＝5.0取替 ＤＰ塗装	鉄部 ＤＰ塗装替え	ＤＰ塗装替え
備考	避難用ステッカー張替え		

名称	北側窓手摺 詳細図 S=1/20	横収納型物干金物 詳細図 S=1/5	室名札 詳細図 S=1/5
姿図			
場所	北側窓	(3-1号棟) 1階	階段室
箇所数	２２組	１組	２２組
塗装	ＤＰ塗装替え		
備考			

商品記号	仕様	M 寸	仕上	色
[illegible]	横型プラケット	W47 D9 H5-C	各種樹脂焼付塗装	[illegible]
[illegible]	横収納型			[illegible]

名称				
表示文字例 ゴ	文 字 (mm)	材 質	仕 上	色
ｺｰﾅｰ文字(黒)	書体ゴシック 高さ50 ゴシック	アルミ押出形材	アルマイト銀色	ｺｸﾛﾑﾒｯｷ

特記事項	訂正事項

一級建築士事務所 広島県知事登録17（１）第0497号

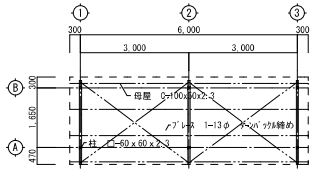
岡 田 建 築 設 計 事 務 所

一級建築士 第102449号 岡田文夫

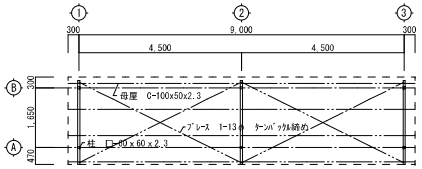
JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE
	2020.01.	1/20 1/10 1/5	小西住宅３号棟外壁改修工事
CH. / PL. / DR.			NAME 隔て板、バルコニー手すり、窓手すり、物干金物、室名札 詳細図

NO. A / 23

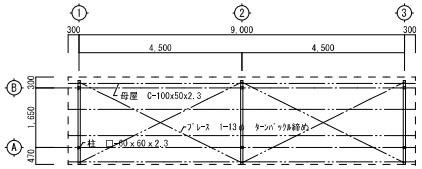
図面縮小率
A-2：100%
A-3： 71%
A-4： 50%



小屋伏図　S=1/100

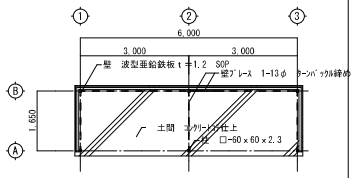


小屋伏図　S=1/100

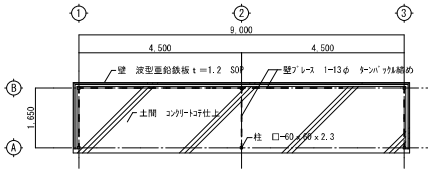


小屋伏図　S=1/100

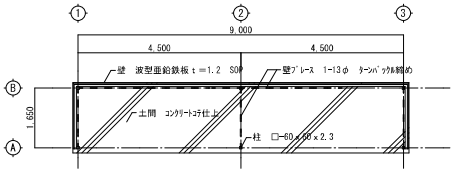
凡例 オレンジ色で示す箇所はアスベスト含有見込み箇所



平面図　S=1/100



平面図　S=1/100

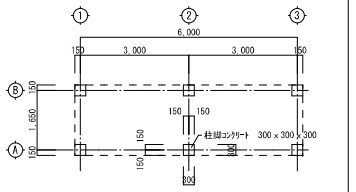


平面図　S=1/100

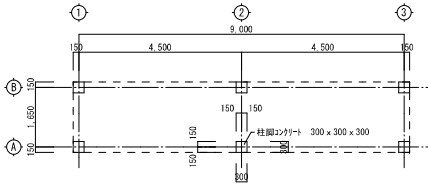
改修内容

部　位	内　容
大波スレート	既設撤去処分の上新設
鉄　部	下地処理の上DP塗装替え
腰　壁	下地処理の上DP塗装替え

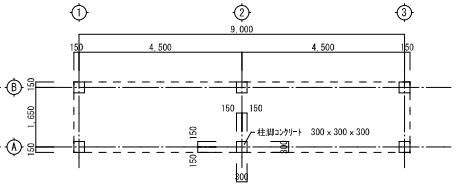
※大波スレートはアスベストを含有する前提（レベル３）で解体・処分する事



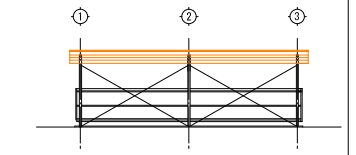
基礎伏図　S=1/100



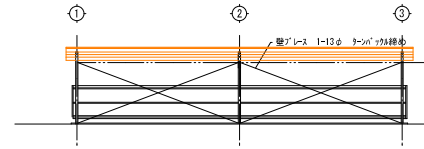
基礎伏図　S=1/100



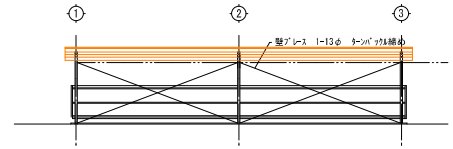
基礎伏図　S=1/100



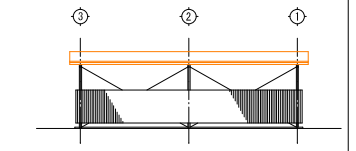
正面立面図　S=1/100



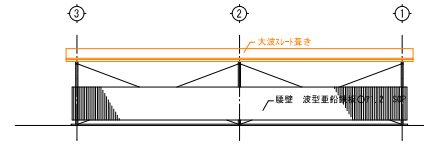
正面立面図　S=1/100



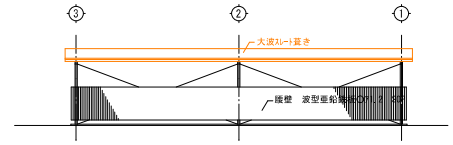
正面立面図　S=1/100



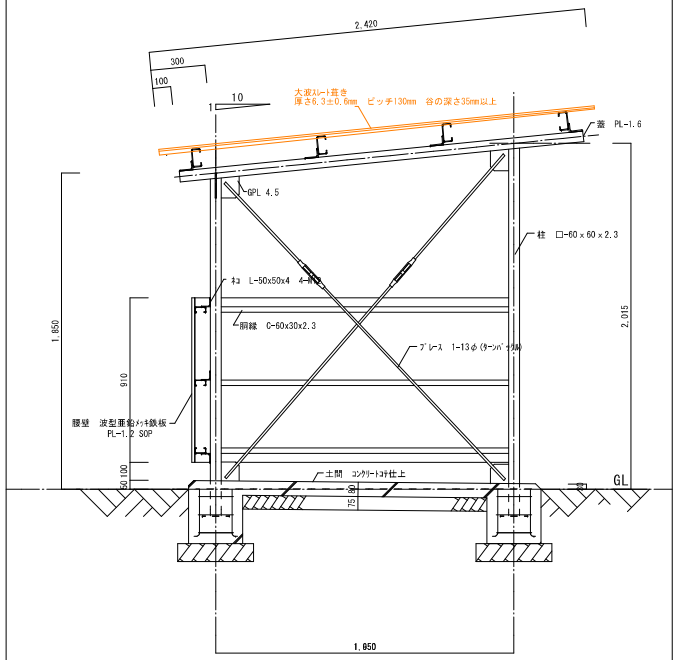
裏面立面図　S=1/100



裏面立面図　S=1/100



裏面立面図　S=1/100



Ⓑ　※ 鉄部は全てDP塗替えとする　Ⓐ

断面図　S=1/20

3-1号棟自転車置場	
床面積	6.00 x 1.65＝9.90㎡
建築面積	

3-2号棟自転車置場	
床面積	（9.00 x 1.65） ×2＝29.7㎡
建築面積	

特記事項	訂正事項

一級建築士事務所　広島県知事登録17（１）第0497号

岡田建築設計事務所

一級建築士　第102449号　岡田文夫

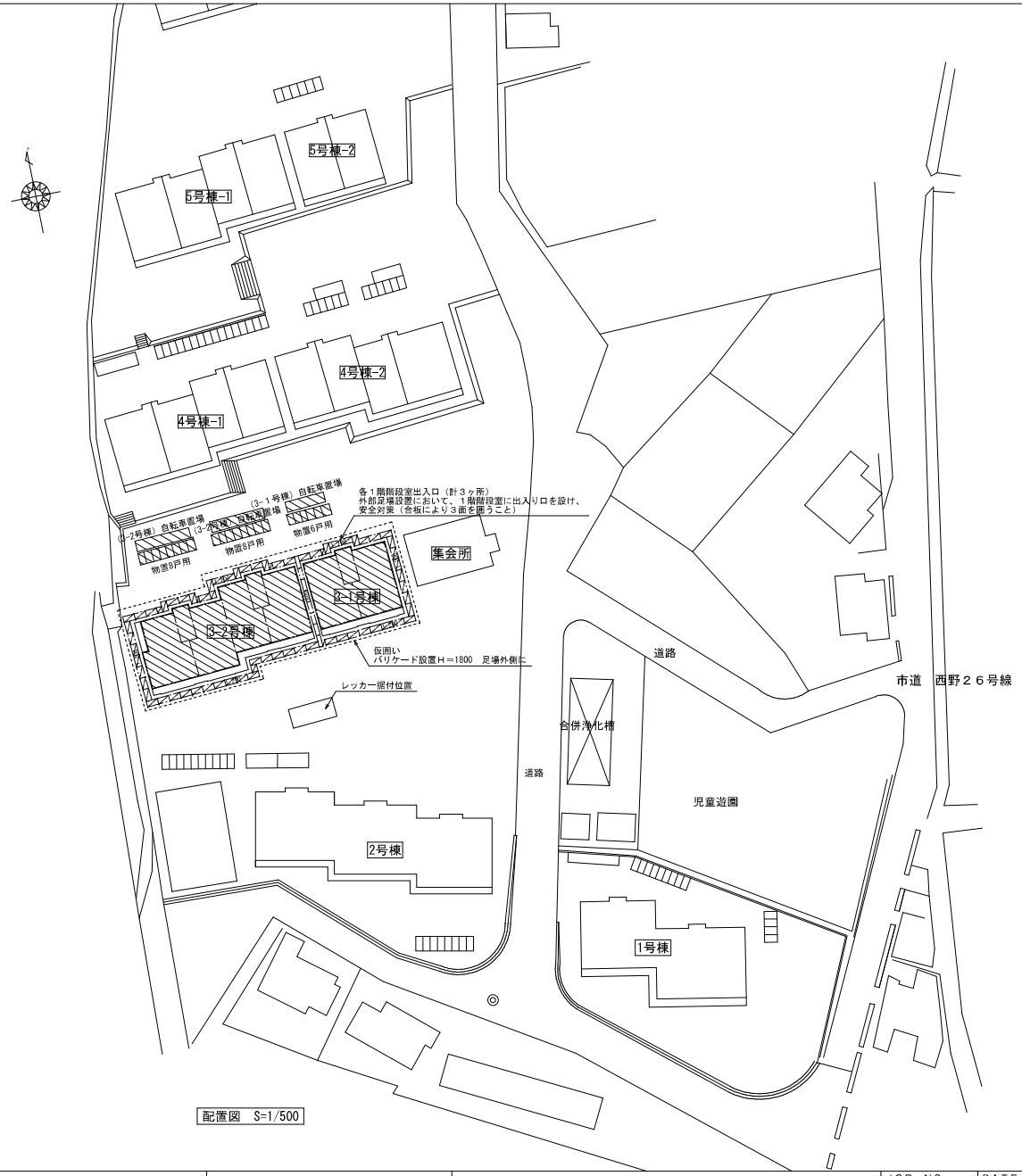
JOB. NO.	DATE	SCALE
	2020.08.	1/100
CH. / PL.	DR.	1/30

TITLE　小西住宅３号棟外壁改修工事

NAME　（自転車置場）　平面図、立面図、詳細図

NO.　A / 24

図面縮小率
A-2：100%
A-3：71%
A-4：50%



配置図　S=1/500

凡例

	枠組本足場　建地幅1,200mm、H=建物の高さ以上、メッシュシート張り
	枠組本足場　建地幅600mm、H=建物の高さ
◎	交通誘導員（誘導員設置ー１箇所）
	既設部分
	工事部分

仮設計画

・現場事務所：小西住宅の空屋 3DK　1戸無償貸与
・資材置き場等については、別途監督員と協議すること。
・上記室の水道・電気・光熱費・ガス、管理費、工事前後のクリーニング費、
　照明器具、掃除用具、トイレットペーパー、食事机・椅子等の備品の費用は、工事請負額に含む。
・工事用車両の駐車については、仮設計画図による他、別途監督員と協議すること。

特記事項	訂正事項		JOB. NO.	DATE	SCALE	TITLE	NO.	図面縮小率
		一級建築士事務所　広島県知事登録17（１）第0497号		2020.01.	1/500	小西住宅３号棟外壁改修工事	A / 25	A-2：100%
		岡田建築設計事務所	CH.	PL.	DR.	NAME 仮設計画図（参考図）		A-3：71%
		一級建築士　第102449号　岡田文夫						A-4：50%

参 考 数 量 書

工　事　名　称　　小西住宅３号棟外壁改修工事

工　事　場　所　　三原市西野四丁目

［工　事　概　要］

用途,構造,面積	集合住宅，鉄筋コンクリート造，延べ面積1,584㎡
工　事　範　囲	建築主体工事
別　途　工　事	無し
工　　期	契約締結日の翌日　～　令和4年2月28日
一　般　事　項	

《 工事予算内訳 》

〈内　　訳〉

区　　分		概　　要
設　計　金　額		
消　費　税　額		
合　計　金　額		

符 号	名　　称	材質	形 状 寸 法	数 量	単 位	単　価	金　額	摘 要
小西住宅３号棟外壁改修工事								
Ⅰ	直接工事							
	計（直接工事費）			1	式			
	共通仮設費			1	式			
	計（純工事費）			1	式			
	現場管理費			1	式			
	計（工事原価）			1	式			
	一般管理費			1	式			
	契約保証費			1	式			
	計（工事価格）							
	消費税等相当額			1	式			×0．1
	合　計							

工事種別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
建築工事	1	式		
計				

建築工事　種目別内訳

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
3-1号棟	1	式		
3-2号棟	1	式		
外壁アスベスト除去	1	式		
計				

建築工事　科目別内訳

3-1号棟

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
外壁改修工事	1	式		
ベランダ防水工事	1	式		
物置屋根、外壁改修工事	1	式		
自転車置場改修工事	1	式		
手すり等改修工事	1	式		
竪樋、軒樋取替工事	1	式		
雑工事	1	式		
計				

建築工事　科目別内訳

3-2号棟

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
外壁改修工事	1	式		
ベランダ防水工事	1	式		
物置屋根、外壁改修工事	1	式		
自転車置場改修工事	1	式		
手すり等改修工事	1	式		
竪樋、軒樋取替工事	1	式		
雑工事	1	式		
計				

建築工事　科目別内訳

外壁アスベスト除去

名　　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
3-1号棟 （付属物置を含む）	1	式		
3-2号棟 （付属物置を含む）	1	式		
産業廃棄物処分費	1	式		
計				

建築工事　中科目別内訳

3-1号棟

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
外壁改修工事	直接仮設工事	1	式		
外壁改修工事	外部改修工事	1	式		
外壁改修工事	撤去工事	1	式		
計					
ベランダ防水工事	直接仮設工事	1	式		
ベランダ防水工事	防水工事	1	式		
計					
物置屋根、外壁改修工事	直接仮設工事	1	式		
物置屋根、外壁改修工事	外部改修工事	1	式		
物置屋根、外壁改修工事	撤去工事	1	式		
計					
自転車置場改修工事	直接仮設工事	1	式		
自転車置場改修工事	外部改修工事	1	式		
自転車置場改修工事	塗装工事	1	式		
自転車置場改修工事	撤去	1	式		

建築工事　中科目別内訳

3-1号棟

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
計					
手すり等改修工事	改修工事	1	式		
計					
竪樋、軒樋取替工事	改修工事	1	式		
竪樋、軒樋取替工事	塗装工事	1	式		
竪樋、軒樋取替工事	撤去工事	1	式		
計					
雑工事	雑工事	1	式		
計					

建築工事　中科目別内訳

3-2号棟

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
外壁改修工事	直接仮設工事	1	式		
外壁改修工事	外部改修工事	1	式		
外壁改修工事	撤去工事	1	式		
計					
ベランダ防水工事	直接仮設工事	1	式		
ベランダ防水工事	防水工事	1	式		
計					
物置屋根、外壁改修工事	直接仮設工事	1	式		
物置屋根、外壁改修工事	外部改修工事	1	式		
物置屋根、外壁改修工事	撤去工事	1	式		
計					
自転車置場改修工事	直接仮設工事	1	式		
自転車置場改修工事	外部改修工事	1	式		
自転車置場改修工事	塗装工事	1	式		
自転車置場改修工事	撤去	1	式		

建築工事　中科目別内訳

3-2号棟

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
計					
手すり等改修工事	改修工事	1	式		
計					
竪樋、軒樋取替工事	改修工事	1	式		
竪樋、軒樋取替工事	塗装工事	1	式		
竪樋、軒樋取替工事	撤去工事	1	式		
計					
雑工事	雑工事	1	式		
計					

建築工事　中科目別内訳

外壁アスベスト除去

科　目　名　称	中　科　目　名　称	数　　量	単 位	金　　額	備　　考
3-1号棟 （付属物置を含む）	直接仮設費	1	式		
3-1号棟 （付属物置を含む）	外壁アスベスト除去	1	式		
計					
3-2号棟 （付属物置を含む）	直接仮設費	1	式		
3-2号棟 （付属物置を含む）	外壁アスベスト除去	1	式		
計					
産業廃棄物処分費	3-1号棟	1	式		
産業廃棄物処分費	3-2号棟	1	式		
計					

建築工事　細目別内訳

3-1号棟	外壁改修工事	直接仮設工事				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
養生	外部改修	132	㎡			
整理清掃後片付け	外壁改修	132	㎡			
外部足場	幅1200	414	㎡			
外部足場	幅600	66.2	㎡			
安全手すり		44.2	m			
階段足場		31.3	㎡			
養生シート		407	㎡			
開口部養生	窓廻り	77.9	㎡			
出入口養生	合板張り	13.7	㎡			
バリケード		45.5	m			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟	外壁改修工事			外部改修工事		
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
劣化部分改修	ひび割れ　B-1	2	m			
劣化部分改修	打放し面・錆鉄筋　C-1	3.6	㎡			
根回り高圧水洗浄	既存ﾓﾙﾀﾙ面	22.6	㎡			
壁　下地補修ポリマーセメントモルタル薄塗	既存ﾓﾙﾀﾙ面	46.6	㎡			
壁　下地補修ポリマーセメントモルタル薄塗	既存打放し面	538	㎡			
上裏　下地補修ポリマーセメント薄塗	既存打放し面	107	㎡			
防水改修面　高圧水洗浄	既存防水ﾓﾙﾀﾙ面	20.9	㎡			
スロープ床　高圧水洗浄	既存モルタル面	30.7	㎡			
壁　ｹﾚﾝ清掃	既存ﾓﾙﾀﾙ面　塗装面	46.6	㎡			
下地処理	鋼製建具	57.4	㎡			
下地処理	分電盤等	2.8	㎡			
下地処理	細幅物　電気配管等	23.4	m			
ｶﾞﾗｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ		56.3	㎡			
塗膜防水	ウレタンゴム系　X-2	26.1	㎡			
外壁目地シーリング	15×10　PU-2	203	m			

建築工事　細目別内訳

3-1号棟	外壁改修工事	外部改修工事				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
建具周囲ｼｰﾘﾝｸﾞ	10×10　MS-2	218	m			
EXP・Jｼｰﾘﾝｸﾞ	50×20　PU-2	6.9	m			
DP塗装	鋼製建具面	57.4	㎡			
DP塗装	鉄部面	2.8	㎡			
DP塗装	鉄部面　細幅物	23.4	m			
複層塗材E吹付	打放面	645	㎡			
複層塗材E吹付	モルタル面	46.6	㎡			
スロープ床ノンスリップ塗装	モルタル面	30.7	㎡			
階段表示板	SK600A	3	か所			
室名札	SK-600AW-2	6	か所			
棟番号表示	鋼製　t=9.0 DP 600×300	1	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟	外壁改修工事	撤去工事				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去		428	m			
既存階数表示板撤去		3	か所			
既存室名札撤去		6	か所			
棟番号表示撤去	鋼製T=9.0 SOP 600×300　積込共	1	か所			
発生材運搬	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ　積込共	0.06	m3			
発生材処分	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	120	kg			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟	ベランダ防水工事			直接仮設工事		
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
養生	屋根防水改修	49.6	㎡			
整理清掃後片付け	屋根防水改修	49.6	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟	ベランダ防水工事				防水工事	
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
防水改修面　高圧水洗浄	既存防水ﾓﾙﾀﾙ面	59	㎡			
塗膜防水	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ系	59	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟	物置屋根、外壁改修工事	直接仮設工事				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
養生	外壁改修	38	㎡			
整理清掃後片付け	外壁改修	38	㎡			
外部足場	脚立足場	26.5	㎡			
養生ｼｰﾄ		47.8	㎡			
開口部養生	窓廻り	7.6	㎡			
ﾊﾞﾘｹｰﾄﾞ		26.5	m			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟　　物置屋根、外壁改修工事　　外部改修工事

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
屋根　高圧水洗浄	8Mpa 既存PC板面	23.4	㎡			
壁　下地補修ポリマーセメント薄塗	8Mpa 既存PC板面	27.3	㎡			
下地処理	鋼製建具	22.8	㎡			
塗膜防水	X-2 ウレタンゴム系	23.4	㎡			
外壁目地シーリング	PU-2 15×10	18.3	m			
DP塗装	鋼製建具面	22.8	㎡			
複層塗装E吹付	ﾓﾙﾀﾙ面	27.3	㎡			
換気ｶﾞﾗﾘ	合成樹脂製　200×250	6	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟　　物置屋根、外壁改修工事　　撤去工事

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去		18.3	m			
既存換気ｶﾞﾗﾘ撤去	200×250	6	か所			
発生材運搬	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ　積込共	0.01	m3			
発生材処分	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	22	kg			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟	自転車置場改修工事	直接仮設工事				
名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
養生	外壁改修	23.2	㎡			
整理清掃後片付け	外壁改修	23.2	㎡			
外部足場	脚立足場	23.2	㎡			
ﾊﾞﾘｹｰﾄﾞ		24	m			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟	自転車置場改修工事	外部改修工事				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
屋根大波ｽﾚｰﾄ葺き	厚さ6.3±0.6mm　ピッチ130mm 谷の深さ35mm以上　材工共	23.2	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟	自転車置場改修工事	塗装工事				
名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
DP塗装	鉄部面	73	㎡			
下地処理	鉄部面	73	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟	自転車置場改修工事	撤去				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
屋根ｽﾚｰﾄ葺き撤去	８尺	23.2	㎡			
発生材運搬	ｽﾚｰﾄ　積込共	0.21	m3			
発生材処分	ｽﾚｰﾄ アスベスト含有見込み 安定型最終処分場	366	kg			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟	手すり等改修工事			改修工事		
名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
下地処理	鋼製手すり	31.5	㎡			
下地処理	隔板枠	3	㎡			
下地処理	物干金物	1.4	㎡			
下地処理	吊金物	2	か所			
下地処理	棟番号表示	1	か所			
DP塗装	鋼製手すり	31.5	㎡			
DP塗装	隔板枠	3	㎡			
DP塗装	物干金物	1.4	㎡			
DP塗装	吊金物	2	か所			
DP塗装	棟番号表示	1	か所			
DP塗装	ｹｲｶﾙ板面	9.1	㎡			
隔板取替え	厚5.0　ｹｲｶﾙ板	4.5	㎡			
避難用ｽﾃｯｶｰ		6	か所			
物干金物	横収納型（SK-45　LSB-WC）	1	組			
既存ｹｲｶﾙ板撤去		4.5	㎡			

建築工事　細目別内訳

3-1号棟	手すり等改修工事			改修工事		
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
物干し金物撤去	横収納型	1	組			
発生材運搬	不燃ﾎﾞｰﾄﾞ　積込共 アスベスト含有見込み	0.02	m3			
発生材処分	不燃ﾎﾞｰﾄﾞ アスベスト含有見込み	2.4	kg			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟　　竪樋、軒樋取替工事　　改修工事

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
縦樋	ｶﾗｰ塩ビ製　VP100φ SUS掴み金物共	38	m			
保護管	SGP125A L1600 SUS掴み金物共	2	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟	竪樋、軒樋取替工事			塗装工事		
名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
DP塗装	鋼管面	1.4	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟　　竪樋、軒樋取替工事　　撤去工事

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
縦樋撤去	塩ビ製　100φ	38	m			
保護管撤去	SGP125A L1600	2	か所			
発生材運搬	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	0.07	m3			
発生材処分	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	122	kg			
発生材処分	金属くず	46	kg			
計						

建築工事　細目別内訳

3-1号棟	雑工事	雑工事				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｴｱｺﾝ室外機	一時移転再取付　施工後作動確認	3	か所			
既存BSアンテナ	一時移転再取付	1	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟	外壁改修工事	直接仮設工事				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
養生	外部改修	244	㎡			
整理清掃後片付け	外壁改修	244	㎡			
外部足場	幅1200	897	㎡			
外部足場	幅600	116	㎡			
安全手すり		88.3	㎡			
階段足場		84.2	㎡			
養生シート		883	㎡			
開口部養生	窓廻り	204	㎡			
出入口養生	合板張り	27.4	㎡			
バリケード		76.2	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟	外壁改修工事	外部改修工事				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
劣化部分改修	ひび割れ　B-1	13.5	m			
劣化部分改修	ﾓﾙﾀﾙ浮き・ﾓﾙﾀﾙ斫り・ﾓﾙﾀﾙこて	9.7	㎡			
劣化部分改修	打放し面・錆鉄筋　C-1	17.9	㎡			
根回り高圧水洗浄	既存ﾓﾙﾀﾙ面	49.6	㎡			
壁　下地補修ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ薄塗	既存ﾓﾙﾀﾙ面	127	㎡			
壁　下地補修ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ薄塗	既存打放し面	1,125	㎡			
上裏　下地補修ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ薄塗	既存打放し面	297	㎡			
防水改修面　高圧水洗浄	既存防水ﾓﾙﾀﾙ面	49	㎡			
壁　ｹﾚﾝ清掃	既存ﾓﾙﾀﾙ面　塗装面	127	㎡			
下地処理	鋼製建具	122	㎡			
下地処理	分電盤等	2.6	㎡			
下地処理	細幅物　電気配管等	16.7	m			
ｶﾞﾗｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ		159	㎡			
塗膜防水	ウレタンゴム系　X-2	49	㎡			
外壁目地シーリング	15×10　PU-2	328	m			

建築工事　細目別内訳

3-2号棟	外壁改修工事	外部改修工事				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
建具周囲ｼｰﾘﾝｸﾞ	10×10　MS-2	575	m			
DP塗装	鋼製建具面	122	㎡			
DP塗装	鉄部面	2.6	㎡			
DP塗装	鉄部面　細幅物	16.7	m			
複層塗材E吹付	打放面	1,423	㎡			
複層塗材E吹付	モルタル面	127	㎡			
階段表示板	SK600A	8	か所			
室名札	SK-600AW-2	16	か所			
棟番号表示	鋼製　t=9.0 DP 600×300	1	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟	外壁改修工事	撤去工事				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
コンクリートカッター		8.5	m			
モルタル斫り		9.7	㎡			
ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去		903	m			
既存階数表示板撤去		8	か所			
既存室名札撤去		16	か所			
棟番号表示撤去	鋼製T=9.0 SOP 600×300	1	か所			
発生材運搬	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ　積込共	0.12	m3			
発生材処分	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	236	kg			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟	ベランダ防水工事			直接仮設工事		
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
養生	屋根防水改修	156	㎡			
整理清掃後片付け	屋根防水改修	156	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟	ベランダ防水工事				防水工事	
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
防水改修面　高圧水洗浄	既存防水ﾓﾙﾀﾙ面	178	㎡			
塗膜防水	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ系	178	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟　　物置屋根、外壁改修工事　　直接仮設工事

名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
養生	外壁改修	94.8	㎡			
整理清掃後片付け	外壁改修	94.8	㎡			
外部足場	脚立足場	62.5	㎡			
養生ｼｰﾄ		112	㎡			
開口部養生	窓廻り	20.2	㎡			
ﾊﾞﾘｹｰﾄﾞ		62.5	m			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟　　物置屋根、外壁改修工事　　外部改修工事

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
屋根　高圧水洗浄	8Mpa 既存PC板面	103	㎡			
壁　下地補修ポリマーセメント薄塗	8Mpa 既存PC板面	66.6	㎡			
下地処理	鋼製建具	60.7	㎡			
塗膜防水	X-2 ウレタンゴム系	61.2	㎡			
外壁目地シーリング	PU-2 15×10	43.1	m			
DP塗装	鋼製建具面	60.7	㎡			
複層塗装E吹付	ﾓﾙﾀﾙ面	66.6	㎡			
換気ｶﾞﾗﾘ	合成樹脂製　200×250	16	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟　　物置屋根、外壁改修工事　　撤去工事

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去		43.1	m			
既存換気ｶﾞﾗﾘ撤去	200×250	16	か所			
発生材運搬	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ　積込共	0.03	m3			
発生材処分	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	66	kg			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟	自転車置場改修工事			直接仮設工事		
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
養生	外壁改修	32	㎡			
整理清掃後片付け	外壁改修	32	㎡			
外部足場	脚立足場	32	㎡			
ﾊﾞﾘｹｰﾄﾞ		32	m			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟　　自転車置場改修工事　　外部改修工事

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
屋根大波ｽﾚｰﾄ葺き	厚さ6.3±0.6mm　ピッチ130mm 谷の深さ35mm以上　材工共	32	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟	自転車置場改修工事	塗装工事				
名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
DP塗装	鉄部面	112	㎡			
下地処理	鉄部面	112	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟	自転車置場改修工事	撤去				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
屋根ｽﾚｰﾄ葺き撤去		32	㎡			
発生材運搬	ｽﾚｰﾄ　積込共	0.28	m3			
発生材処分	ｽﾚｰﾄ アスベスト含有見込み 安定型最終処分場	532	kg			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟	手すり等改修工事			改修工事		
名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
下地処理	鋼製手すり	129	㎡			
下地処理	隔板枠	11.7	㎡			
下地処理	物干金物	3.6	㎡			
下地処理	吊金物	4	か所			
下地処理	棟番号表示	1	か所			
DP塗装	鋼製手すり	129	㎡			
DP塗装	隔板枠	11.7	㎡			
DP塗装	物干金物	3.6	㎡			
DP塗装	吊金物	4	か所			
DP塗装	棟番号表示	1	か所			
DP塗装	ｹｲｶﾙ板面	33.7	㎡			
隔板取替え	厚5.0　ｹｲｶﾙ板	16.9	㎡			
避難用ｽﾃｯｶｰ		24	か所			
物干し金物	新設	0	か所			
既存ｹｲｶﾙ板撤去		16.9	㎡			

建築工事　細目別内訳

3-2号棟	手すり等改修工事			改修工事		
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
発生材運搬	不燃ﾎﾞｰﾄﾞ　積込共 アスベスト含有見込み	0.08	m3			
発生材処分	不燃ﾎﾞｰﾄﾞ アスベスト含有見込み	8.8	kg			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟　　竪樋、軒樋取替工事　　改修工事

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
縦樋	ｶﾗｰ塩ビ製　VP100φ	104	m			
保護管	SGP125A L1600　SUS掴み金物共	4	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟	竪樋、軒樋取替工事			塗装工事		
名　称	摘　要	数　量	単 位	単　価	金　額	備　考
DP塗装	鋼管面	2.8	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟	竪樋、軒樋取替工事	撤去工事				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
縦樋撤去	塩ビ製	104	m			
保護管撤去	SGP125A L1600	4	か所			
発生材運搬	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	0.18	m3			
発生材処分	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	333	kg			
発生材処分	金属くず	93	kg			
計						

建築工事　細目別内訳

3-2号棟	雑工事	雑工事				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
ｴｱｺﾝ室外機	一時移転再取付　施工後作動確認	11	か所			
既存BSアンテナ	一時移転再取付	2	か所			
計						

建築工事　細目別内訳

外壁アスベスト除去　　3-1号棟（付属物置を含む）　　直接仮設費

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
床養生 最下段部	プラスチックシート（厚0.15以上） 二重+吸水シート	119	㎡			
床養生 足場上	プラスチックシート（厚0.15mm以上 ）一重	595	㎡			
壁・開口養生	プラスチックシート（厚0.08mm以上 ）一重	960	㎡			
壁・開口養生	プラスチックシート（厚0.08mm以上 ）一重	119	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

外壁アスベスト除去　　3-1号棟（付属物置を含む）　　外壁アスベスト除去

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
外壁塗材撤去（下地調整剤共）	AGバブルシステム	755	㎡			
AGバブルシステム機械設置解体費	以下コンプレッサーまで3-1号棟以外の建物の分を含む	1	式			
AGバブルシステム機械運搬費	4tユニック　燃料費共	3	車			
AGバブルシステム設置箇所屋根設置	W5.0×L5.0×H3.0程度（単管・コンパネ）	1	式			
発電機	45KVA燃料・運搬費共	1	式			
コンプレッサー	7.5馬力　アフタークーラー付き燃料・運搬費とも	1	式			
カバーアップ剤散布	除去面	755	㎡			
廃石綿密封処理	二重梱包（除去塗材・床養生材とも）	1	式			
清掃費	施工区画２回清掃	714	㎡			
消耗品費	手袋・マスク等	755	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

外壁アスベスト除去　　3-2号棟（付属物置を含む）　　直接仮設費

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
床養生 最下段部	プラスチックシート（厚0.15以上） 二重+吸水シート	187	㎡			
床養生 足場上	プラスチックシート（厚0.15mm以上 ）一重	1,306	㎡			
壁・開口養生	プラスチックシート（厚0.08mm以上 ）一重	1,520	㎡			
壁・開口養生	プラスチックシート（厚0.08mm以上 ）一重	186	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

外壁アスベスト除去　　3-2号棟（付属物置を含む）　　外壁アスベスト除去

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
外壁塗材撤去（下地調整剤共）	AGバブルシステム	1,699	㎡			
カバーアップ剤散布	除去面	1,699	㎡			
廃石綿密閉処理	二重梱包（除去塗材・床養生材とも）	1	式			
清掃費	施工区画２回清掃	1,493	㎡			
消耗品費	手袋・マスク等	1,699	㎡			
計						

建築工事　細目別内訳

外壁アスベスト除去	産業廃棄物処分費	3-1号棟				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
運搬費	4t（1車-8㎥）	2	台			
処分費	養生材とも 安定型最終処分場	9.5	㎥			
計						

建築工事　細目別内訳

外壁アスベスト除去	産業廃棄物処分費	3-2号棟				
名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
運搬費	4t（1車-8㎥）	3	台			
処分費	養生材とも 安定型最終処分場	21	㎥			
計						

共通仮設費(積上)　明細

名　　称	摘　　要	数　　量	単 位	単　　価	金　　額	備　　考
交通誘導員		75	人			
粉塵濃度測定費 処理作業中	作業所内の作業員近傍	2	か所			
粉塵濃度測定費 処理作業中	AGバブルシステム装置の排気口近傍	2	か所			
粉塵濃度測定費 処理作業後 （養生撤去前）	作業所内の作業員近傍	2	か所			
広島県工事中情報 共有システム		1	式			
アスベスト分析試 料採取		1	式			
同上交通費		1	式			
同上分析費		1	検体			
計						